

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治	1学期	1	2	1
	PLS110F 小林 道彦	1年			
	異文化理解の基礎	1学期	1	2	2
	ANT110F 神原 ゆうこ	1年			
	ことばの科学	1学期	1	2	3
	LIN110F 漆原 朗子	1年			
	国際学入門	1学期	1	2	4
	IRL100F 伊野 憲治	1年			
	生活世界の哲学	1学期	1	2	5
	PHR110F 伊原木 大祐	1年			
	日本の防衛	1学期	1	2	6
	PLS111F 戸蒔 仁司	1年			
	生命と環境	1学期	1	2	7
	BIO100F 日高 京子	1年			
	情報社会への招待	2学期	1	2	8
	INF100F 中尾 泰士	1年			
	環境問題概論	1学期	1	2	9
	ENV100F 廣川 祐司	1年			
	可能性としての歴史	2学期	2	2	
HIS200F 未開講	2年				
現代社会と文化	2学期	2	2		
ANT210F 未開講	2年				
言語と認知	1学期	2	2		
LIN210F 未開講	2年				
共生社会論	2学期	2	2		
SOW200F 未開講	2年				
共同体と身体	2学期	2	2		
PHR210F 未開講	2年				
戦争論	2学期	2	2		
PLS210F 未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会		2	2	
	BIO200F 未開講	2年			
	情報社会を読む		2	2	
	INF200F 未開講	2年			
	地域資源管理論		2	2	
	ENV200F 未開講	2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	10
	GES101F 伊野 憲治 他	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	11
	GES101F 日高 京子	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	12
	GES101F 小林 道彦	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	13
	GES101F 神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	14
	GES101F 徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	15
	GES101F 稲月 正	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	16
	GES101F 廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー)	1学期	1	2	17
	GES101F 戸蔭 仁司	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	18
	GES101F 伊原木 大祐	1年			
教養基礎演習I	1学期	1	2	19	
GES101F 二宮 正人	1年				
教養基礎演習I	1学期	1	2	20	
GES101F 高西 敏正	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	21	
GES102F 伊野 憲治 他	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II GES102F 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	22
	1年				
	教養基礎演習II GES102F 日高 京子	2学期	1	2	23
	1年				
	教養基礎演習II GES102F 小林 道彦	2学期	1	2	24
	1年				
	教養基礎演習II GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	25
	1年				
	教養基礎演習II GES102F 徳永 政夫	2学期	1	2	26
	1年				
	教養基礎演習II GES102F 廣川 祐司	2学期	1	2	27
	1年				
	教養基礎演習II (防衛セミナー) GES102F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	28
	1年				
教養基礎演習II GES102F 伊原木 大祐	2学期	1	2	29	
1年					
教養基礎演習II GES102F 高西 敏正	2学期	1	2	30	
1年					
教養演習 A I GES201F 未開講	1学期	2	2		
2年					
教養演習 A I GES201F 未開講	1学期	2	2		
2年					
教養演習 A I GES201F 未開講	1学期	2	2		
2年					
教養演習 A I GES201F 未開講	1学期	2	2		
2年					
教養演習 A I (防衛セミナー) GES201F 未開講	1学期	2	2		
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I	1学期	2	2	
	GES201F 未開講	2年			
	教養演習 A I	1学期	2	2	
	GES201F 未開講	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	
	GES202F 未開講	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	
	GES202F 未開講	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	
	GES202F 未開講	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	
	GES202F 未開講	2年			
	教養演習 A II (防衛セミナー)	1学期	2	2	
	GES202F 未開講	2年			
	教養演習 A II	2学期	2	2	
	GES202F 未開講	2年			
	教養演習 B I	1学期	3	2	
	GES301F 未開講	3年			
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				
教養演習 B I (防衛セミナー)	1学期	3	2		
GES301F 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ GES301F 未開講	1学期	3	2	3年
	教養演習BⅠ GES301F 未開講	1学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
	教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年
教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年	
教養演習BⅡ(防衛セミナー) GES302F 未開講	1学期	3	2	3年	
教養演習BⅡ GES302F 未開講	2学期	3	2	3年	
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	31
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	32
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	33
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	34
1年					
暮らしと化学 CHM001F 秋貞 英雄	1学期	1	2	35	
1年					
現代人のこころ PSY003F 松尾 太加志 他	1学期	1	2	36	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代人のこころ PSY003F 森永 今日子	1学期	1	2	37
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	38
	1年				
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子	2学期	1	2	39
	1年				
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他	1学期	1	2	40
	1年				
	私たちと宗教 PHR006F 関 一敏	2学期	1	2	41
	1年				
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	42
	1年				
	文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	2学期	1	2	43
	1年				
	言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子 他	2学期	1	2	44
	1年				
	芸術と人間 PHR001F 花田 伸一	2学期	1	2	45
	1年				
	文学を読む LIT001F 岩本 真理子 他	2学期	1	2	46
1年					
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	47	
1年					
民主主義とは何か PLS002F 中道 壽一	1学期	1	2	48	
1年					
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	49	
1年					
政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	50	
1年					
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	51	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ジェンダー論 GEN001F カ武 由美	1学期	1	2	52
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	53
	1年				
	共生の作法 LAW001F 二宮 正人 他	1学期	1	2	54
	1年				
	法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭 他	2学期	1	2	55
	1年				
	社会調査 SOC003F 叶堂 隆三	2学期	1	2	56
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	57
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	58
	1年				
	現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	59
	1年				
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	60
	1年				
都市と地域 RDE002F 伊藤 解子 他	1学期	1	2	61	
1年					
現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	62	
1年					
開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	63	
1年					
グローバル化する経済 ECN001F 前田 淳 他	1学期	1	2	64	
1年					
テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	65	
1年					
国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	1学期	1	2	66	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本 IRL004F 金 鳳珍	2学期	1	2	67
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	68
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期	1	2	69
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	70
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	71
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 小林 道彦 他	2学期	1	2	72
		1年			
戦後の日本経済 ECN002F 迎 由理男	2学期	1	2	73	
	1年				
ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	74	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	75	
	1年				
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	76	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 内山 一幸	2学期	1	2	77
		1年			
	東洋史 HIS120F 藤野 月子	2学期	1	2	78
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	79
		1年			
人文地理学 GEO110F 外 护保 大介	2学期	1	2	80	
	1年				
土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	81	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	1学期	1	2	82
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	83
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 中島 俊介	2学期	1	2	84
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	85
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	86
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	87
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 高西 敏正	2学期	1	2	88
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	89
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	90
	1年				
	自己管理論 HSS003F 河津 慶太	2学期	1	2	91
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	92
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) HSS081F 磯貝 浩久	1学期	1	1	93
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	94
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	95
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	96
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	97
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	98
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	99
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	100
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	101
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	102
		1年			
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	103	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	104	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	105	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	106	
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	107
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	108
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	109
		1年			
グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 永田 公彦	2学期	1	2	110	
	1年				
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 未開講	1学期	2	2	
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 休講	2学期	2	2	
		2年			
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	2	2	
		2年			
	サービスマーケティング入門I CAR110F 坂本 毅啓	1学期	1	2	111
		1年			
	サービスマーケティング入門II CAR180F 坂本 毅啓	2学期	1	2	112
		1年			
	プロジェクト演習I CAR280F 未開講	1学期	2	2	
		2年			
プロジェクト演習II CAR281F 未開講	2学期	2	2		
	2年				
プロジェクト演習III CAR380F 未開講	1学期	3	2		
	3年				
プロジェクト演習IV CAR381F 未開講	2学期	3	2		
	3年				
■教養特講	教養特講I SPL001F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	教養特講II (ホスピタリティ論) SPL002F 西澤 健次 他	2学期	1	2	113
		1年			
教養特講III SPL003F 休講	2学期	1	2		
	1年				
教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2		
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	1学期	1	2	114
		政 1 - 1			
	データ処理 INF101F 佐々木 実	1学期	1	2	115
		政 1 - 2			
	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	116
		再履			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 INF230F 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	情報表現 INF230F 未開講	2学期	2	2	
		2年			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 INF230F 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	情報表現 INF230F 未開講	2学期	2	2	
		2年			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報メディア演習 INF330F 未開講		3	2	
		3年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (律政群 1 - A) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	117
		律政群 1 - A			
	英語I (律政群 1 - B) ENG101F 葛西 宏信	1学期	1	1	118
		律政群 1 - B			
	英語I (律政群 1 - C) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	119
		律政群 1 - C			
	英語I (律政群 1 - D) ENG101F 石田 由希	1学期	1	1	120
		律政群 1 - D			
	英語I (律政群 1 - E) ENG101F 安丸 雅子	1学期	1	1	121
		律政群 1 - E			
	英語I (律政群 1 - F) ENG101F 野上 良子	1学期	1	1	122
		律政群 1 - F			
	英語I (律政群 1 - G) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	123
		律政群 1 - G			
	英語I (律政 1 - H) ENG101F 十時 康	1学期	1	1	124
		律政 1 - H			
	英語I (律政群 1 - I) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	125
		律政群 1 - I			
	英語II (律政群 1 - A) ENG111F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	126
	律政群 1 - A				
英語II (律政群 1 - B) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	127	
	律政群 1 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (律政群 1 - C) ENG111F 葛西 宏信	2学期	1	1	128
		律政群 1 - C			
	英語II (律政群 1 - D) ENG111F 石田 由希	2学期	1	1	129
		律政群 1 - D			
	英語II (律政群 1 - E) ENG111F 安丸 雅子	2学期	1	1	130
		律政群 1 - E			
	英語II (律政群 1 - F) ENG111F 下條 かおり	2学期	1	1	131
		律政群 1 - F			
	英語II (律政群 1 - G) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	132
		律政群 1 - G			
	英語II (律政 1 - H) ENG111F 十時 康	2学期	1	1	133
		律政 1 - H			
	英語II (律政群 1 - I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	134
		律政群 1 - I			
	英語III (律政群 1 - A) ENG102F リズ・クレシーニ	1学期	1	1	135
		律政群 1 - A			
	英語III (律政群 1 - B) ENG102F デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	136
		律政群 1 - B			
英語III (律政群 1 - C) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	137	
	律政群 1 - C				
英語III (律政群 1 - D) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	138	
	律政群 1 - D				
英語III (律政群 1 - E) ENG102F クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	139	
	律政群 1 - E				
英語III (律政群 1 - F) ENG102F ホセ・クルーズ	1学期	1	1	140	
	律政群 1 - F				
英語III (律政群 1 - G) ENG102F デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	141	
	律政群 1 - G				
英語III (律政 1 - H) ENG102F 葛西 宏信	1学期	1	1	142	
	律政 1 - H				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (律政 1 - I) ENG102F 船方 浩子	1学期	1	1	143
		律政群 1 - I			
	英語IV (律政群 1 - A) ENG112F リズ・クレシーニ	2学期	1	1	144
		律政群 1 - A			
	英語IV (律政群 1 - B) ENG112F デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	145
		律政群 1 - B			
	英語IV (律政群 1 - C) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	146
		律政群 1 - C			
	英語IV (律政群 1 - D) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	147
		律政群 1 - D			
	英語IV (律政群 1 - E) ENG112F クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	148
		律政群 1 - E			
	英語IV (律政群 1 - F) ENG112F ホセ・クルーズ	2学期	1	1	149
		律政群 1 - F			
	英語IV (律政群 1 - G) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	150
		律政群 1 - G			
英語IV (律政 1 - H) ENG112F ケネス・ギブソン	2学期	1	1	151	
	律政 1 - H				
英語IV (律政 1 - I) ENG112F 船方 浩子	2学期	1	1	152	
	律政群 1 - I				
英語V (律政群 2 - A) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - A				
英語V (律政群 2 - B) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - B				
英語V (律政群 2 - C) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - C				
英語V (律政群 2 - D) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - D				
英語V (律政群 2 - E) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - E				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語V (律政群 2 - F) ENG201F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - F
	英語V (律政群 2 - G) ENG201F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - G
	英語V (律政 2 - H) ENG201F 未開講	1学期	2	1	律政 2 - H
	英語V (律政群 2 - I) ENG201F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - I
	英語VI (律政群 2 - A) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - A
	英語VI (律政群 2 - B) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - B
	英語VI (律政群 2 - C) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - C
	英語VI (律政群 2 - D) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - D
	英語VI (律政群 2 - E) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - E
	英語VI (律政群 2 - F) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - F
	英語VI (律政群 2 - G) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - G
	英語VI (律政 2 - H) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政 2 - H
	英語VI (律政群 2 - I) ENG211F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - I
	英語VII (律政群 2 - A) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - A
	英語VII (律政群 2 - B) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - B

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII (律政群 2 - C) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - C
	英語VII (律政群 2 - D) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - D
	英語VII (律政群 2 - E) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - E
	英語VII (律政群 2 - F) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - F
	英語VII (律政群 2 - G) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - G
	英語VII (律政 2 - H) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政 2 - H
	英語VII (律政群 2 - I) ENG202F 未開講	1学期	2	1	律政群 2 - I
	英語VIII (律政群 2 - A) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - A
	英語VIII (律政群 2 - B) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - B
	英語VIII (律政群 2 - C) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - C
英語VIII (律政群 2 - D) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - D	
英語VIII (律政群 2 - E) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - E	
英語VIII (律政群 2 - F) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - F	
英語VIII (律政群 2 - G) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - G	
英語VIII (律政 2 - H) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政 2 - H	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII (律政群 2 - 1) ENG212F 未開講	2学期	2	1	
		律政群 2 - 1			
	英語IX (済営律政 3 年) ENG301F 未開講	1学期	3	1	
		済営律政 3 年			
	英語X (済営律政 3 年) ENG311F 未開講	2学期	3	1	
		済営律政 3 年			
英語XI (済営律政 3 年) ENG302F 未開講	1学期	3	1		
	済営律政 3 年				
英語XII (済営律政 3 年) ENG312F 未開講	2学期	3	1		
	済営律政 3 年				
■第二外国語	中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	153
		律政群 1 年			
	中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	154
		律政群 1 年			
	中国語III CHN102F 王 占華	1学期	1	1	155
		律政群 1 年			
	中国語IV CHN112F 王 占華	2学期	1	1	156
		律政群 1 年			
	中国語V CHN201F 未開講	1学期	2	1	
		済営人律政群 2 年			
	中国語VI CHN211F 未開講	2学期	2	1	
		済営人律政群 2 年			
	中国語VII CHN202F 未開講	1学期	2	1	
		済営人律政群 2 年			
	中国語VIII CHN212F 未開講	2学期	2	1	
	済営人律政群 2 年				
朝鮮語I KRN101F 金 貞淑	1学期	1	1	157	
	律政 1 年				
朝鮮語II KRN111F 金 貞淑	2学期	1	1	158	
	律政 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語III KRN102F チャン ユンヒャン	1学期	1	1	159
		律政1年			
	朝鮮語IV KRN112F チャン ユンヒャン	2学期	1	1	160
		律政1年			
	朝鮮語V KRN201F 未開講	1学期	2	1	
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VI KRN211F 未開講	2学期	2	1	
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VII KRN202F 未開講	1学期	2	1	
		済営比人律政群2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 未開講	2学期	2	1	
		済営比人律政群2年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	161
		律政1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	162
		律政1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	163
		律政1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	164
		律政1年			
ロシア語V RUS201F 未開講	1学期	2	1		
	済営比人律政2年				
ロシア語VI RUS211F 未開講	2学期	2	1		
	済営比人律政2年				
ロシア語VII RUS202F 未開講	1学期	2	1		
	済営比人律政2年				
ロシア語VIII RUS212F 未開講	2学期	2	1		
	済営比人律政2年				
ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	165	
	律政1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	166
		律政 1年			
	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	167
		律政 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	168
		律政 1年			
	ドイツ語V GRM201F 未開講	1学期	2	1	
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 未開講	2学期	2	1	
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 未開講	1学期	2	1	
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 未開講	2学期	2	1	
		済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 中川 裕二	1学期	1	1	169
		律政 1年			
	フランス語II FRN111F 中川 裕二	2学期	1	1	170
		律政 1年			
	フランス語III FRN102F 山下 広一	1学期	1	1	171
		律政 1年			
フランス語IV FRN112F 山下 広一	2学期	1	1	172	
	律政 1年				
フランス語V FRN201F 未開講	1学期	2	1		
	済営比人律政 2年				
フランス語VI FRN211F 未開講	2学期	2	1		
	済営比人律政 2年				
フランス語VII FRN202F 未開講	1学期	2	1		
	済営比人律政 2年				
フランス語VIII FRN212F 未開講	2学期	2	1		
	済営比人律政 2年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語I		1学期	1	1	173
	SPN101F	青木 文夫	律政 1年			
	スペイン語II		2学期	1	1	174
	SPN111F	青木 文夫	律政 1年			
	スペイン語III		1学期	1	1	175
	SPN102F	辻 博子	律政 1年			
	スペイン語IV		2学期	1	1	176
	SPN112F	辻 博子	律政 1年			
スペイン語V		1学期	2	1		
SPN201F	未開講	済営比人律政 2年				
スペイン語VI		2学期	2	1		
SPN211F	未開講	済営比人律政 2年				
スペイン語VII		1学期	2	1		
SPN202F	未開講	済営比人律政 2年				
スペイン語VIII		2学期	2	1		
SPN212F	未開講	済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語I		1学期	1	1	177
	JSL101F	清水 順子 木曜 2限	留学生 1年			
	日本語I		1学期	1	1	178
	JSL101F	清水 順子 木曜 3限	留学生 1年			
	日本語II		1学期	1	1	179
	JSL102F	中山 亜紀子 月曜 2限	留学生 1年			
	日本語II		1学期	1	1	180
	JSL102F	中山 亜紀子 月曜 3限	留学生 1年			
日本語III		1学期	1	1	181	
JSL103F	清水 順子 金曜 2限	留学生 1年				
日本語III		1学期	1	1	182	
JSL103F	清水 順子 金曜 3限	留学生 1年				
日本語IV		2学期	1	1	183	
JSL111F	清水 順子 木曜 3限	留学生 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語IV JSL111F 清水 順子 木曜 2限	2学期	1	1	184
	留学生 1年				
	日本語V JSL112F 清水 順子 月曜 3限	2学期	1	1	185
	留学生 1年				
	日本語V JSL112F 清水 順子 月曜 2限	2学期	1	1	186
	留学生 1年				
	日本語VI JSL113F 清水 順子 金曜 2限	2学期	1	1	187
	留学生 1年				
	日本語VI JSL113F 清水 順子 金曜 3限	2学期	1	1	188
	留学生 1年				
	日本語VII JSL104F 未開講	1学期	2	1	
	留学生 2年				
	日本語VII JSL104F 未開講	1学期	2	1	
	留学生 2年				
	日本語VIII JSL114F 未開講	2学期	2	1	
	留学生 2年				
日本語VIII JSL114F 未開講	2学期	2	1		
留学生 2年					
日本事情 (人文) A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	189	
留学生 1年					
日本事情 (人文) B JPS102F 家根橋 伸子	2学期	1	2	190	
留学生 1年					
日本事情 (社会) A JPS103F 山崎 勇治	1学期	1	2	191	
留学生 1年					
日本事情 (社会) B JPS104F 山崎 勇治	2学期	1	2	192	
留学生 1年					
■専門教育科目 ■選択科目	法哲学 LAW310M 未開講		3	2	
	3年				
	日本法制史 LAW312M 未開講		2	4	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	情報公開・個人情報保護法		3	2	3年
	LAW322M 未開講				
	刑法犯罪各論I		2	2	2年
	LAW230M 未開講				
	刑法犯罪各論II		2	2	2年
	LAW330M 未開講				
	刑事司法政策I		3	2	3年
	LAW332M 未開講				
	刑事司法政策II		3	2	3年
	LAW333M 未開講				
	犯罪学		3	4	3年
	LAW232M 未開講				
	社会法の現代的展開		3	2	3年
	LAW343M 未開講				
	環境法		3	2	3年
	LAW342M 未開講				
	現代国際関係法		3	2	3年
	LAW351M 未開講				
	親族法		2	2	2年
	LAW264M 未開講				
相続法		2	2	2年	
LAW265M 未開講					
民事法の実務的展開		3	2	3年	
LAW361M 未開講					
企業活動と法		2	2	2年	
LAW273M 未開講					
国際協力論I		2	2	2年	
IRL211M 未開講					
国際協力論II		2	2	2年	
IRL212M 未開講					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■選択科目	国際機構論I IRL312M 未開講		3	2	3年	
	国際機構論II IRL313M 未開講		3	2	3年	
	地球環境論 ENV200M 未開講		2	2	2年	
	国際関係の争点 IRL101M 大平 剛	2学期	1	2	1年	193
	国際関係の理論 IRL200M 未開講		2	2	2年	
	倫理学 PHR210M 未開講		2	2	2年	
	ミクロ経済学I ECN112M 朱 乙文	2学期	1	2	1年	194
	ミクロ経済学II ECN210M 未開講		2	2	2年	
	マクロ経済学I ECN113M 田中 淳平	2学期	1	2	1年	195
	マクロ経済学II ECN211M 未開講		2	2	2年	
経済地理学I ECN242M 未開講		2	2	2年		
経済地理学II ECN243M 未開講		2	2	2年		
地域経済I ECN244M 未開講		2	2	2年		
地域経済II ECN245M 未開講		2	2	2年		
地域政策 ECN250M 未開講		2	2	2年		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	国際経済論I		2	2	2年
	ECN240M 未開講				
	国際経済論II		2	2	2年
	ECN241M 未開講				
	産業組織論I		3	2	3年
	ECN341M 未開講				
	産業組織論II		3	2	3年
	ECN342M 未開講				
	財政学I		3	2	3年
	ECN361M 未開講				
	財政学II		3	2	3年
	ECN362M 未開講				
	公共経済学		3	2	3年
	ECN262M 未開講				
	環境経済学		3	2	3年
	ECN340M 未開講				
	中国経済		3	2	3年
	ECN350M 未開講				
	アメリカ経済		3	2	3年
	ECN351M 未開講				
地方財政論		3	2	3年	
ECN365M 未開講					
経営組織論		2	2	2年	
BUS212M 未開講					
経営戦略論		2	2	2年	
BUS213M 未開講					
人的資源管理論		3	2	3年	
BUS310M 未開講					
中小企業論		3	2	3年	
BUS313M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目	ビジネス英語研究		3	2	
	ENG232M 未開講	3年			
■政策能力形成科目	政策科学入門	1学期	1	2	196
	PLC101M 榎原 真二 他	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	197
	SEM111M 古賀 哲矢	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	198
	SEM111M 五月女 律子	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	199
	SEM111M 坂本 隆幸	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	200
	SEM111M 榎原 真二	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	201
	SEM111M 狭間 直樹	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	202
	SEM111M 濱本 真輔	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	203
	SEM111M 三宅 博之	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	204
	SEM111M 森 裕亮	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	205
	SEM111M 横山 麻季子	1年			
政策入門演習I	1学期	1	2	206	
SEM111M 大澤 津	1年				
政策入門演習II	2学期	1	2	207	
SEM112M 古賀 哲矢	1年				
政策入門演習II	2学期	1	2	208	
SEM112M 五月女 律子	1年				
政策入門演習II	2学期	1	2	209	
SEM112M 坂本 隆幸	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習II SEM112M 檀原 真二	2学期	1	2	210
		1年			
	政策入門演習II SEM112M 狭間 直樹	2学期	1	2	211
		1年			
	政策入門演習II SEM112M 濱本 真輔	2学期	1	2	212
		1年			
	政策入門演習II SEM112M 三宅 博之	2学期	1	2	213
		1年			
	政策入門演習II SEM112M 森 裕亮	2学期	1	2	214
		1年			
	政策入門演習II SEM112M 横山 麻季子	2学期	1	2	215
		1年			
	政策入門演習II SEM112M 大澤 津	2学期	1	2	216
		1年			
	政策分析入門 PLC115M 横山 麻季子 他	2学期	1	2	217
		1年			
	演習I SEM211M 未開講			2	2
	2年				
演習II SEM212M 未開講			2	2	
	2年				
演習III SEM311M 未開講			3	2	
	3年				
演習IV SEM312M 未開講			3	2	
	3年				
政策実践プロジェクトI SEM280M 未開講			2	1	
	2年				
政策実践プロジェクトII SEM380M 未開講			3	1	
	3年				
卒業論文 STH410M 未開講			4	4	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策理論科目	政治学 PLS100M 濱本 真輔	1学期	1	2	218
		1年			
	政治過程論 PLS210M 濱本 真輔	2学期	1	2	219
		1年			
	西洋政治史 PLS111M 五月女 律子	2学期	1	2	220
		1年			
	政党政治論 PLS211M 未開講		2	2	
		2年			
	現代政治思想 PLS212M 未開講		2	2	
		2年			
	政策理論特講 PLS213M 未開講		2	2	
		2年			
	政治文化論 PLS215M 未開講		2	2	
		2年			
	行政学 PAD100M 森 裕亮	2学期	1	2	221
		1年			
	行政組織論 PAD210M 未開講		2	2	
		2年			
	政策構想論 PLC110M 大澤 津	1学期	1	2	222
		1年			
比較政策論 PLC210M 未開講		2	2		
	2年				
公共政策論 PLC211M 未開講		2	2		
	2年				
政策過程論 PLC212M 未開講		2	2		
	2年				
政策評価論 PLC310M 未開講		2	2		
	2年				
都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期	1	2	223	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■政策理論科目	都市計画概論 PLC218M 未開講		2	2	224
		2年			
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	1	2	224
		1年			
	政策情報処理 PLC223M 未開講		2	2	
		2年			
	外国文献研究 A SEM391M 未開講		3	2	
		3年			
■政策実践科目	日本政治論 PLS110M 濱本 真輔	2学期	1	2	225
		1年			
	地方自治論 PAD211M 未開講		2	2	
		2年			
	地方行政改革論 PAD310M 未開講		2	2	
		2年			
	地域統合論 PLS214M 未開講		2	2	
		2年			
	アジア地域社会論 PLC222M 未開講		2	2	
		2年			
	応用政策特講 PAD214M 未開講		2	2	
		2年			
	対外政策論 PLC213M 未開講		2	2	
		2年			
	自治体政策研究 PLC214M 未開講		2	2	
		2年			
都市経済論 PLC113M 古賀 哲矢	1学期	1	2	226	
	1年				
都市経営論 PAD213M 未開講		2	2		
	2年				
都市政策論 PLC219M 未開講		2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	環境政策論 PLC216M 未開講		2	2	2年
	途上国開発論 PLC215M 未開講		2	2	
	福祉政策論 PLC217M 未開講		2	2	
	公共経営論 PAD212M 未開講		2	2	2年
	NPO論 PLC114M 榎原 真二 他	1学期	1	2	
	政策実務特講 PLC220M 未開講		2	2	2年
	政策実践特講 PLC221M 未開講		2	2	
	外国文献研究B SEM392M 未開講		3	2	3年
	法学総論 LAW100M 岡 邦信	1学期	1	2	
	法社会学 LAW211M 未開講		2	2	2年
法思想史 LAW210M 未開講		2	2		
日本国憲法原論 LAW120M 中村 英樹	1学期	1	2	1年	
憲法人権論 LAW220M 植木 淳	2学期	1	2		
憲法機構論 LAW221M 未開講		2	2	2年	
憲法訴訟論 LAW320M 未開講		2	2		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■政策関連法科目	行政法総論		2	4		
	LAW121M 未開講	2年				
	行政争訟法		2	2		
	LAW222M 未開講	2年				
	国家補償法		3	2		
	LAW321M 未開講	3年				
	地方自治法		3	4		
	LAW223M 未開講	3年				
	刑法犯罪論		2学期 (ベア)	1	4	231
	LAW130M 山本 光英	1年				
	社会法総論		2学期	1	2	232
	LAW140M 津田 小百合	1年				
	社会サービス法			2	2	
	LAW242M 未開講	2年				
	所得保障法			2	2	
	LAW243M 未開講	2年				
	雇用関係法			2	2	
	LAW240M 未開講	2年				
	労使関係法			2	2	
	LAW241M 未開講	2年				
国際法I			2	2		
LAW250M 未開講	2年					
国際法II			2	2		
LAW251M 未開講	2年					
民法総則		1学期 (ベア)	1	4	233	
LAW160M 小野 憲昭	1年					
物権法		2学期	1	2	234	
LAW260M 福本 忍	1年					
債権総論			2	4		
LAW263M 未開講	2年					

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	担保物権法 LAW261M 未開講		2	2	235
		2年			
	債権各論 LAW262M 福本 忍	2学期 (ベア)	1	4	235
		1年			
■自由科目	人間環境地理学 ENV240M 未開講		2	2	236
		2年			
	生態人類学 ANT210M 未開講		2	2	237
		2年			
	日本の歴史と社会 HIS210M 未開講		2	2	238
		2年			
	Advanced English I ENG353M 未開講		4	2	239
		4年			
Advanced English II ENG354M 未開講		4	2	240	
	4年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 黒田 耕司	1学期	1	2	236
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	2学期	1	2	237
		1年			
	発達心理学 PSY222M 未開講		2	2	238
		2年			
	教育制度論 EDU227M 未開講	1学期	3	2	239
		3年			
	教育課程論 EDU360M 未開講	1学期	3	2	240
		3年			
社会科教育法 A EDU240C 未開講	1学期	3	2	241	
	3年				
社会科教育法 B EDU241C 未開講	2学期	3	2	242	
	3年				
社会科教育法 C EDU242C 未開講		3	2	243	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 D		3	2	3年
	EDU243C 未開講				
	公民科教育法 A		3	2	3年
	EDU244C 未開講				
	公民科教育法 B		3	2	3年
	EDU245C 未開講				
	道徳教育指導論		2	2	2年
	EDU262M 未開講				
	特別活動論		2	2	2年
	EDU263M 未開講				
教育方法学		2	2	2年	
EDU260M 未開講					
生徒・進路指導論		2	2	2年	
EDU261M 未開講					
教育相談		2	2	2年	
EDU264M 未開講					
教育実習 1		3	2	3年	
EDU380C 未開講					
教育実習 2		4	2	4年	
EDU480C 未開講					
教育実習 3		4	2	4年	
EDU481C 未開講					
教職実践演習 (中・高)		2学期	4	2	4年
EDU490C 未開講					
■選択科目	教育心理学		2	2	2年
	PSY220M 未開講				
	障害児の心理と指導		2	2	2年
	PSY223M 未開講				
教育社会学		2	2	2年	
EDU225M 未開講					

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	人権教育論		2	2	
	EDU228M 未開講	2年			
	生涯学習学		2	2	
	EDU220M 未開講	2年			
	教育工学		2	2	
	EDU265M 未開講	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	238
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	239
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	240
		1年			
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	241
		1年			
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	242
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	243
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子	1学期	1	2	244
		1年			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	245
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	246
		1年			
	可能性としての歴史 HIS200F 未開講		2	2	
		2年			
現代社会と文化 ANT210F 未開講		2	2		
	2年				
言語と認知 LIN210F 未開講		2	2		
	2年				
共生社会論 SOW200F 未開講		2	2		
	2年				
共同体と身体 PHR210F 未開講		2	2		
	2年				
戦争論 PLS210F 未開講		2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会		2	2	
	BIO200F (昼のみ開講)	2年			
	情報社会を読む		2	2	
	INF200F (昼のみ開講)	2年			
	地域資源管理論		2	2	
	ENV200F (昼のみ開講)	2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2	
	GES101F (昼のみ開講)	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
	GES102F (昼のみ開講)	1年			
	教養演習A I		2	2	
	GES201F 未開講	2年			
	教養演習A II		2	2	
	GES202F 未開講	2年			
	教養演習B I		3	2	
	GES301F 未開講	3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし	2学期	1	2	
	ENV002F (昼のみ開講)	1年			
	動物のみかた		1	2	
	ZOL001F (昼のみ開講)	1年			
	地球の生いたち	2学期	1	2	247
	GOL001F 長井 孝一	1年			
	自然史へのいざない		1	2	
	BIO001F (昼のみ開講)	1年			
	くらしと化学	1学期	1	2	
	CHM001F (昼のみ開講)	1年			
	現代人のこころ	1学期	1	2	
	PSY003F 休講	1年			
人間と生命		1	2		
BIO002F 休講	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	環境都市としての北九州 ENV001F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	未来を創る環境技術 ENV003F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	私たちと宗教 PHR006F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	1年	248
	文化と表象 MCC001F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	言語とコミュニケーション LIN001F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	芸術と人間 PHR001F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文学を読む LIT001F 馬場 美佳 他	2学期	1	2	1年	249
	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	1年	
	民主主義とは何か PLS002F 中道 壽一	1学期	1	2	1年	250
社会学的思考 SOC002F 休講	1学期	1	2	1年		
政治のなかの文化 ANT001F 休講		1	2	1年		
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	1年	251	
ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	1年	252	
障がい学 SOW001F 休講	1学期	1	2	1年		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	共生の作法 LAW001F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	法律の読み方 LAW002F 休講		1	2		
	社会調査 SOC003F 山本 努	2学期	1	2	1年	253
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2		
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	1年	255
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2		
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F (昼のみ開講)		1	2	1年	
	都市と地域 RDE002F (昼のみ開講)	1学期	1	2		
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	1年	256
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2		
	グローバル化する経済 ECN001F 休講		1	2	1年	
	テロリズム論 PLS001F (昼のみ開講)		1	2		
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	1年	258
	国際社会と日本 IRL004F 休講		1	2		
	韓国の社会と文化 ARE010F (昼のみ開講)		1	2	1年	

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	エスニシティと多文化社会 IRL001F 休講	1学期	1	2	259
	1年				
	歴史の読み方I HIS004F 小林 道彦	1学期	1	2	259
	1年				
	歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期	1	2	259
	1年				
	そのとき世界は HIS002F (昼のみ開講)		1	2	259
	1年				
	戦後の日本経済 ECN002F (昼のみ開講)		1	2	259
	1年				
もの与人間の歴史 HIS003F (昼のみ開講)		1	2	259	
1年					
人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	260	
1年					
ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 休講		1	2	260	
1年					
■教職関連科目	日本史 HIS110F 休講	2学期	1	2	261
	1年				
	東洋史 HIS120F 藤野 月子	2学期	1	2	261
	1年				
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	262
	1年				
	人文地理学 GEO110F 休講	2学期	1	2	262
1年					
土地地理学 GEO111F 休講	1学期	1	2	262	
1年					
地誌学 GEO112F 外 护保 大介	1学期	1	2	263	
1年					
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	264
	1年				

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	1年
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期	1	2	
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 休講	2学期	1	2	1年
	自己管理論 HSS003F 休講		1	2	
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	1年
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 休講	2学期	1	1	
	キャリア・デザイン CAR100F (昼のみ開講)		1	2	1年
コミュニケーション実践 CAR111F (昼のみ開講)	2学期	1	2	1年	
グローバル・リーダーシップ論 CAR112F (昼のみ開講)	2学期	1	2		1年
プロフェッショナルの仕事I CAR210F 未開講	1学期	2	2	2年	
プロフェッショナルの仕事II CAR211F 未開講	2学期	2	2		2年
地域の達人 CAR212F 未開講	2学期	2	2	2年	
サービスマナー入門I CAR110F (昼のみ開講)	1学期	1	2		1年
サービスマナー入門II CAR180F (昼のみ開講)	2学期	1	2	1年	
プロジェクト演習I CAR280F 未開講	1学期	2	2		2年

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習II CAR281F 未開講	2学期	2	2		
	2年					
	プロジェクト演習III CAR380F 未開講	1学期	3	2		
	3年					
	プロジェクト演習IV CAR381F 未開講	2学期	3	2		
	3年					
	■教養特講	教養特講I SPL001F (昼のみ開講)		1	2	
		1年				
教養特講II SPL002F (昼のみ開講)			1	2		
1年						
教養特講III SPL003F (昼のみ開講)			1	2		
1年						
教養特講IV SPL004F (昼のみ開講)			1	2		
1年						
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	2学期	1	2	266	
	再履					
	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	267	
	群・再履					
	情報表現 INF230F 未開講	1学期	2	2		
	2年					
	情報メディア演習 INF330F 未開講		3	2		
3年						
■専門教育科目 ■選択科目	法哲学 LAW310M 未開講		3	2		
	3年					
	日本法制史 LAW312M 未開講		2	4		
	2年					
	情報公開・個人情報保護法 LAW322M 未開講		3	2		
	3年					
	刑法犯罪各論I LAW230M 未開講		2	2		
	2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	刑法犯罪各論II		2	2	
	LAW330M 未開講	2年			
	刑事司法政策I		3	2	
	LAW332M 未開講	3年			
	刑事司法政策II		3	2	
	LAW333M 未開講	3年			
	犯罪学		3	4	
	LAW232M 未開講	3年			
	社会法の現代的展開		3	2	
	LAW343M 未開講	3年			
	環境法		3	2	
	LAW342M 未開講	3年			
	現代国際関係法		3	2	
	LAW351M 未開講	3年			
	親族法		2	2	
	LAW264M 未開講	2年			
	相続法		2	2	
	LAW265M 未開講	2年			
	民事法の実務的展開		3	2	
	LAW361M 未開講	3年			
企業活動と法		2	2		
LAW273M 未開講	2年				
国際協力論I		2	2		
IRL211M 未開講	2年				
国際協力論II		2	2		
IRL212M 未開講	2年				
国際機構論I		3	2		
IRL312M 未開講	3年				
国際機構論II		3	2		
IRL313M 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	地球環境論		2	2	2年
	ENV200M 未開講				
	国際関係の争点		1	2	1年
	IRL101M 昼のみ開講				
	国際関係の理論		2	2	2年
	IRL200M 未開講				
	倫理学		2	2	2年
	PHR210M 未開講				
	ミクロ経済学I		1	2	1年
	ECN112M 休講				
	ミクロ経済学II		2	2	2年
	ECN210M 未開講				
	マクロ経済学I		1	2	1年
	ECN113M 休講				
	マクロ経済学II		2	2	2年
	ECN211M 未開講				
	経済地理学I		2	2	2年
	ECN242M 未開講				
	経済地理学II		2	2	2年
	ECN243M 未開講				
地域経済I		2	2	2年	
ECN244M 未開講					
地域経済II		2	2	2年	
ECN245M 未開講					
地域政策		2	2	2年	
ECN250M 未開講					
国際経済論I		2	2	2年	
ECN240M 未開講					
国際経済論II		2	2	2年	
ECN241M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	産業組織論I		3	2	3年
	ECN341M 未開講				
	産業組織論II		3	2	3年
	ECN342M 未開講				
	財政学I		3	2	3年
	ECN361M 未開講				
	財政学II		3	2	3年
	ECN362M 未開講				
	公共経済学		3	2	3年
	ECN262M 未開講				
	環境経済学		3	2	3年
	ECN340M 未開講				
	中国経済		3	2	3年
	ECN350M 未開講				
	アメリカ経済		3	2	3年
	ECN351M 未開講				
	地方財政論		3	2	3年
	ECN365M 未開講				
	経営組織論		2	2	2年
BUS212M 未開講					
経営戦略論		2	2	2年	
BUS213M 未開講					
人的資源管理論		3	2	3年	
BUS310M 未開講					
中小企業論		3	2	3年	
BUS313M 未開講					
ビジネス英語研究		3	2	3年	
ENG232M 未開講					
■政策能力形成科目	政策科学入門		1	2	1年
	PLC101M 休講				

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習I		1	2	
	SEM111M 休講	1年			
	政策入門演習II		1	2	
	SEM112M 休講	1年			
	政策分析入門		1	2	
	PLC115M 休講	1年			
	演習I		2	2	
	SEM211M 未開講	2年			
	演習II		2	2	
	SEM212M 未開講	2年			
	演習III		3	2	
	SEM311M 未開講	3年			
	演習IV		3	2	
	SEM312M 未開講	3年			
政策実践プロジェクトI		2	1		
SEM280M 未開講	2年				
政策実践プロジェクトII		3	1		
SEM380M 未開講	3年				
卒業論文		4	4		
STH410M 未開講	4年				
■政策理論科目	政治学		1	2	
	PLS100M 休講	1年			
	政治過程論		1	2	
	PLS210M 休講	1年			
	西洋政治史		1	2	
	PLS111M 休講	1年			
政党政治論		2	2		
PLS211M 未開講	2年				
現代政治思想		2	2		
PLS212M 未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策理論科目	政策理論特講		2	2	2年
	PLS213M 未開講				
	政治文化論		2	2	2年
	PLS215M 未開講				
	行政学		1	2	1年
	PAD100M 休講				
	行政組織論		2	2	2年
	PAD210M 未開講				
	政策構想論		1	2	1年
	PLC110M 休講				
	比較政策論		2	2	2年
	PLC210M 未開講				
	公共政策論		2	2	2年
	PLC211M 未開講				
	政策過程論		2	2	2年
	PLC212M 未開講				
	政策評価論		2	2	2年
	PLC310M 未開講				
	都市環境論		1	2	1年
PLC111M 休講					
都市計画概論		2	2	2年	
PLC218M 未開講					
福祉国家論		1	2	1年	
PLC112M 休講					
政策情報処理		2	2	2年	
PLC223M 未開講					
外国文献研究A		3	2	3年	
SEM391M 未開講					
■政策実践科目	日本政治論		1	2	1年
	PLS110M 休講				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	地方自治論		2	2	2年
	PAD211M 未開講				
	地方行政改革論		2	2	2年
	PAD310M 未開講				
	地域統合論		2	2	2年
	PLS214M 未開講				
	アジア地域社会論		2	2	2年
	PLC222M 未開講				
	応用政策特講		2	2	2年
	PAD214M 未開講				
	対外政策論		2	2	2年
	PLC213M 未開講				
	自治体政策研究		2	2	2年
	PLC214M 未開講				
	都市経済論		1	2	1年
	PLC113M 休講				
	都市経営論		2	2	2年
	PAD213M 未開講				
	都市政策論		2	2	2年
	PLC219M 未開講				
環境政策論		2	2	2年	
PLC216M 未開講					
途上国開発論		2	2	2年	
PLC215M 未開講					
福祉政策論		2	2	2年	
PLC217M 未開講					
公共経営論		2	2	2年	
PAD212M 未開講					
NPO論		1学期	1	2	268
PLC114M 榎原 真二 他				1年	

法学部 政策科学科 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	政策実務特講		2	2	
	PLC220M 未開講	2年			
	政策実践特講		2	2	
	PLC221M 未開講	2年			
	外国文献研究B		3	2	
	SEM392M 未開講	3年			
■政策関連法科目	法学総論	1学期	1	2	269
	LAW100M 吉村 弘	1年			
	法社会学		2	2	
	LAW211M 未開講	2年			
	法思想史		2	2	
	LAW210M 未開講	2年			
	日本国憲法原論		1	2	
	LAW120M 休講	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	270
	LAW220M 植木 淳	1年			
	憲法機構論		2	2	
	LAW221M 未開講	2年			
	憲法訴訟論		2	2	
	LAW320M 未開講	2年			
	行政法総論		2	4	
	LAW121M 未開講	2年			
	行政争訟法		2	2	
	LAW222M 未開講	2年			
	国家補償法		3	2	
	LAW321M 未開講	3年			
地方自治法		3	4		
LAW223M 未開講	3年				
刑法犯罪論		1	4		
LAW130M 休講	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	社会法総論 LAW140M 石田 信平	2学期	1	2	271
	1年				
	社会サービス法 LAW242M 未開講		2	2	2年
	2年				
	所得保障法 LAW243M 未開講		2	2	2年
	2年				
	雇用関係法 LAW240M 未開講		2	2	2年
	2年				
	労使関係法 LAW241M 未開講		2	2	2年
	2年				
	国際法I LAW250M 未開講		2	2	2年
	2年				
	国際法II LAW251M 未開講		2	2	2年
	2年				
	民法総則 LAW160M 休講		1	4	1年
	1年				
	物権法 LAW260M 休講		1	2	1年
	1年				
債権総論 LAW263M 未開講		2	4	2年	
2年					
担保物権法 LAW261M 未開講		2	2	2年	
2年					
債権各論 LAW262M 休講		1	4	1年	
1年					
■自由科目	人間環境地理学 ENV240M 未開講		2	2	2年
	2年				
	生態人類学 ANT210M 未開講		2	2	2年
2年					
日本の歴史と社会 HIS210M 未開講		2	2	2年	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	Advanced English I		4	2	
	ENG353M 未開講	4年			
	Advanced English II		4	2	
	ENG354M 未開講	4年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	272
	EDU111M 黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	273
	EDU110M 見玉 弥生	1年			
	発達心理学		2	2	
	PSY222M 未開講	2年			
	教育制度論		3	2	
	EDU227M 未開講	3年			
	教育課程論		3	2	
	EDU360M 未開講	3年			
	社会科教育法 A		3	2	
	EDU240C 未開講	3年			
	社会科教育法 B		3	2	
	EDU241C 未開講	3年			
	社会科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU242C 未開講	3年			
	社会科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU243C 未開講	3年			
	公民科教育法 A		3	2	
	EDU244C 未開講	3年			
公民科教育法 B		3	2		
EDU245C 未開講	3年				
道徳教育指導論		2	2		
EDU262M 未開講	2年				
特別活動論		2	2		
EDU263M 未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学		2	2	2年
	EDU260M 未開講				
	生徒・進路指導論		2	2	2年
	EDU261M 未開講				
	教育相談		2	2	2年
	EDU264M 未開講				
	教育実習 1		3	2	3年
	EDU380C 未開講				
教育実習 2		4	2	4年	
EDU480C 未開講					
教育実習 3		4	2	4年	
EDU481C 未開講					
教職実践演習 (中・高)		4	2	4年	
EDU490C 未開講					
■選択科目	教育心理学		2	2	2年
	PSY220M 未開講				
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	2年
	PSY223M 未開講				
	教育社会学	1学期	2	2	2年
	EDU225M 未開講				
	人権教育論		2	2	2年
	EDU228M 未開講				
生涯学習学		2	2	2年	
EDU220M 未開講					
教育工学		2	2	2年	
EDU265M 未開講					

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。

本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 現代社会における儀礼の役割
- 第11回 不幸への対処と文化
- 第12回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは
- 第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

異文化理解の基礎【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価法・授業上の注意など)
- 2回 歴史的概説【市民革命と産業革命】
- 3回 近代とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 4回 近代とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 5回 近代とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 6回 近代とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 7回 近代とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語に対しては断固とした措置をとる。甚だしい場合には退席を命じる。

内容としては1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかしながら、学期末に実施する試験はかなり難度の高いものである。とりわけ「高校世界史」を学習していない者が本授業の単位を取得するには、人一倍の努力と学習意欲が要求されることになるだろう。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-3回 安全保障と防衛
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム、安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物はどのような物質からできていて、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では生命を物質的な側面からとらえ、生きているということについて科学する。また、生物多様性の大切さ、多様性と進化の原動力となった突然変異とその影響について学ぶ。また、生命と環境がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「文系のための生命科学 第二版」 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)
 - 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)
 - 「生物と無生物のあいだ」 福岡伸一著 2007年(講談社)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ミクロとマクロの世界【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ【全球凍結】
- 7回 生物の分類と系統【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性【有性生殖】【染色体】【細胞分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線【放射性同位元素】【確率的影響】
- 11回 科学と似非科学【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト20点x3回、期末レポート30点、積極的な授業への参加10点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。興味がある者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名
 /Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合い適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、情報漏洩、著作権問題】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト、文字コード】
- 4回 コンピュータを構成するもの【CPU、メモリ、記憶メディア、キーボード、マウス、ディスプレイ】
- 5回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション】
- 6回 電話網とインターネットの違い【回線、パケット、LAN、IPアドレス】
- 7回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 8回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 9回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 10回 自分を守るための知識【暗号化、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 11回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 12回 集合知の可能性とネットワークサービス【Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 13回 著作権をめぐる攻防【著作権、オープンソース、クリエイティブコモンズ】
- 14回 大規模データがもたらすもの【検索エンジン、データベース、データマイニング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
 日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

本講義では「自然環境を保護する」という考え方や行為に対し、正しい理解を身に着けることを目的とする。
具体的には以下の5つの論点を提示し、詳細な解説を行うことによって、環境問題と向き合う際に必要となる基礎的知識の充足を目指す。

1. 現代社会における自然とのかかわり方について - 自然と人間の共生を考える -
2. 自然環境保護活動の歴史 - 人間はどのように自然を守ってきたか -
3. 環境問題の解決に向けて - 自然環境を守っていくための考え方 -
4. 具体的事例への言及 - 白神山地の保護をめぐる論争 -
5. 現代社会における自然環境保護とは - 我々にできることは何か？を考える -

教科書 /Textbooks

『自然保護を問い直す—環境倫理とネットワーク』（鬼頭秀一 著）ちくま新書 ¥760+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『環境問題とは何か』（富山和子 著）PHP新書 ¥660+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間と自然との共生とは何か
- 第3回 自然を支配しようとする人間 - 人間中心主義という考え方 -
- 第4回 自然の権利とは何か - 動植物にも生きる「権利」があるのか？ -
- 第5回 「宇宙船地球号」と「共有地（コモンズ）の悲劇」について
- 第6回 ディープ・エコロジーとは何か - 人間と自然は本当に対立するのか？ -
- 第7回 自然の価値とは何か - なぜ、人間は自然を守らなければならないのか？ -
- 第8回 小テストとその解説
- 第9回 「生業」と「生活」の視点から環境問題を考える
- 第10回 遊び・仕事・分配の営みが自然環境を守る
- 第11回 白神山地の保護をめぐる論争
- 第12回 世界自然遺産指定をめぐる春秋林道の問題
- 第13回 地域社会は「よそ者」にどう対処すべきか
- 第14回 現代社会において、我々ができる環境保護活動とは何か
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30%、日常の授業への取り組み：20%、学期末試験：50%
(※なお、小テストを未受験者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年（羊土社）
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認（1）
- 3回 基本的事項の確認（2）
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備（1）
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備（2）
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験（学期内のいずれかの土曜日午後実施）
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション（1）
- 12回 個人によるプレゼンテーション（2）
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%（配布するカードに記入した内容で評価する）、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会とまちづくり、職業に論じているテキスト『商店街はなぜ滅びるのか』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

新雅史2012『商店街はなぜ滅びるのか：社会・政治・経済史から探る再生の道』光文社。
北九州市出身の社会学者が執筆した新書です。地域社会や小売業の歴史に興味がなくとも読めますが、興味があればより楽しく読めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論 テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。したがって、第1回目の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。現代社会や地域社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

教養基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的社会調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 情報収集の仕方(1) - 図書館の利用
- 第6回 情報収集の仕方(2) - Webサイトの利用
- 第7回 情報のまとめかた(3) - KJ法 - 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』
- 第8回 情報のまとめ方(4) KJ法(実習)
- 第9回 質的社会調査の考え方と方法(1)
- 第10回 質的社会調査の考え方と方法(2)
- 第11回 質的社会調査の考え方と方法(3)
- 第12回 質的社会調査の考え方と方法(4)
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 分析事例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、レジュメを準備すること。
レジュメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジュメの作成方法については授業中に説明する)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大江正章（2008）『地域のカー・食・農・まちづくり』岩波新書
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法：レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習II」とセットで履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

教養基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習All(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1（演習でのルール、成績評価法の説明）
- 2回 ガイダンス2（対象となるテキスト、著者の紹介）
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないもの見なし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、遅くとも第3回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
- 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】
- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】
- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】
- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力（人間関係力）を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
 また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは？
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～4回：事前学習
- 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
- 第11回・12回：活動報告
- 第13回・14回：振り返り学習
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 演習における議論への参加度50%
- 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回にはスーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認(1)
- 3回 基本的事項の確認(2)
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備(1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備(2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション(1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション(2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み10%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。さらに学びたい者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 演習運営方針に関する話し合い。
2~14回 各自の研究報告。
15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。
具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げ、課題発見能力を養う。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度のレポートを書くことを目指す。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートは書けるけれど、いい(評価される?)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「他地域の事例から学ぶ」または「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『成功する！「地方発ビジネス」の進め方』（島田晴雄＋N T Tデータ経営研究所 著） ¥1,600＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回 テキストの輪読① 【生活に関するサービスで地域ビジネスを展開する】
- 第3回 テキストの輪読② 【自動車はもういらない！！地域交通サービスを考える】
- 第4回 テキストの輪読③ 【高齢化社会におけるコミュニティ・コンシェルジュ】
- 第5回 テキストの輪読④ 【成功する！！コミュニティ・ビジネス】
- 第6回 テキストの輪読⑤ 【地域資源を生かしたヘルスケアビジネス - 地域社会を健康に保つことが活性化に繋がる - 】
- 第7回 テキストの輪読⑥ 【コミュニティ・ビジネスの場としての商店街を考える】
- 第8回 テキストの輪読⑦ 【地域ブランドによるまちおこし】
- 第9回 テキストの輪読⑧ 【地域に住む！！という視点から考えるコミュニティ・ビジネス】
- 第10回 総合討論（北九州地域におけるコミュニティ・ビジネスの可能性を探る）
- 第11回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について①
- 第12回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について②
- 第13回 調査されるという迷惑について考える①
- 第14回 調査されるという迷惑について考える②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の達成度：50%

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習とは、議論する時間・場である。そのため、議論するために必要な知識や資料は事前に各自で準備する必要があることを理解してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

【注意②】新1年生(2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回は、19世紀ドイツの哲学者A・ショーペンハウアーの随想集より「処世知に関する箴言（Aphorismen zur Lebensweisheit）」を取り上げる。

教科書 /Textbooks

ショーペンハウアー（橋本文夫訳）『幸福について-人生論』、新潮文庫、1958年、578円（税込）。
（※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習と内容確認
- 2回 読解と議論 1
- 3回 読解と議論 2
- 4回 読解と議論 3
- 5回 読解と議論 4
- 6回 読解と議論 5
- 7回 読解と議論 6
- 8回 読解と議論 7
- 9回 読解と議論 8
- 10回 読解と議論 9
- 11回 読解と議論 10
- 12回 読解と議論 11
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%
（3回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、議事録を作成しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、第2回の授業までに上記のテキスト（578円）を購入しておくこと。
本演習は「教養基礎演習I（伊原木）」の続きにあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項として少なくともテキストの第四章「人の与える印象について」の前まで（全部で三章分）を自分で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。調整に際しては、【本演習に友人や知人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者】を優先的に配慮したい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。この授業は、2年生以上の先輩も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 「今西錦司と自然学」
 - 第2講 「私とあなたの自然学」
 - 第3講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第4講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第5講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第6講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第7講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第8講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第9講 人々はどのように自然に親しんできたか(旅と観光)
 - 第10講 人々はどのように自然を観てきたか(森林風景)
 - 第11講 人々はどのように自然を利用してきたか(木と竹の文化史)
 - 第12講 人々はどのように自然を利用していけるか(竹産業と生態技術)
 - 第13講 人々はどのように自然の中で暮らしているか(木造民家の生活)
 - 第14講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか(中国・台湾との比較)
 - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
 - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する・・・15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える・・・15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く・・・20%
- (岩松)
 - 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然科学のまなざし【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目：まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学を予定しています。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館での講義および見学
- 3回 昆虫分類学の歴史(担当者未定)：【分類】【学名】【アリストテレス、リンネ、ビュフォン】
- 4回 化石が語る魚類の進化(蘆本)：【魚類化石】
- 5回 二次的自然と哺乳類(馬場)：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に(真鍋)：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 7回 鳥類の絶滅危機と生物多様性の保全(武石)：【絶滅危機】【生物多様性】
- 8回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」(太田)：【化石】【生命史】【絶滅】
- 9回 サウジアラビアの自然と人と文化と(山根)：【アラビア半島】【人と自然と文化】
- 10回 岩石に見られる「大地の暗号」(森)：【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 11回 自然史博物館での講義および見学
- 12回 深海生物～その形と適応的意義～(下村)：【深海】
- 13回 アンモナイトの古生物学(御前)：【化石】【進化】【古生態】
- 14回 骨から知る脊椎動物進化(大橋)：【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とします。2回の博物館見学は必須となります。授業への積極的な参加および見学レポート40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

博物館見学は10月6日(日)と12月8日(日)を予定していますが、日程を変更する可能性もあります。授業スケジュールについての説明もありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。博物館までの交通費および入館料は自己負担となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

化学物質と化学知識は生活に不可欠なものです。それらは生活を豊かにし、豊かな未来社会を展望するのに必要です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養としてだけでなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

まず基礎的な化学知識を正確に掴む必要があります。そのために、基礎的な化学知識と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心化学知識の理解を深め、それによる生活や環境に対する能力を高めることがこの授業のねらいである。

自然界の重要物質水と炭酸ガスと物質三態(気・液・固)、生活に必要な食品・薬、環境に重要な、放射能・地球温暖化に関連した事項に絞って解説をする。

教科書 /Textbooks

「身の回りから見た化学の基礎」 化学同人 芝原 寛泰、後藤 景子 著
出版年月日：2009/11/02、 ISBN： 9784759812923 定価：本体1,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) \2200、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善) \2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1章 化学ってなんだ? - 物質と化学の関係
- 2 1章 化学ってなんだ? - 化学の基本事項(補足)
- 3 14, 8章 物質は自在に変わる - 気・液・固
- 4 5, 2章 水の化学、酸・塩基(真水・お酢・石けん水)
- 5 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 6 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射能、原子力
- 7 0章(教科書補足)放射能って何だ - 放射性元素と自然界)
- 8 7章 料理の化学(3大栄養素)
- 9 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 10 4章 環境にやさしい洗濯を - 洗濯の化学
- 11 9章 化学の力で命を守る - 薬と副作用
- 12 6章(教科書補足)生活材料今昔物語 - プラスチックとその添加物質
- 13 10章 身の回りには石油製品がいっぱい! - 化石資源の化学
- 14 0章(教科書補足) - 二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 中島 俊介 / 基盤教育センター
齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

現代人のこころ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまな上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 知覚の世界
人はどのように外界世界を知覚しているのか。【錯視】【体制化】【興行き知覚】
- 第9回 記憶のしくみ
人間の記憶の貯蔵のしくみ。【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
- 第10回 記憶の保持と変容
どのようにすれば記憶しやすいのか。【処理水準】【スキーマ】【偽記憶】
- 第11回 学習のメカニズム
条件づけによる学習のメカニズム。【古典的条件づけ】【オペラント条件づけ】
- 第12回 学習の生物学的制約
生物であるために生じる学習の特別な形。【ガルシア効果】【刻印づけ】
- 第13回 社会的影響
人の判断は社会からどのような影響を受けるのか。【同調】【規範】【説得】
- 第14回 コンピュータは心を持つか
人と同じような知能や心を持つコンピュータやロボットは実現できるのか？【人工知能】【ロボット】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】 担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】 心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】 「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】 相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】 私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】 「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】 これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】 「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】 購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】 偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】 健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】 私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】 様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】 日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

前年度単位取得率: 57% (受講者92名)
S: 6名(7%) A: 22名(23%) B: 12名(13%) C: 19名(21%) D: 19名(21%) -: 14名(15%)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と生命【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学 第二版 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011(羊土社)
 - 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年(NHK出版新書)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 細胞は何からできているか【タンパク質】【核酸】【糖】【脂質】
- 3回 個体はどのようにつくられるか【発生】【分化】
- 4回 細胞はどのように増えるか【細胞増殖】【細胞死】
- 5回 生命活動の主役・タンパク質【酵素】
- 6回 遺伝子とは何をするものか【遺伝暗号】【アミノ酸】
- 7回 遺伝子が働くしくみ【遺伝子発現】【RNA】
- 8回 遺伝子で決まるもの・決まらないもの【ゲノム】【体質】
- 9回 細胞と個体の寿命【染色体】【テロメア】
- 10回 細胞にとっての情報【受容体】【ホルモン】
- 11回 細胞社会の反逆者【がん細胞】【がん遺伝子】
- 12回 万能細胞とは何か【ES細胞】【iPS細胞】
- 13回 体を守るしくみ【免疫】【抗体】【細菌】【ウイルス】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加10%、確認のための小テスト(2~3回実施)60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

この授業の主な到達目標は以下の通り。

- ① 環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
- ② 環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
- ③ 卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5回 北九州の自然・生態系
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス
- 7回 環境問題と市民の関わり
- 8～9回 環境関連施設見学①
- 10回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 11～12回 環境関連施設見学②
- 13回 北九州の環境経済
- 14回 環境問題と企業の取り組み
- 15回 環境都市としての北九州

成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。環境首都検定の成績(40%)、施設見学および期末レポート(30%)、授業への参加度・授業中の課題など(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定は12月15日(日)、施設見学は①環境ミュージアム(12月1日(日))、②エコタウン(11月20日(水)午後)を予定しているが、変更の可能性もある。スケジュールに注意すること。環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 龍 有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)
李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~), 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)
松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 西 隆司 / Takashi NISHI / 情報メディア工学科
宮下 弘 / Hiroshi MIYASHITA / 情報メディア工学科, 高峯 幸二 / Koji TAKASU / 建築デザイン学科 (19~)
高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 赤川 貴雄 / Takao AKAGAWA / 建築デザイン学科
櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)
野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

環境問題は人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する(オムニバス形式)。具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：エネルギー負荷をできるだけ小さくする化学プロセスの開発やバイオマスなどの新エネルギー・クリーンエネルギーの開発
- 第3回：最先端のナノテクノロジーを駆使した環境調和型材料の開発や物質の超高感度検出法の開発
- 第4回：天然資源や廃棄物の有効利用技術、高効率で安全な水処理や廃棄物処理技術による循環型社会の創造
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について(その1・燃料電池)
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について(その2・エンジン、次世代発電システム)
- 第7回：環境に配慮した高精度高効率な精密加工法・最適設計法について
- 第8回：これからの持続可能社会のための情報処理技術と情報ネットワークシステム
- 第9回：ものづくりや環境技術を支えるコンピュータシステムやソフトウェア開発
- 第10回目：建築における安全・安心・長寿命性の追求と環境調和型材料および工法の開発
- 第11回目：都市や建築における省エネルギー・自然エネルギー利用・環境改善技術とその評価
- 第12回目：生態系に調和し、省エネルギーや資源の有効利用に寄与する美しく快適な空間デザイン
- 第13回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第14回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について
- 第15回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
レポートおよび小テスト 30%
期末試験あるいは期末課題 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にも目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。 ノートはこまめにとること。
都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

未来を創る環境技術 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所やくわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されるところである。

にもかかわらず、日本にあってわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なるもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年はトピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、神を祀る神、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、神の疲労、塔と洪水、石とイモ
4. あの世 地獄と天国、煉獄と金利、極楽浄土、六道輪廻
5. 苦と悪 悪霊、天使、魔女、神義論、四苦八苦
6. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
7. 聖者と菩薩 殉教者、列聖、霊力、慈悲
8. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼、体験
9. 願かけと祈り 念仏と題目、報恩、応答、祈願
10. 祭り 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典、賛美歌と声明
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、呪詛、病治し
15. まとめ 幸福の四象限、しあわせ、スカブラと笑い

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。
講義をよく聴く。
配布資料をよく読む。
資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 映画分析④
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序:「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 外部講師による講義(予定)
- 第12回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第13回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第14回 コミュニケーション力(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代美術を中心に国内外の芸術活動の事例を紹介します。
それらを鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして解釈・応用できるよう、アート・リテラシーの向上を促します。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品の鑑賞とは 1
- 3回 作品の鑑賞とは 2
- 4回 引き算の美・足し算の美
- 5回 メディア×アート：浮世絵
- 6回 サブカルチャーと社会
- 7回 芸術作品に見るジェンダー
- 8回 作品のコンテキスト
- 9回 芸術のカ×権力×暴力
- 10回 芸術と宗教
- 11回 芸術とリアリティ：現実の不確かさ
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 芸術と教育：ワークショップの事例
- 14回 芸術と地域：アートプロジェクトの事例
- 15回 北九州のアートシーン

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Semester 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Class 1年 / 1 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ：「言葉の力」

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 岩本
- 4回 馬場(文学部比較文化学科)
- 5回 馬場
- 6回 田部井(文学部比較文化学科)
- 7回 田部井
- 8回 福島(文学部比較文化学科)
- 9回 福島
- 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 11回 伊藤
- 12回 五月女(文学部比較文化学科)
- 13回 五月女
- 14回 木原(外国語学部英米学科)
- 15回 木原

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

文学を読む【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①現代正義論に関する基礎的な知識を獲得したうえで、理解力・思考力を鍛える。
- ②現代社会における諸問題について、課題を発見し、分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
- 第2回 民主主義の理論の比較・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
- 第5回 民主主義理論の比較のまとめ
- 第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第7回 民主主義の運動（組織）の比較・1989年の東欧革命について
- 第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
- 第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
- 第11回 民主主義の制度の比較について・議院内閣制と大統領制
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

社会学的思考 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。また、現代社会における論争的なトピックを例に社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 現代社会の解釈1 - 社会的格差と社会的排除1：どうなっているのか
- 第9回 現代社会の解釈2 - 社会的格差と社会的排除2：なぜそうなるのか
- 第10回 現代社会の解釈3 - 社会的格差と社会的排除3：どうすればよいのか
- 第11回 現代社会の解釈4 - グローバル化とエスニシティ1：どうなっているのか
- 第12回 現代社会の解釈5 - グローバル化とエスニシティ2：なぜそうなるのか
- 第13回 現代社会の解釈6 - グローバル化とエスニシティ3：どうすればよいのか
- 第14回 現代社会の解釈7 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治のなかの文化【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代国家的な政治体制や経済体制が世界中に共有される以前から、さまざまな共同体において統治の方法があったし（これもまた文化のひとつである）、近代国家的な制度が共有されるようになって、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、政治や経済体制とその土地に住む人々固有のとりきめごとについて、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、概念を問いかえすことが目的である。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』NTT出版
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- 清水展1991『文化のなかの政治』弘文堂
- 中川敏1992『交換の民族誌』世界思想社
- 西真如2009『現代アフリカの公共性』昭和堂

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 世界に広がるNGOとその多様性
- 第2回 理念の土着化
- 第3回 伝統社会のなかの政治
- 第4回 経済活動にみる文化①：個人をつなぐ行為としての交換
- 第5回 国家に抗する社会？
- 第6回 近代的国家と伝統的な国家の違い
- 第7回 社会運動のなかの文化
- 第8回 経済活動にみる文化②：現代社会のなかに組み込まれた贈与
- 第9回 資本主義への対抗
- 第10回 政治体制の変化が文化に与える影響①：ソ連・東欧の旧社会主義地域
- 第11回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換という経験
- 第12回 文化復興という政治
- 第13回 開発の現場における「文化の差異」
- 第14回 「求められる市民参加」の現場
- 第15回 講義のまとめ：公共性と文化

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小テストまたはレポート20-30%、期末試験70-80%
(受講者数に応じて配分を変更するが、受講者数が決定次第講義中に通知する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代史や時事問題に自信がない受講生は、わからないことをそのままにしないでください。高校の教科書(現代社会、世界史)は図書館にありますし、北九大図書館は主要な新聞の数年分が検索できるデータベースを契約しています。活用してください。

履修上の注意 /Remarks

・出席だけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります(ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありません)。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。

政治のなかの文化【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。「異文化理解の基礎」は家族や日常の生活を中心とした文化について学びましたが、このテーマ科目では、より規模の大きい集団や共同体など政治が働く空間の中での文化について学びます。
- ・ 履修上の注意では厳しいことを書いていますが、私の他の講義と同じく、覚えることはありません。理解できるかどうか、できなくてもしよとうとする努力がみられるかを評価します。異文化や外国のことに興味がある学生、政治学とは異なる視点からの政治に興味がある学生、教養を深めたい学生の受講を歓迎します。
- ・ 学際性が求められるビジョン科目では、講義に取り入れにくい現在の東欧の文化人類学の話（担当者の専門です）などもこの講義では話したいと思います。

キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、社会運動、国家

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要な理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳について(重松)
- 第2回 障害のある人の権利 ~ 日本国憲法から(植木)
- 第3回 死刑制度の是非(中村)
- 第4回 契約について(契約の意義、種類、契約自由の原則等)(矢沢)
- 第5回 家族とは何か(小野)
- 第6回 規範意識とは何か(3銭の電気窃盗)(山本)
- 第7回 犯罪とは何か ~ 国家刑罰権をどのように制約するか(大杉)
- 第8回 商法とは何か(今泉)
- 第9回 企業形態と法(高橋)
- 第10回 民事少額訴訟とは何か(小池)
- 第11回 行政は「個人の権利」をもつか(福重)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 まとめ(岡)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる。

①受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。②レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは6000字以上とする。③レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。④授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

共生の作法【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくことで理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

到達目標は次の通りです。

- ・ 法律の世界に共通する諸概念や基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・ 講義で紹介する法制度の内容、社会における運用状況を知り、法律問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・ 法律が私たちの社会生活における基盤となっており、法律を学ぶことを通じて私たちが社会生活を円滑に営むための不可欠の素養を身につけることができることを知っていただきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 叶堂 隆三 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会調査は、私たちの社会生活がどのような状況にあるのかを把握する有効な方法の一つです。さらに、この社会調査を実施する技法である社会調査法は、アンケート等の調査票を用いて多くの人から情報を得ることで正確な情報把握を志向する量的社会調査と興味深い少数の事例に深く取り組むことを通して新しい社会傾向や社会の多様性を理解しようとする質的社会調査の二つに区別することができます。そして、20世紀以降、実は、こうした社会調査法は社会状況の把握のための学術的関心を越えて、市場調査や選挙予想等さまざまな状況の理解に応用されています。

本授業では、この社会調査法のうち質的社会調査法に焦点を当てて、現代社会の様々な状況・事象への関心のテーマ化、こうした関心を究明するための方法、究明した結果をどのように人に伝えるか、について学習していきます。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本務編『よくわかる質的社会調査プロセス編』ミネルヴァ書房、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査技法編』ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

社会のどのような状況を理解したいのかという社会的関心を究明していくプロセスに沿って、以下のように授業を進めていくことにする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 質的社会調査の方法と意義
- 第3回 名著に学ぶ質的社会調査
- 第4回 質的社会調査概説3
- 第5回 問いを立てる
- 第6回 先行研究に学ぶ
- 第7回 技法を選ぶ
- 第8回 フィールドに入る
- 第9回 フィールドワークを楽しむ
- 第10回 フィールドノートを作成する
- 第11回 インタビューを記録する
- 第12回 インタビュー記録を利用する
- 第13回 ビジュアルな資料を利用する
- 第14回 報告書を作成する
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポートや作成物等(50%)、授業時間外の課題の提出(50%)等による平常点によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質的社会調査法に関して、一連のプロセスに沿って進めますので欠席しないようにして下さい。また、授業中及び授業時間外の課題を必ず提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (=ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物物を反省しよう。日常的に観察される買い物物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。 → 「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家 = 福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

企業と社会 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳) 昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が求められる。この方式に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 /Instructor 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この授業は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方からお話いただき、新聞と現代社会についての考察することを目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状と今後 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースを編集する / 見出しはこうして決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目 / 政権交代と現政権の行方 (編集委員)
- 第4回 地域とともに / 分権時代と地域紙 (都市圏総局長)
- 第5回 アジアを考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 第6回 裁判員制度と人権 / 事件報道の現場から (社会部総合デスク)
- 第7回 デジタルが紙か / デジタルメディアの行方 (コンテンツ事業局)
- 第8回 罪と更生 / キャンペーン報道の力 (社会部デスク)
- 第9回 被災地を歩く / 東日本大震災をどう伝えるか (社会部長)
- 第10回 原発と地域経済 / 経済記者の立ち位置 (経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界 / 地域スポーツ紙が目指すもの (運動部デスク)
- 第12回 言葉を越える1枚 / 報道写真の力 (写真部記者)
- 第13回 北九州発の環境問題を考える / 地域ジャーナリズムの役割 (北九州本社記者)
- 第14回 文化と新聞 / 地域を見つめ育てる (文化部長)
- 第15回 新聞をデザインする / ビジュアル紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の2つをもとに総合的に評価する。
- (1) 毎回の感想(レポート提出の要件とする。)
 - (2) レポート(レポート提出は3回を予定している。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞をよく読み、現代社会に対する感性を磨くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 解子 / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待しています。

教科書 /Textbooks

適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 【地域】 特になし
【都市】 北九州都市協会『住みよい都市・全国主要都市の比較調査』共同通信社(2004年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通：授業および講師紹介
- 2回 地域1：地域の概念：世界と日本の事例等
- 3回 地域2：地域をどのように分析するか：地域学と地域科学
- 4回 地域3：地域間という考え方
- 5回 地域4：教官討論：北九大と地域(仮)
- 6回 地域5：地域事例紹介1(国内事例予定)
- 7回 地域6：地域事例紹介2(海外事例予定)
- 8回 地域7：レポート発表会
- 9回 都市1：都市評価と都市間比較の考え方
- 10回 都市2：国内主要都市のプロファイル
- 11回 都市3：都市間比較I(自然・居住)
- 12回 都市4：都市間比較II(経済・インフラ)
- 13回 都市5：都市間比較III(文化・教育、健康・安全)
- 14回 都市6：都市間比較IV(都市イメージ・総合評価)
- 15回 都市7：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 【地域】 全体の50%：レポート...25% クイズ...15% 授業貢献...10%
【都市】 全体の50%：レポート...35% 授業貢献...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 【地域】 前半の「地域」のどこかで数回、クイズ(小テスト)を行います(当日発表)。授業内ディスカッションを活発に行いますので、発言の無い学生は授業貢献評価が芳しくなくなります。
【都市】 講義を進めるなかで、「あなたはと思う？」という問いかけをしたいと思います。積極的な発言を期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人はそれぞれの価値観で都市や地域を捉え評価します。多くの場合、自分の関心領域以外にはあまり目を向けません。本講義は、幅広い分野にわたり、多くのことを学び考える機会になると思います。

キーワード /Keywords

地域科学、都市政策 都市間比較

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめにあたって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスに関するグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木暮太一 (2010) 『経済が世界—シンプルにつかめる本』 明日香出版社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	シラバス詳細版配布、イントロダクション、概説	【グローバル化】
2回	自由貿易	【比較優位】 【貿易保護】
3回	自由貿易	【WTO】 【FTA】 【TPP】
4回	企業の海外進出と立地	【直接投資】
5回	企業の海外進出と立地	【人件費】 【為替レート】
6回	海外展開に関わる所有戦略	【合併】 【M&A】
7回	経営現地化の視点	【人事現地化】
8回	地場グローバル企業のケースI	【SCM】 【OEM】
9回	地場グローバル企業のケースII	【現地市場志向】
10回	グローバル化と途上国の成長・発展	【開発経済】 【労働移動】
11回	グローバル化と先進国の経済	【格差】 【ジニ係数】
12回	グローバル化と金融危機	【サブプライムローン危機】
13回	グローバル化と金融危機	【欧州危機】 【リーマンショック】
14回	産業・企業のグローバル展開 (ケーススタディ)	
15回	まとめと総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): およそ20%、学期末試験: およそ80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粹主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

近現代の国際社会、文化、政治、思想など諸分野の流れをポストコロニアリズムの議論を通じて捉えつつ、今なお継続する植民地主義とわれわれを支配している近代主義を批判的に省察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』作品社、2003、1800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書、2005

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 毎回、レジユメを配り、その内容について説明する。
- 1回 テクストの紹介、授業のガイダンス
 - 2回 第IV部の総論、姜尚中論文 【今なぜ、ポストコロニアリズムなのか】
 - 3回 前回の補足
 - 4回 第II部の総論、本橋哲也論文【私たちに与えるポストコロニアリズム】
 - 5回 第II部の近代、松葉祥一論文
 - 6回 第II部の性・文化、竹村・毛利論文
 - 7回 第II部の日本、小森陽一論文
 - 8回 第II部の第三世界、小倉英敬論文
 - 9回 第II部の国家、嚮田竜蔵論文
 - 10回 第IV部の1、朴一・村井寛志論文【問題提起】
 - 11回 第IV部の2、趙慶喜論文
 - 12回 第IV部の3、高橋哲哉論文
 - 13回 第IV部の4、野村・鄭暎恵論文
 - 14回 第II部とIV部の総括
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

2~3回のレポート70%、授業への熱意30%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をしてくること。教科書に登場する概念、人物について自分で調べて見ること。

履修上の注意 /Remarks

思想、哲学に関心を寄せること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代の呪縛、近代主義、オリエンタリズム、ナショナリズム、植民地主義、二元思考、三元思考、公共性

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国について概観
- 3 韓国の歴史と政治
- 4 ハングルの誕生とその仕組み
- 5 昨年及び2013年上半期の主要トピック
- 6 韓国の文学(外部講師)
- 7 韓国の伝統文化
- 8 韓国の食文化
- 9 韓国の若者たちの世界
- 10 在日コリアンの過去と現在
- 11 現代韓国社会の特徴I(外部講師)
- 12 現代韓国社会の特徴II
- 13 「韓流」について考える
- 14 日韓関係のあり方について考える
- 15 まとめ

* 上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズにより変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(ミニペーパーやプレゼンテーション)50%
中間レポート20%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回のテーマについて「調べ」て「考え」ること

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業には必ず出席すること
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて検討する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ 【連合王国】 【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦 【オルダム暴動】 【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義の試み 【スカーマン報告】 【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ 【都市郊外暴動】 【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦 【スカーフ問題】 【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義と多文化主義 【ライシテ】 【共和国憲法】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
 - 3回 武士道の成立
 - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
 - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 8回 県名を読む③戊辰戦争
 - 9回 「国語」とは何か?
 - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
 - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
 - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七土殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
岩本 真理子 / 比較文化学科, 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODakシヨン(小林)
 - 第2・3・4回 日本(小林)【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア(伊野)【ポルポト政権】
 - 第8・9回 ドイツ(岩本)【ベルリンの壁崩壊】【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ(寺田)【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国(下野)【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド(スピルマン)【「連帯」運動】【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジユメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
- 三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム(1)投資と技術革新
- 5回 高度成長とそのメカニズム(2) 対外経済・政府の役割
- 6回 高度成長期の企業システム(1) 企業統治・労使関係
- 7回 高度成長期の企業システム(2) 企業間関係・企業の資金調達
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 自動車と国家対立【貿易摩擦】
- 第12回 生産現場から見た自動車の歴史【自動車の構造】【生産工程】
- 第13回 自動車の開発1【電動化】【知能化】
- 第14回 自動車の開発2【電動化】【知能化】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・宗教・演劇・音楽・小説などを手がかりに読み解いてゆく。今年度はとくに近代以後の展開に力点を置く予定である。本授業は、高校世界史や高校倫理の知識に乏しい受講者をも対象としたリメディアル教育の一環として構想されている。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャ人の道徳【徳について】
- 3回 原始キリスト教の道徳【愛について】
- 4回 ルネサンスの道徳観(1)【運命と技量について】
- 5回 ルネサンスの道徳観(2)【シェイクスピア『マクベス』】
- 6回 革命前夜の道徳観(1)【アンシャン・レジームの崩壊】
- 7回 革命前夜の道徳観(2)【『フィガロの結婚』解説前半】
- 8回 革命前夜の道徳観(3)【『フィガロの結婚』解説後半】
- 9回 理性の道徳(1)【イギリス人VSドイツ人】
- 10回 理性の道徳(2)【幸福について】
- 11回 理性の道徳(3)【自由について】
- 12回 道徳の黄昏(1)【ニーチェ】
- 13回 道徳の黄昏(2)【戦慄の美学】
- 14回 道徳の黄昏(3)【革命と権力】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義と連関するテーマについて更なる理解を深めたい学生諸君には、同担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」の履修を推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生(授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々)には即刻退席を命じる。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた中世・近世初期の日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

竹中克行・大城直樹・梶田真・山村亜希 編(2009)『人文地理学』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)イントロダクション
- (2)人口からみる地域とその結びつき (テキスト1章)
- (3)都市のなりたち (テキスト2章)
- (4)都市社会の分断を読み解く (テキスト3章)
- (5)グローバル化する農業と農村の再編 (テキスト4章)
- (6)集中する工場、分散する工場 (テキスト5章)
- (7)情報化時代の流通システムと小売業 (テキスト6章)
- (8)地理情報システムが開く新しい社会 (テキスト12章)
- (9)地理学と公共政策 (テキスト13章)
- (10)市民・住民運動を通じてとらえる環境問題 (テキスト14章)
- (11)身近な地域の地誌 (北九州：工業都市の盛衰)
- (12)身近な地域の地誌 (筑豊：産炭地と産業遺産)
- (13)身近な地域の地誌 (福岡：広域中心都市)
- (14)身近な地域の地誌 (下関：交通の変化と地域の変貌)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習も行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

地域の分析・検討に役立つ地理学の基礎的な知識を習得する。

地域の地理学的分析に必要な基礎的技術を習得する。

習得した知識や技術をもとに、将来の社会実践のなかで、自らのキャリアアップや社会への貢献ができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号と景観。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。【地形】
- 9回 地図を利用して地表を計測する。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとるI(実習)。海岸砂丘の環境と土地利用を読む。
- 11回 地形図を利用して景観を読みとるII(実習)。歴史景観を読む。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族、産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック、うつや不安との付き合い方【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 河津 慶太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

大学生のほとんどがあてはまる青年期は、自我意識が高まる時期であり、精神の動揺も著しくなる。加えて、生活環境も大きく変化する。そのような状況下で、自己決定に基づいた健康的で自立した生活をおくることは容易ではない。そのためには、学生一人一人が自己管理の能力を身に付けていく必要がある。この授業では、各分野のプロフェッショナルの実体験や知識を学ぶことで、自己管理についての正しい知識と自己管理に対する意識を高め、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりを目指す。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する。
- 第2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
- 第3回 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
- 第4回 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
- 第5回 考えるということ【心理学】：「考えることの出来る人間」を目指して、人の「思考」について学ぶ
- 第6回 コミュニケーション【心理学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
- 第7回 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のため薬について学ぶ
- 第8回 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
- 第9回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
- 第10回 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
- 第11回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事例として紹介する。
- 第12回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
- 第14回 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
- 第15回 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験(選択、記述)、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②小試験：40% ①と②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと

履修上の注意 /Remarks

- 1 一回目の総論で「自己管理論のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語厳禁。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は、自己管理論用欠席届を提出する。
- 6 最終回の「自己管理IV まとめ」では小試験をおこなうので、必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、自分の学びたい学問や、自分が将来したいことをみつけるというよりは、そのための基礎、基盤を培うためのものです。基礎がちゃんとしていない家は建てても歪んでしまいますが、それは人間も一緒です。みなさんもこの授業でしっかりと基礎、基盤をかためて社会に出ていく準備を整えましょう!!

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 4回 地域活動に挑戦する (地域活動を経験した先輩とのディスカッション) ※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー① (傾聴、多様性理解)
- 6回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 7回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー② (アサーショントレーニング)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 11回 社会人としての倫理やマナー③ (ダイアログ、ワールドカフェ)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション) ※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 14回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。
- ※自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

履修上の注意 /Remarks

- ※真鍋先生の「キャリアデザイン」と合わせて、全8コマあります。グループワークの運営上、1コマ150名以内になりたいと思います。その場合には履修者調整をしますので、必ず第1回の授業は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来の進路のために大学生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」か本講義いずれかを履修することをお勧めします。
- ※毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール】
- 2回 コミュニケーション実践1
- 3回 コミュニケーション実践2
- 4回 コミュニケーション実践3
- 5回 コミュニケーション実践4
- 6回 コミュニケーション実践5
- 7回 コミュニケーション実践6
- 8回 コミュニケーション実践7
- 9回 コミュニケーション実践8
- 10回 コミュニケーション実践9
- 11回 コミュニケーション実践10
- 12回 コミュニケーション実践11
- 13回 コミュニケーション実践12
- 14回 コミュニケーション実践13
- 15回 まとめ 【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

グローバル・リーダーシップ論【昼】

担当者名 /Instructor 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

世界そして日本に押し寄せるグローバル化の波が、将来の皆さんの就職先となる企業や各種団体、さらに皆さん個人の人生にどう影響を与えるかを考察し、学生時代に何をしておくべきかのヒントを与えます。

また、将来皆さんが、世界の多様な文化価値観をもつ人たちの中で、リーダーシップを発揮し、国際的に活躍するための基礎的な視点、心構え、能力、知識を習得します。

< 授業の進め方 >

「講師の話を一方向的に聞いて、メモして覚える」のではなく「講師や仲間の話を傾聴し、積極的に質問と発言をしながら考える」ことに重点を置き、次の5つを取り混ぜたインタラクティブな(対話型)授業になります。

- ① 国際舞台で活躍する社会人の講演(国際事業・経営の体験談と皆さんへのメアドバイス等)
- ② 海外インターン(研修)をおこなった先輩の体験談や受入企業担当者の評価
- ③ ケーススタディ、ロールプレイ、ゲーム等
- ④ グループワーク(8名程度のグループで、調査、討議、レポート作成・提出、プレゼンテーション)
- ⑤ 個人ワーク(レポート作成・提出、プレゼンテーション)

教科書 /Textbooks

なし(適宜プリントを配布します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『国際ビジネス入門1』(江夏健一・太田正孝・藤井健 編)中央経済社 ¥ 3,045
- 『採用基準』(伊賀泰代著)ダイヤモンド社 ¥ 1,575
- 『日本人こそ見直したい、世界が恋する日本の美德』(永田公彦著)ディスカバー出版 ¥ 1,050

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2~14回 グローバル展開に積極的な企業・団体の第一線で働く社会人の講演を中心に構成

(内訳) 社会人の講演(6回)~国際ビジネス・経営に関する体験談と皆さんへのアドバイス
講義(4回)~グローバル事業経営の全体像、異文化マネジメントの基本概念、グローバルリーダーシップの考察
先輩との交流(1回)~海外インターン体験
グループワーク(2回)~グローバル企業研究

第15回 個人ワーク(グローバルリーダーへの道)+総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① クラスへの出席と積極的な態度・・・70%(出席、習得レポート、積極的な質問と発言)
- ② アサインメント・・・30%(グループワーク、個人ワーク)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、次回授業の取り扱いテーマと事前準備のポイントを説明します。

グローバル・リーダーシップ論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業のルール（10箇条）～「積極的に、聴いて、質問して、発言する」

①～⑤は国際社会では当たり前です。⑥～⑩は社会人として最低限のマナーです。

- ① アクティブリスニング（相手の意見にしっかり耳を傾け反応する）
- ② 積極的に質問する（質問は恥ではなく禮だ～質問5個ルール）
- ③ 積極的に発言する（講義中やグループワーク時に、反論も含め自分の考えを発信する）
- ④ 授業に「出る」ではなく「参加する」
- ⑤ 答えは「人から知らされて覚える」のではなく「自分で考えてつくる」
- ⑥ 私語厳禁
- ⑦ 携帯電話メール厳禁（マナーモードでバッグの中）
- ⑧ 脱帽（事情がある場合は事前にご相談下さい）
- ⑨ 飲食は禁止（事情がある場合は事前にご相談下さい）
- ⑩ 作業時間は守る

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、既に世の中にある正解を見つけようとするものではありません。各講師や仲間との積極的な対話と議論を通じ、自分（達）独自の答えを創り出そうとするものです。

キーワード /Keywords

グローバルビジネス、グローバル経営、グローバルリーダーシップ、異文化マネジメント

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点)+期末レポート試験(50点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

サービスラーニング入門I【昼】

履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスラーニング入門2」も受講してください。より深く地域活動とおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。地域活動への参加を通して、学びを深めていくことを目的としています。この科目は、実際に何らかの地域活動に参加していただき、みんなでふりかえりながら、学びを深めるような授業内容となります。この科目を通して、1人でも多くの学生に地域活動に参加してもらいたいと思っています。

- 大きな柱は
- ①活動参加の目標設定
 - ②活動への参加と記録
 - ③ふりかえり
 - ④報告集作成
 - ⑤成果報告となります。

教科書 /Textbooks

レジメを配布。
講義時に随時紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1ガイダンス【目標・課題の設定】
- 2活動記録の方法
- 3ふりかえり①【グループワーク①】
- 4ふりかえり②【グループワーク②】
- 5ふりかえり③【グループワーク③】
- 6ふりかえり④【プロセスレコード作成】
- 7ふりかえり⑤【プロセスレコードの発表】
- 8ふりかえり⑥【活動の困りごと、課題の共有化】
- 9ふりかえり⑦【課題の解決方法を考える】
- 10ふりかえり⑧【体験のカタルシス】
- 11ふりかえり⑨【活動報告作成】
- 12ふりかえり⑩【活動報告のピアレビュー】
- 13活動報告会①
- 14活動報告会②
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題(50点) + 活動報告提出(25点) + 活動報告会での発表(25点) = 100点満点で評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サービスラーニング入門1を受講しておいてください。地域共生教育センターが提供するプロジェクト型もしくはマッチング型の活動、まちなかESDセンターが提供するプロジェクト、地域のボランティアセンターが募集している活動等に、一つ以上参加することを求めます。実際に地域活動に参加し、それをふりかえることを趣旨とした科目だからです。詳しくは、初回の授業時に説明をします。

履修上の注意 /Remarks

何らかの地域活動に参加していただくことを前提としています。できれば、開講前の夏休みまでには、何からの活動を初めてください。もし受講開始時点で、まだ活動に参加できていない場合は、担当教員、421Lab.まで申し出てください。参加していただく活動を一緒に考えましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、「サービスラーニング入門1」を先に受講していることを前提としますので、必ず受講しておいてください。またこの科目を履修後は、発展的に「プロジェクト演習」を履修していただきたいです。

サービスラーニング入門II【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、ESD、キャリア形成

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった<関係性>を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
 講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
 「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
 「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】 【授業の進め方】 【学習目標】 【評価方法】
- 2回 ホスピタリティとは何か 【ホスピタリティの歴史と文化】 【西洋のホスピタリティ】 【おもてなし】
- 3回 ホスピタリティの基本 【ホスピタリティとサービスの語源と概念比較】 【ホスピタリティの思考】
- 4回 ホスピタリティと心理学【EQ】 【交流分析】
- 5回 ホスピタリティとマナー 【プロ意識】 【身だしなみ】 【人間関係】 【電話やメール】
- 6回 ホスピタリティとコミュニケーション 【聴き方の基本】 【効果的な話し方】 【言語と非言語】
- 7回 ホスピタリティとビジネス【顧客心理】 【クレーム対応】 【CS他】
- 8回 中間まとめ
- 9回 ホスピタリティ産業の現状 その1 【近年の航空事業の動向】
- 10回 ホスピタリティ産業の現状 その2 【接客現場】 【国際線業務】 【社員教育】
- 11回 ホスピタリティ産業の現状 その3 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 12回 ホスピタリティと企業 その1 【職場環境】 【内部顧客】 【メンタルヘルス】
- 13回 ホスピタリティと企業 その2 【企業の社会的責任】 【企業の商品開発と社会貢献】
- 14回 ホスピタリティの意義と可能性 【知識とホスピタリティ】 【暗黙知と形式知】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績 70%
 日頃の取り組み 10%
 授業中に行うミニテストの提出 20%

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 政1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 佐々木 実 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 政1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得すること、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1A, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ...40% 期末試験...60%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また、テキストと併せて洋画のDVDを使用し、TOEIC関連の語句・表現を学ぶ。

教科書 /Textbooks

Power Charge for the TOEIC® Test
TOEIC®テストパワーアップ総合講座
西田晴美 / 吉田佳代 / 伊藤佳世子 / Brian Cover 著
¥2,048

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Eating Out[文の構造]
- 3回 Unit2 Amusement[名詞I: 名詞・代名詞]
- 4回 Unit3 Daily Life[名詞II: 可算 / 不可算名詞]
- 5回 Unit4 Directions[形容詞・副詞]
- 6回 Unit5 Travel[動詞・助動詞]
- 7回 Unit6 Advertising[時制]
- 8回 Unit7 Personnel[イデオム]
- 9回 Unit8 Purchases[一致]
- 10回 Unit9 Office Work[分詞・動名詞・不定詞]
- 11回 Unit10 Employment[関係詞]
- 12回 Unit11 Business[接続詞・前置詞]
- 13回 Unit12 Finance & Banking[特殊構文]
- 14回 Unit13 Health & Welfare[比較]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次週扱うユニットの問題を解いてくること。
テキストと辞書の持参。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

英語の検定試験のなかでも特に社会的ニーズの高いTOEICは、1979年のスタート以来、数多くの企業・団体・学校で採用されている。特にこの10年、インターネットの出現に象徴されるグローバル化が政治・経済・文化など様々な分野に影響を与え、その結果必要とされる英語能力も変化してきた。授業では、More Authentic (より実地的な) になってきた現在のTOEICの問題を扱ったテキストを用い、リスニング・リーディング双方の英語能力を高めていく。リスニングでは「的確に聞き取る力」、リーディングでは「的確に読んですばやく理解する力」を養い、限られた時間のなかで最大限の効果があげられるようにしていきたい。

教科書 /Textbooks

- ① Conquering the TOEIC Test (『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』)
著者：河原真也他 出版社：朝日出版社 (¥2,000)
- ② Interactive English Book for the TOEIC Test Book 2
著者：内田雅克他 出版社：松柏社 (¥1,580)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

①のテキストには英語スクリプトと解法がついている。解法を読みながらエクササイズに答えることで、各パート (Part 1-7) の解き方のヒントを掴んでいく。①のテキストの使い方は授業中適宜知らせる。以下は②のテキストの内容である。

- 〈第1回〉 Lesson 1: Disaster (TOEIC Parts 1.5.7)
- 〈第2回〉 Lesson 2: Inspiring Women (TOEIC Parts 2.5.6)
- 〈第3回〉 Lesson 3: Fashion (TOEIC Parts 3.5)
- 〈第4回〉 Lesson 4: Politics (TOEIC Parts 4.5)
- 〈第5回〉 Lesson 5: Animals (TOEIC Parts 5.7)
- 〈第6回〉 Lesson 6: The Environment (TOEIC Parts 1.5.7)
- 〈第7回〉 Lesson 7: Social Issues (TOEIC Parts 2.5.6)
- 〈第8回〉 Lesson 8: Sports (TOEIC Parts 3.5)
- 〈第9回〉 Lesson 9: The Human Body (TOEIC Parts 4.5)
- 〈第10回〉 Lesson 10: Global Economy (TOEIC Parts 5.7)
- 〈第11回〉 Lesson 11: Space (TOEIC Parts 1.5.7)
- 〈第12回〉 Lesson 12: Food for Thought (TOEIC Parts 2.5.6)
- 〈第13回〉 Lesson 13: Globalization (TOEIC Parts 3.5)
- 〈第14回〉 Lesson 14: Seniority (TOEIC Parts 4.5)
- 〈第15回〉 Lesson 15: Gender and Society (TOEIC Parts 5.7)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20%、期末テスト 80%
出席することは前提であるため、出席点は加味しないが、正当な理由無く5回以上欠席した場合は単位を与えない。
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2冊のテキストを用いるので、自宅では辞書をひき、付属CDを聴いて、しっかり予習をして授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を復習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力やリーディング力の養成をはかる。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項および語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図る。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト：Part 1~4（リスニング問題）の概要
- 3回 TOEICテスト：Part 5~7（リーディング問題）の概要
- 4回 Part 1、Part 5と関連する文法の学習
- 5回 Part 2、Part 5と関連する文法の学習
- 6回 Part 3、Part 5と関連する文法の学習
- 7回 Part 4、Part 5と関連する文法の学習
- 8回 Part 1～Part 5の復習
- 9回 Part 6（ビジネス関係）と関連する文法の学習
- 10回 Part 6（その他）と関連する文法の学習
- 11回 Part 7（ビジネス関係）と関連する文法の学習
- 12回 Part 7（その他）と関連する文法の学習
- 13回 Part 6～Part 7の復習
- 14回 Part 1～Part 4の復習
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（50％）、日常の授業への取り組み（40％）、単語テスト（10％）
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回単語テストを実施、課題を出すので、必ず学習し授業に備えてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

このコースでは主にTOEIC対策を行います。使用するテキストはTOEICの問題がドリル形式で構成されているもので、問題を数多くこなすことが狙いです。そしてテキストは「解いて終わり」ではなく、「解いてからが始まり」です。この問題を間違えた理由は何か、どういう知識が足りなかったのか、どういう分野が弱いのか、などをしっかりと考えることで、自分の弱点と強味を認識することができます。そのことがより効果的な学習へとつながるでしょう。そして、学習した英語表現は繰り返し読んだり書くことによって確実に身につけて、「使える」状態にもっていきます。最後に、この授業は「英語の勉強」ではなく、「英語のトレーニング」です。厳しく、でも楽しくトレーニングをしていきましょう。

教科書 /Textbooks

- ① David E. Bramley / 中井弘一 『New steps to success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 1』 松柏社
- ② David E. Bramley / 中井弘一 『New Steps to success in the TOEIC Test Grammar & Reading 350』 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代に使用した文法の参考書など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション : 授業の進め方、成績評価の方法、グループ編成。必ず出席すること。
- 2 . ①のテキストの指定箇所
- 3 . ②のテキストの指定箇所
- 4 . ①のテキストの指定箇所
- 5 . ②のテキストの指定箇所
- 6 . ①のテキストの指定箇所
- 7 . ②のテキストの指定箇所
- 8 . ①のテキストの指定箇所
- 9 . ②のテキストの指定箇所
- 10 . ①のテキストの指定箇所
- 11 . ②のテキストの指定箇所
- 12 . ①のテキストの指定箇所
- 13 . ②のテキストの指定箇所
- 14 . ①のテキストの指定箇所
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (提出物や予習状況など) : 30%
小テスト : 20%
定期試験 : 50%
学期中にTOEICを受験すること
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

TOEICの目標スコアを明確にしておくこと。指定された箇所をしっかりと予習して授業に臨むこと。授業では予習段階で分からなかったところを解決するように努めること。辞書は必ず持ち込むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、実践英語の習得に不可欠の基本文法の学習を基盤とし、英語運用4技能のうち「聴く・読む」技能の向上に重点を置いた指導を行っていく。「聴く」に関しては、付属のCDを使って文章単位の「聞き取り練習」を毎回実施し、英語の音に慣れると同時に文章内容を自然な音の速さで把握していく力を養っていく。「読む」に関しては、テキストの各課記載の文章を正確に読み取っていく「精読」を中心とした学習作業を通して、「速読」につながる読解力が身に付くよう指導していく。(TOEIC目標スコア・・・前学期スコアの50点アップ)

教科書 /Textbooks

Donald Beaver 他著 「Navigator for the TOEIC Test」 南雲堂 1890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 第2回 Lesson1/2 動詞
- 第3回 Lesson3/4 時制
- 第4回 Lesson5/6 形容詞
- 第5回 Lesson7/8 名詞
- 第6回 Lesson9/10 分詞構文
- 第7回 Lesson11/12 不定詞
- 第8回 Lesson13/14 動名詞
- 第9回 復習テスト
- 第10回 Lesson15/16 一致
- 第11回 Lesson17/18 関係詞
- 第12回 Lesson19/20 接続詞
- 第13回 Lesson21/22 仮定法
- 第14回 Lesson23/24 否定
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト・・・50% 期末テスト・・・50%
上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
 その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
 上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

BBCニュースのディクテーションと読解を通して、前期に学んだTOEICの関連語句・表現を復習する。

教科書 /Textbooks

BBC Understanding the News in English 10 「DVDでBBCニュースを見て、聞いて、考える 10」小野田 榮 / Lucy Cooker 編著 金星堂 \2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Pandas from China Visit Edinburgh Zoo
- 3回 Unit2 Drive for Healthier Lunchboxes
- 4回 Unit3 Peace Gate Opened in Belfast
- 5回 Unit4 Spain's Lost Generation?
- 6回 Unit5 The Best Place in Britain to Grow Up
- 7回 Unit6 Animal Rights Threaten Medical Research
- 8回 Unit7 Addiction to Smartphones
- 9回 Unit8 India's Economic Potential
- 10回 Unit9 The UK's Daily Commute
- 11回 Unit10 Stay Alcohol Free for Two Days
- 12回 Unit11 Migration and Job Losses in the UK
- 13回 Unit12 The Future of Television
- 14回 Unit13 Illicit Gold Mining in Congo
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次週扱うユニットの問題を解いてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1A with student CD-ROM, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題形式に習熟し、語彙を増やし、TOEICで必要とされるリスニング力、リーディング力の更なる向上をはかる。また英字新聞・雑誌や小説を読むことで、TOEIC以外の英文にも触れ幅広い英語力の養成をはかる。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol. 5』国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4, vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテストリスニング問題、読み物 (1)
- 3回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (2)
- 4回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (3)
- 5回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (4)
- 6回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (5)
- 7回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (6)
- 8回 復習
- 9回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (7)
- 10回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (8)
- 11回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (9)
- 12回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (10)
- 13回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (11)
- 14回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (12)
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業への取り組み (40%)、単語テスト (10%)
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回単語テストを実施、課題を出すので、必ず学習し授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

このコースでは主にTOEIC対策を行います。使用するテキストはTOEICの問題がドリル形式で構成されているもので、問題を数多くこなすことが狙いです。そしてテキストは「解いて終わり」ではなく、「解いてから始まり」です。この問題を間違えた理由は何が、どういう知識が足りなかったのか、どういう分野が弱いのか、などをしっかりと考えることで、自分の弱点と強味を認識することができます。そのことがより効果的な学習へとつながるでしょう。そして、学習した英語表現は繰り返し読んだり書くことによって確実に身につけて、「使える」状態にもっていきます。最後に、この授業は「英語の勉強」ではなく、「英語のトレーニング」です。厳しく、でも楽しくトレーニングをしていきましょう。

教科書 /Textbooks

- ① David E. Bramley / 中井弘一 『New steps to success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 1』 松柏社
- ② David E. Bramley / 中井弘一 『New Steps to success in the TOEIC Test Grammar & Reading 350』 松柏社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代に使用した文法の参考書など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション：授業の進め方、成績評価の方法、グループ編成。必ず出席すること。
- 2 . ①のテキストの指定箇所
- 3 . ②のテキストの指定箇所
- 4 . ①のテキストの指定箇所
- 5 . ②のテキストの指定箇所
- 6 . ①のテキストの指定箇所
- 7 . ②のテキストの指定箇所
- 8 . ①のテキストの指定箇所
- 9 . ②のテキストの指定箇所
- 10 . ①のテキストの指定箇所
- 11 . ②のテキストの指定箇所
- 12 . ①のテキストの指定箇所
- 13 . ②のテキストの指定箇所
- 14 . ①のテキストの指定箇所
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (提出物や予習状況など) : 30%
小テスト : 20%
定期試験 : 50%
TOEICのスコア
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

TOEICの目標スコアを明確にしておくこと。指定された箇所をしっかりと予習して授業に臨むこと。授業では予習段階で分からなかったところを解決するように努めること。辞書は必ず持ち込むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、実践英語の習得に不可欠の基本文法の学習を基盤とし、英語運用4技能のうち「聴く・読む」技能の向上に重点を置いた指導を行っていく。「聴く」に関しては、付属のCDを使って文章単位の「聞き取り練習」を毎回実施し、英語の音に慣れると同時に文章内容を自然な音の速さで把握していく力を養っていく。「読む」に関しては、テキストの各課記載の文章を正確に読み取っていく「精読」を中心とした学習作業を通して、「速読」につながる読解力が身に付くよう指導していく。(TOEIC目標スコア・・・前学期スコアの50点アップ)

教科書 /Textbooks

Donald Beaver 他著 「Navigator for the TOEIC Test」 南雲堂 1890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円
 各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 第2回 Lesson1/2 動詞
- 第3回 Lesson3/4 時制
- 第4回 Lesson5/6 形容詞
- 第5回 Lesson7/8 名詞
- 第6回 Lesson9/10 分詞構文
- 第7回 Lesson11/12 不定詞
- 第8回 Lesson13/14 動名詞
- 第9回 復習テスト
- 第10回 Lesson15/16 一致
- 第11回 Lesson17/18 関係詞
- 第12回 Lesson19/20 接続詞
- 第13回 Lesson21/22 仮定法
- 第14回 Lesson23/24 否定
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト・・・50% 期末テスト・・・50%
 上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
 欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語III (律政群 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - E
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.
During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回(Week 1)Introduction to the course
第2回Unit 1: Me and You
第3回Meeting new people
第4回Unit 2: We get along
第5回Talking about families
第6回Unit 3: Too scared to watch
第7回Talking about the movies you like
第8回Review of units 1-3
第9回Unit 4: Hanging out
第10回Talking about lifestyle
第11回Unit 5: Short of cash
第12回Talking about how we use money
第13回Unit 6: My new place
第14回Talking about where you live
第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

English in Common 2 (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Getting to know you)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (School and Leisure)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Your free time)
- 第 6 回: Unit 4 and discussion in English (Food)
- 第 7 回: Unit 5 and discussion in English (Around the house)
- 第 8 回: Unit 6 and discussion in English (Around town)
- 第 9 回: Unit 7 and discussion in English (Describing people)
- 第 10 回: Unit 8 and discussion in English (Dressing right)
- 第 11 回: Unit 9 and discussion in English (Entertainment)
- 第 12 回: Unit 10 and discussion in English (Going places)
- 第 13 回: Unit 11 and discussion in English (Education)
- 第 14 回: Unit 12 and discussion in English (Your goals)
- 第 15 回: Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

As directed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語Ⅲ (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、聴解力及び読解力を伸ばすことによって、受講生のコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の指定された箇所を十分に予習して、受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Essential Approach for the TOEIC Test” 『TOEICテストへのニューアプローチ』
(大須賀直子共著) 成美堂 ¥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Unit 13
- 15回 Unit 14、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. This course will build on the speaking, listening, reading and writing skills achieved in the previous semester course. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills.

教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio CD (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One: Course Introduction and Review
 Week Two: Unit 3 "Time for a Change!" Houses and apartments; lifestyle changes; wishes
 Week Three: Unit 3 "Time for a Change!" Practice and wrap up
 Week Four: Unit 6 "OK. No Problem!" Complaints; household chores; requests; excuses; apologies
 Week Five: Unit 6 "OK. No Problem!" Practice and wrap up
 Week Six: Unit 7 "What's This For?" Technology; instructions
 Week Seven: Unit 7 "What's This For?" Practice and wrap up
 Week Eight: Midterm Review
 Week Nine: Unit 9 "Back to the Future" Life in the past, present, and future; changes and contrasts; consequences
 Week Ten: Unit 9 "Back to the Future" Practice and wrap up
 Week Eleven: Unit 15 "What Would You Do?" Money; hopes; predicaments; speculations
 Week Twelve: Unit 15 "What Would You Do?" Practice and wrap up
 Week Thirteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Abilities and skills; job preferences; personality traits; careers
 Week Fourteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Practice and wrap up
 Week Fifteen: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation - 20%
 Reports - 20%
 Quizzes and Presentations - 20%
 Final Exam - 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

キーワード /Keywords

English communication

英語Ⅳ (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student Presentations – Summer Holidays
- 2 回 Transferring calls
- 3 回 Responding to requests
- 4 回 Travel itineraries
- 5 回 Reacting to schedule changes
- 6 回 Ordering in restaurants
- 7 回 Complaining about problems
- 8 回 Fixing problems
- 9 回 Taking messages
- 1 0 回 Asking and giving directions
- 1 1 回 Recommending and giving travel advice
- 1 2 回 Discussing prices and bargaining
- 1 3 回 Changing money
- 1 4 回 Extra charges
- 1 5 回 Saying goodbye to guests and customers

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅳ (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 9
Week 3 Unit 10
Week 4 Unit 11
Week 5 Unit 12
Week 6 Unit 9-12 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 13 and Discussion 1
Week 10 Unit 14 and Discussion 2
Week 11 Unit 15 and Discussion 3
Week 12 Unit 16 and Discussion 4
Week 13 Units 13-16 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer vacation / true or false.
- 第2回Unit 7: Time to eat
- 第3回Talking about where to eat tonight
- 第4回Unit 8: I found a job!
- 第5回Talking about part-time jobs
- 第6回Unit 9: I can't cope
- 第7回Talking about stress in your life
- 第8回Review of units 7-9
- 第9回Unit 10: What's up?
- 第10回Talking about things you love and hate
- 第11回Unit 11: Who's your type?
- 第12回Talking about dating
- 第13回Unit 12: What tomorrow brings
- 第14回Talking about your future plans
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

English in Common 3 (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Your schedule)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (Musical tastes)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Fine cuisine)
- 第 6 回: Unit 4 and discussion in English (Survival)
- 第 7 回: Unit 5 and discussion in English (Life events)
- 第 8 回: Unit 6 and discussion in English (Destinations)
- 第 9 回: Unit 7 and discussion in English (Mind and body)
- 第 10 回: Unit 8 and discussion in English (Life in the fast lane)
- 第 11 回: Unit 9 and discussion in English (Careers)
- 第 12 回: Unit 10 and discussion in English (Animal planet)
- 第 13 回: Unit 11 and discussion in English (World travel)
- 第 14 回: Unit 12 and discussion in English (Money matters)
- 第 15 回: Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

As directed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English together

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語Ⅳ (律政 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

In this course the focus will be on improving discussion and writing skills. The students will discuss current world topics taken from an online source and later write a summary of their group's discussion from the notes they took in class. Discussion and writing formats will be provided and practiced as well as optional online listening practice for each topic.

Working well in a group will be very important in this class and will have a very large effect on the grade each student receives.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Orientation
2. Discussion Exercise #1
3. Writing Exercise #1
4. Discussion Exercise #2
5. Writing Exercise #2
6. Discussion Exercise #3
7. Writing Exercise #3
8. Mid-Term Activity
9. Discussion Exercise #4
10. Writing Exercise #4
11. Discussion Exercise #5
12. Writing Exercise #5
13. Discussion Exercise #6
14. Writing Exercise #6
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% Active Class Participation
- 33.33% Written Assignments
- 33.33% Final Evaluation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

None

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be prepared to work in English in class discussing your ideas with other students and them putting them into writing.

キーワード /Keywords

writing, discussion, current topics

英語Ⅳ (律政 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Aim High for the TOEIC Test” 『TOEICテスト総合実践演習』（塩見佳代子共著）
成美堂 ￥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Review Test 1及び解説
- 7回 Unit 5
- 8回 Unit 6
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Review Test 2及び解説
- 12回 Unit 9
- 13回 Unit 10
- 14回 Unit 11
- 15回 Unit 12、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：60%、Review Test（2回）：20%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 中国語概説・単母音と声調
- 2 . 子音 1 と複母音 1
- 3 . 子音 2 と複母音 2 ・ 基本挨拶
- 4 . 鼻母音・音節と音便・教室用語
- 5 . 発音の復習とまとめ
- 6 . 「自己紹介」（判断文・疑問文 1 ・ 人称代名詞）
- 7 . 復習と実用練習
- 8 . 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文 2 ）
- 9 . 復習と実用練習
- 10 . 「両替」（願望表現・数字・場所）
- 11 . 復習と実用練習
- 12 . 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
- 13 . 復習と実用練習
- 14 . 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
- 15 . 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%(小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社 (2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (小テスト・課題・態度)、 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

ロシア語I【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。
到達目標はロシア語の基礎学力を身につけ、簡単な会話と読み書きができるようになること。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 つづりと発音 読んでみよう！ 挨拶をしてみよう！
- 2回 動詞の形（人称変化）、語順
- 3回 自己紹介をしてみよう！
- 4回 名詞の形1（1格）
- 5回 数字を使ってみよう！
- 6回 名詞の形2（4格）
- 7回 注文をしてみよう！
- 8回 名詞に付けて用いる語（所有冠詞など）
- 9回 趣味を尋ねてみよう！
- 10回 ニつ以上のものを表す表現（複数形）
- 11回 「いくつ？」と尋ねてみよう！
- 12回 名詞の形3（2格と3格）、人称代名詞
- 13回 感想を尋ねてみよう！
- 14回 名詞と一緒に用いる語（前置詞）
- 15回 時刻を尋ねてみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を話すことを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識及び理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会や文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 二つの部分に分かれる動詞（分離動詞）
- 2回 週末の予定を尋ねてみよう！
- 3回 動詞を従える動詞（話法の助動詞）/（未来形）
- 4回 電話をかけてみよう！
- 5回 過去のことを表す動詞の形（現在完了形）
- 6回 休暇に何をしたか尋ねてみよう！
- 7回 形容詞の形（形容詞の格変化）
- 8回 誕生日や日付を尋ねてみよう！
- 9回 人や事物を比べる表現（比較級、最高級）
- 10回 何が一番好きか尋ねてみよう！
- 11回 「・・・される」ことを表す動詞の形（受動態）
- 12回 副文を作る接続詞（従属接続詞）
- 13回 話されている言語について尋ねてみよう！
- 14回 非現実的なことを表す動詞の形（接続法第2式）
- 15回 丁寧に頼んでみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を正確に読み、発音できるようにしてほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにしたいと考えています。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく過程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればと思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

エスカパード! フランス語への旅 (CD)、ジャンニック・マーニュ 他著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 フランス語の挨拶 (名詞の性と数、冠詞)
- 3回 自己紹介 (主語人称代名詞、動詞être、形容詞〈1〉、否定文)
- 4回 年齢、趣味 (動詞avoir、疑問文、疑問形容詞)
- 5回 質問〈1〉 (第一群規則動詞、疑問代名詞)
- 6回 質問〈2〉 (疑問副詞、人称代名詞強勢形)
- 7回 ものや人の説明〈1〉 (形容詞〈2〉、指示形容詞)
- 8回 ものや人の説明〈2〉 (所有形容詞)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞)
- 10回 予定 (前置詞と定冠詞の縮約形、近接未来と近接過去)
- 11回 報告〈1〉 (第二群規則動詞、複合過去〈1〉)
- 12回 報告〈2〉 (複合過去〈2〉)
- 13回 時間と天候 (非人称構文)
- 14回 依頼 (命令法)
- 15回 復習と確認 (フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題 (50%)、学期末試験の結果 (50%) を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また6月のフランス語検定5級以上の合格者には、最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

1学期よりも高いレベルで基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を1学期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、それまでの学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

エスカパード！ フランス語への旅 (CD付き)、 ジャニック・ マーニュ 他 著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 贈り物〈1〉(補語人称代名詞)
- 第2回 贈り物〈2〉(中性代名詞)
- 第3回 日常の行動〈1〉(代名動詞)
- 第4回 日常の行動〈2〉(代名動詞の複合過去)
- 第5回 旅行(関係代名詞)
- 第6回 過去〈1〉(半過去)
- 第7回 過去〈2〉(複合過去と半過去、大過去)
- 第8回 復習と確認(フランス映画鑑賞)
- 第9回 未来の計画〈1〉(単純未来と前未来)
- 第10回 未来の計画〈2〉(比較級)
- 第11回 未来の計画〈3〉(最上級)
- 第12回 街中(現在分詞とジェロンデフ)
- 第13回 夢(条件法現在と過去)
- 第14回 感情表現(接続法現在と過去)
- 第15回 復習と確認(フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題(50%)、学期末試験の結果を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また11月のフランス語検定4級以上の合格者には、最低点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2520)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！2 -フランス美味探訪の旅-』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2625）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

Eメールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指す。

- 1回 アルザス地方への旅
- 2回 複合過去を使った表現
- 3回 半過去と大過去を使った表現
- 4回 ブルゴーニュ地方への旅
- 5回 関係代名詞を使った表現
- 6回 現在分詞・ジェロンディフを使った表現
- 7回 ローヌ・アルプ地方への旅
- 8回 受動態の表現
- 9回 強調構文
- 10回 プロヴァンス地方への旅
- 11回 条件法を使った表現
- 12回 接続法の表現
- 13回 ブルターニュ地方への旅
- 14回 間接話法と時制の一致について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランスの地方料理を巡る旅、フランス語を生きた言葉として実感

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19(含む1自治領)あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語(ローマ帝国の言語)を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見(1492年)以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。
具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』(第2版)
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス(共著)、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
スペイン(増田監修：新潮社)
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)
電子辞書も奨めます。辞書については最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（第2版）青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気の表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について：視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語（スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など）に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの会話表現を学んでいきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音とアクセント
- 3回 発音、挨拶 「お願いします」
- 4回 定冠詞、不定冠詞、hay 「空港に銀行はありますか」
- 5回 -ar動詞、否定文、疑問文I 「スペイン語を話しますか」
- 6回 数字1-100、動詞estar 「タクシー乗り場は何処ですか」
- 7回 動詞ir, dar 「どこに行きましようか」
- 8回 疑問文II、前置詞a
- 9回 estarとhayのまとめ
- 10回 形容詞 「感じのいい人たち」
- 11回 ser動詞、ser/estarと形容詞 「私はスペイン人です」
- 12回 ser/estarまとめ、時間表現 「何時ですか」
- 13回 -er動詞、-ir動詞 新聞は何処で売っていますか」
- 14回 所有詞 「アントニオは私の友人です」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、数字100-100.000
- 2回 語根母音変化動詞 「お勤めは何ですか」
- 3回 指示詞 「この果物は何ですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、感嘆文
- 5回 gustar構文 「頭が痛い」
- 6回 不規則動詞 「兄弟が二人います」
- 7回 不定詞の用法 「日曜の予約をしたい」
- 8回 直接目的格人称代名詞 「君にそれをあげる」
- 9回 命令(！) 「もう一度質問しなさい」
- 10回 再帰動詞 「何時に起きますか」
- 11回 「もう行っちゃうの」
- 12回 自己紹介 「私は石田です」
- 13回 現在分詞
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 70% 日常の授業への取り組み ... 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生活(5)【大学生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語発想力・表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語発想力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【高校・日本語学校と大学の違い・ 大学・学部・学科について学ぶ】
- 3回 大学生生活(2)【キャンパスツアー】
- 4回 論理的思考力(1)【大学生と論理的思考力・ リストアップする】
- 5回 大学生生活(3)【大学教員・ 職員との付き合い方】 論理的思考力(2)【マッピングする・ キーワードを繋げる】
- 6回 大学生生活(4)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(5)【大学生生活のデザイン】 論理的思考力(3)【イラストから読み取ったことを表現する】
- 8回 大学生生活(6)【講義の上手な受け方】 論理的思考力(4)【定義をする】
- 9回 大学生生活(7)【演習に参加するコツ】 論理的思考力(5)【日本語の語順に沿って考える・ 時間軸に沿って考える】
- 10回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 11回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 12回 チュートリアル(3)【修正】
- 13回 チュートリアル(4)【評価】
- 14回 大学生生活(8)【大学の定期試験】 論理的思考力(6)【主張に理由や具体例を加えて表現する・ 論理的に考えて表現する】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。

文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。

そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。

また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882頁

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 大学生活についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくる

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 亜紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「大学生活」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。
文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。
そして、ある文章を深く読むことによって、作者の主張と自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。
また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協同で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波書店編集部『大学活用法』2000年 岩波ジュニア新書 882円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 大学生活についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 大学生活についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 図式化して理解する
- 第7回 大学生活についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 大学生活についての読解 4
- 第10回 読んできた内容について話し合う
- 第11回 先輩の大学生活についてインタビューする
- 第12回 インタビューの内容についてまとめる
- 第13回 インタビューの内容を発表する
- 第14回 自分の大学生活について考える

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を 1 / 3 以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をし、ワークシートに記入してくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとっては、第二言語である日本語で自己表現を行うためには、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクスのワーク】
- 2回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 3回 「ウォーミングアップ編」【オノマトペのワーク】
- 4回 「ウォーミングアップ編」【比喩のワーク】
- 5回 「ウォーミングアップ編」【花束のワーク】
- 6回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 8回 「初級編」【マイセンテンス】
- 9回 「中級編」【パターンを見つける】
- 10回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 11回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 12回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 13回 「中級編」【経験から論じよう】
- 14回 「中級編」【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っててください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IとIIIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Ⅳに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジюмеを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Ⅳに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生に求められる読む力・自己評価
- 3回 絵やイラストを読む・表やグラフを読み取る
- 4回 表やグラフ以外のものを読み取る
- 5回 マッピングしながら読む・図解で考える
- 6回 文章を読んで図や表にする
- 7回 登場人物になったつもりで読む・どちらがいいかを考えながら読む
- 8回 理由を考えながら読む・前後の文脈から推論しながら読む
- 9回 資料を探す(スキミングとスキミング)
- 10回 資料を読む(批判的な読み方)
- 11回 レポートの特徴・ブックレポートを書く
- 12回 レジュメを作成する
- 13回 パソコンを使ったプレゼン・ポスターを使ったプレゼン
- 14回 日本語で読むことと自分について考える
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解 1
- 第3回 読んできた内容について話し合う 1
- 第4回 「学び」についての読解 2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解 3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解 4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を 1 / 3 以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学び」をテーマに文章を読みます。そして、読解した内容について話し合ったり、自分の経験について振り返ったりします。文章を読むことによって、日本語読解の基礎知識の底上げを図ります。そして、いくつかの文章を深く読むことによって、それぞれの筆者の意見を比較したり、自分の体験や知識を照らし合わせ、批判的、反省的に読む体験をします。また、グループで多くの活動を行うことによって、日本語での口頭活動も確保し、さらに、仲間に伝わるように日本語を話す能力、協力で活動する能力を養成します。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡部信一 (2005) 『ロボット化する子どもたち-「学び」の認知科学』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション お互いに知り合う
- 第2回 「学び」についての読解1
- 第3回 読んできた内容について話し合う1
- 第4回 「学び」についての読解2
- 第5回 読んできた内容について話し合う
- 第6回 比較してみよう
- 第7回 「学び」についての読解3
- 第8回 読んできた内容について話し合う
- 第9回 引用の仕方
- 第10回 「学び」についての読解4
- 第11回 読んできた内容について話し合う
- 第12回 図式化してみよう
- 第13回 自分の学びを振り返る
- 第14回 よく学べる環境とはどんな環境なのか話し合う
- 第15回 話し合う

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出30 期末テスト40 授業への参加30 授業を1 / 3以上欠席したのものには単位を与えない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてこよう

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしばり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、前半で『留学生のための懸賞論文コンクール』に応募するための小論文をピア・レスポンスで作成する。自分の意見を、ピア(仲間の学習者)同士で話し合い、書いたものが読み手によく伝わるように遂行する。後半では、スタディスキルのうちの聴解に焦点をしばり、聞き取りや講義を聴く技術、ノートテイキングを行う。さらに、音読発音練習として、シャドーイングを随時取り入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『聴解・発表ワークブック』(犬飼康弘、スリーエーネットワーク)
- 『シャドーイングで日本語発音レッスン』(戸田貴子、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 小論文①【マッピングでテーマを決める】
- 3回 小論文②【アウトラインを書く】
- 4回 小論文③【ピア・レスポンスで推敲する】
- 5回 聞き取り【音の変化】【キーワード】
- 6回 講義を聴く①【新聞】
- 7回 講義を聴く②【まなごしの心理学】
- 8回 メモを取る【記号・略語】
- 9回 発表の構成を知る【序・本・結】
- 10回 発表を聞いてメモを取る①【グラフの読み取り】
- 11回 ピア・ノートテイキング【ノートの使い方】
- 12回 メモを見て発表を再現する【発表の表現】
- 13回 シャドーイング①【音読】【マンプリング】
- 14回 シャドーイング②【パラレル・リーディング】
- 15回 総括【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 課題・レポート・発表・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分が履修している授業でそれぞれどのように聞き取り、ノートを取っているか意識しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。
日本語IVとVIは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ピア・レスポンス ノートテイキング シャドーイング

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、「歌舞伎」を日本語で学ぶことを通して、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を得る。歌舞伎に関する読み物を読み、歌舞伎鑑賞を行い、クラス内で議論し、レポートにまとめていく。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏・雄山閣出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 歌舞伎の歴史・江戸の町について
- 3回 歌舞伎鑑賞(1)【大序】
- 4回 登場人物造形(1)【高師直・若狭之助】
- 5回 歌舞伎鑑賞(2)【三段目】
- 6回 登場人物造形(2)【塩治判官】
- 7回 歌舞伎鑑賞(3)【四段目】
- 8回 切腹と武士道
- 9回 博多座6月大歌舞伎鑑賞
- 10回 振り返り
- 11回 忠臣蔵の世界観(1)
- 12回 忠臣蔵の世界観(2)
- 13回 現代日本を考える【インタビュー発表】
- 14回 歌舞伎と外国人・歌舞伎が外国へ与えた影響
- 15回 総括【文化継承の視点から私たちにできること】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

6月中に一度、博多座へ歌舞伎鑑賞に行きます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歌舞伎 日本文化 自文化

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 家根橋 伸子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Bでは、現代日本社会・文化事情についての様々なトピックを通して、前期「日本事情(人文)A」同様、日本社会・日本文化・日本人を理解する視点を得る。前半は設定されたトピックについて資料の読み込み、ディスカッション、そこから得られた自身の考えを表現する活動を中心に行う。後半は受講者それぞれがトピックを見つけ、資料を用意し、それをクラスで検討し各自の考えを構築することを中心とする。この過程を通して一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得、さらに行動へと動き出す契機となることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

※資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※授業において紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 トピック1①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 3回 トピック1②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 4回 トピック2①：資料1講読・ディスカッション1・記述1
- 5回 トピック2②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 6回 トピック3①：資料1講読・ディスカッション・記述1
- 7回 トピック3②：記述1のシェア・資料2・ディスカッション2・レポート(宿題)
- 8回 第2回～第7回の振り返り / 各自のトピック選定
- 9回 学生選定トピック1：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 10回 学生選定トピック2：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 11回 学生選定トピック3：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 12回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 13回 学生選定トピック4：発表と資料講読・ディスカッション・記述
- 14回 レポートピア評価
- 15回 レポートピア評価と総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料を前もって熟読し、自分の考えを持って授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一人一人が主体的に授業に参加することを求めます。発表やレポート記述では文法的な正しさより内容を重視します。

キーワード /Keywords

日本文化 日本社会 日本人 自文化

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題を取りあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本事情 (社会) A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国から来ている留学生に自国の公的医療制度を語ってもらう。その上でどの医療制度が我が国に最適かについて考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とヘバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリー労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ヘバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係の争点【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

この授業での主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互連関性を理解出来るようになる。
- ② 関連領域における情報を収集し、自らの考えや意見をもてるようになる。
- ③ 世界的な諸問題の解決を自らの問題として捉え、その解決策を探索出来るようになる。
- ④ 常日頃から世界の諸問題に関心を持ち、情報にアクセスする意欲を持てるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。随時、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細谷千博監修、滝田賢治・大芝亮編『国際政治経済 - 「グローバル・イシュー」の解説と資料』有信堂高文社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
「暴力と平和」 【構造的暴力】 【積極的平和】 【消極的平和】
- 第2回 「非国家アクターの役割」 【NGO/NPO】 【社会的企業】 【企業の社会的貢献 (CSR)】 【世界社会フォーラム】
- 第3回 「新興国の台頭」 【BRICS】 【G20】 【上海協力機構】
- 第4回 「領土・国境問題」 【国境線】 【国際紛争】
- 第5回 「人の非自発的移動」 【難民】 【国内避難民】
- 第6回 「人間の安全保障」 【恐怖からの自由】 【欠乏からの自由】
- 第7回 「人道的介入と保護する責任」 【NATO空爆】
- 第8回 「民主化とガバナンス」 【アラブの春】
- 第9回 「21世紀における軍事」 【米軍再編】 【テロとの戦い】 【基地問題】
- 第10回 「エネルギー問題」 【原子力】 【再生可能エネルギー】
- 第11回 「食と環境」 【アグリビジネス】 【遺伝子組み換え (GM) 作物】
- 第12回 「感染症」 【HIV/AIDS】 【結核】 【マラリア】
- 第13回 「国家間貿易」 【WTO】 【TPP】 【EPA/FTA】
- 第14回 「公正な取引」 【フェアトレード】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平素から新聞を読んだり、関連の新書を読むように心がけると授業内容の理解に役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策科学科の新入生がこれから政策を考察・研究するうえで必要となる基礎的な知識・視点・方法論を提供することです。その際、現代における政治・経済・社会的な変容の具体例を取り上げて、それらの変容が引き起こす社会問題はどのように捉えられて、それらの問題に対処する政策案はどのように研究されているかに焦点を当てます。「政策科学」という響きは極めて難解なものに聞こえるかもしれませんが、政策について考察・研究することはとても重要で面白い活動です。そこでは、いろいろな視点や方法が求められ、知的刺激が満載です。本講義を通じて、政策を考察・研究することのイメージを掴み、その面白さを感じ取ってください。

教科書 /Textbooks

今のところ指定するテキストはありません。詳細は第一回目の講義で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン-政策科学とは？
- 2回～6回 事例から政策を考えてみよう
 - ① 中心市街地の空洞化・衰退-アメリカの都市
 - ② 日本の地方都市における中心市街地の空洞化-北九州市（特に黒崎）
 - ③ 中心市街地の活性化の成功例-アメリカのコロラド州デンバー等
 - ④ コンパクト・シティ-青森市（青森市新町商店街の活性化策等も含む）
 - ⑤ 再開発を考える（行政主導の再開発ビル）
- 7回 データから政策を考えてみよう
 - 地方自治体の政策の比較，少子化問題等-
- 8回～10回 国際的要因の国内政策への影響を考えてみよう
 - 貿易・資本の国際化，国際競争，企業統治，国内経済政策等
- 11回～13回 現代の社会問題を政策的に考えてみよう
 - ① 一億総中流から格差社会へ-日本における貧困を考えてみよう
 - ② 格差社会のなかの日本-日本のセーフティネットを考えてみよう
 - ③ 公共事業における「公共性」とは-「鉄の三角形」を基にして考えてみよう
- 14回 政策過程モデルの検討
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50%；授業貢献度...50% 詳細は第1回目の講義で説明いたします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆ 予習用の読物として論文や記事等が指定されている場合は、授業前に目を通してきてください。
- ◆ 授業で配布された資料等を、授業後あらためてじっくり読み込んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会人として活動するためには、どのような職業でも、様々な社会の実状を調べ、分析して課題を認識し、自らの意思や意見を形成し、自分の属する組織や社会に訴えていくことが必要になる。

そのために必要な能力の中でも基本的な、感じる力・考える力を養うことを目的に、特徴的な社会現象（今年度は人口減少社会）を題材にして、図書などの読み方、資料の収集・レジユメやレポートの作成・効果的な発表の仕方などのトレーニングを行う。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 身近で生起する社会現象（今年度は人口減少）の中から政策課題を発見することができるようになる。
- ② 政策課題の傾向や原因を分析し、積極的に解決策の方向性を考えることができるようになる。
- ③ 上記①②を論理的に説明することができるようになる。
- ④ グループ討議やゼミ生との交流を通じて、活発なコミュニケーションを行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

レジユメ、図書・新聞・雑誌のコピーなどを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）
江下雅之『レポートの作り方』（中公新書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ①政策とは、②政策立案の実際、③政策立案能力
- 3回 ①都市の意味、②地方自治体とは
- 4回 地方自治体に求められること
- 5回 日本の人口動向（調査）
- 6回 人口減少が社会にもたらす影響（討議）
- 7回 国・地方自治体の人口対策
- 8回 人口減少社会における生産活動
- 9回 人口減少社会の将来（討議）
- 10回 外国人の在留資格（調査）
- 11回 外国人労働者の研修制度
- 12回 外国人の活用方法
- 13回 プレゼンテーション資料の作成
- 14回 プレゼンテーションとディベート
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。
- ② ワープロ、エクセル、パワーポイントの知識・技能の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、受講者が発表、発言等を行い積極的に参加する「演習」形式の授業における技法を学ぶことを目指す。1学期の政策入門演習Ⅰでは、口頭発表や議論といった、大学の演習で必要とされる技法を身につけることを目的とする。授業で扱うテーマは、国際的または世界的な問題・課題のみであり、日本国内の政治や政策は対象としない。DVDを見て資料を読んだ後に、担当学生がテーマに沿った口頭発表をグループで行い、議論を進める。

政策科学科のカリキュラムマップによると、この授業の主な到達目標は以下の4点である。

- ・ 政策動向を正確に読み取ることで個別・具体的な政策課題を発見し、その分析結果をもとに様々な観点から自主的に物事を捉えた独自の政策を立案し、その効果を評価する。(課題発見・分析・解決力)
- ・ 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭・文章によって適切にプレゼンテーションを行う。(プレゼンテーション力)
- ・ より良い市民社会の実現に向けた諸活動に主体的に参加する意欲を持つ。(実践力(チャレンジ力))
- ・ 社会における問題の発見、その解決策の考案・実施に際し、他者と建設的・効果的にコミュニケーションをとり、協働する。(コミュニケーション力)

教科書 /Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○森靖雄『大学生の学習テクニク』(大月書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学での学び方
- 第2回 図書館、資料室の使い方
- 第3回 口頭発表・議論のやり方
- 第4回 自分と世界のつながり
- 第5回 学生によるグループ発表と議論(1)(各回異なる国際的な問題・課題をテーマとする)
- 第6回 学生によるグループ発表と議論(2)
- 第7回 学生によるグループ発表と議論(3)
- 第8回 学生によるグループ発表と議論(4)
- 第9回 学生によるグループ発表と議論(5)
- 第10回 学生によるグループ発表と議論(6)
- 第11回 学生によるグループ発表と議論(7)
- 第12回 学生によるグループ発表と議論(8)
- 第13回 学生によるグループ発表と議論(9)
- 第14回 学生によるグループ発表と議論(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加(50%)、口頭発表(50%)
授業回数の3分の1以上欠席した場合は「不可」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表担当学生は、事前に十分な準備を行うこと。
自分が口頭発表を担当する授業に無断で欠席・遅刻しないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、社会科学分野での研究の方法論の基礎を学び、アカデミック・リテラシーを身につけてもらう。Research questionとは何か、どのように設定すればよいか、研究はどんなことを考慮しながら行うべきか、どのような研究手法があるか、概念をいかに使うか、概念をいかに操作化するか、どのようにデータを集めるか・分析するか、などを学ぶことを通じて、科学的研究・調査はいかに行うべきかを学ぶ。

ここで学ぶものは、大学4年間の学業生活を通して使える、問題発見・解決の有益な技能・知識であり、さらに大学生活後のプロフェッショナル・ライフ、人生で、より生産的なキャリアを構築することを可能にする技能・知識である。

教科書 /Textbooks

Ted Palys, Research Decisions: Quantitative and Qualitative Perspectives, 2nd edition. Toronto, Canada: Harcourt Brace, 1997. (なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

1学期は、学期の3分の2くらいを使って、テキストの講読・理解を通して科学的研究調査の基礎を学ぶ。そして残りの期間で、前半で学んだ知識を用いて実際に研究・調査を行ってもらおう。2学期は1学期に学んだ知識・技能を用いて発展させ、個々の学生が政策分野の中からひとつを選び、その分野でのresearch questionを設定し、研究・調査を進め、クラスでの発表・討論を行う。個々の学生の研究プロジェクトを教材として使い、個々のプロジェクトを考察し、討議し、より良いデータ収集、分析方法、分析結果の解釈などを考えることによって、研究・分析・調査の方法を体感的に学習し、身につけてもらう。(政策分野とはたとえば、雇用、経済成長、福祉、教育、財政、医療、金融、社会保障、競争政策など)。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 科学的研究とは何か
3. 科学的研究とは何かII (extension)
4. 科学の方法(1)定量的方法、定性的方法
5. 科学の方法(2)いかなる方法によって科学的な知識を得るか
6. 科学の方法(3)仮説とそのテスト、理論とデータI
7. 科学の方法(3)仮説とそのテスト、理論とデータII (extension)
8. 研究のタイプと研究のデザイン
9. 研究のタイプと研究のデザインII (extension)
10. 研究課題・理論的問題の設定、リサーチ・デザインの構築、研究結果のまとめ方
11. 研究課題・理論的問題の設定、リサーチ・デザインの構築、研究結果のまとめ方 (extension)
12. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (1・ 2人目)
13. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (3・ 4人目)
14. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (5・ 6人目)
15. 応用・実践 - 研究の実行と研究経過報告・討論 (7・ 8人目)

政策入門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)研究論文あるいは期末総合テストが60%(どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日まで読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらう。研究の課題、研究方法・計画・参考文献の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

研究方法論、アカデミック・リテラシー、社会科学、分析方法、データ収集・分析、研究結果報告

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから政策科学を研究する学生が1年生の時に学習しておくべき基礎的事項を身につけてもらうことにあります。大学で研究することは高度な内容も当然含んでいますが、基本的には「読み、書き、話す」といったことの延長線上にあります。したがって、特に1学期には、大学で「読み、書き、話す」にはどうすればよいかということについて、本演習担当者の経験をまじえて演習で学んでいただきます。

また、これをふまえ①社会科学における「仮説」型思考の重要性、②(結果の暗記ではなく)創造するプロセスの重要性、③創造の方法論、④物事を多角的にみることの重要性、などについても基礎的な作業をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

刈谷剛彦『複眼的思考法 - 誰でも持っている創造力のスイッチ』(講談社、2002年)
小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書、2009年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)
高根正昭『創造の方法学』(講談社、1979年)
川喜田二郎『発想法-創造性開発のために』(中央公論新社、1967年)
竹内薫『99.9%は仮説-思い込みで判断しないための考え方』(光文社新書、2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 - 自己紹介および発声練習?
 - 2回 (図書館ツアー)及び図書館の使い方(指示に従って図書館を使ってもらいます)
 - 3回 大学で研究するとは?大学で「読み、書き、話す」
 - 4回 プレゼンテーション(1)-自分の身近なことを時間内に発表する
 - 5回 プレゼンテーション(2)-新聞記事等の話題をまとめて発表する
 - 6回 プレゼンテーション(3)-同上
 - 7回 「読んで」「発表する」(1)-社会科学(政策科学)の文献の輪読をかねて
 - 8回 「読んで」「発表する」(2)-社会科学(政策科学)の文献を輪読をかえて
 - 9回 「読んで」「発表する」(3)-社会科学(政策科学)の文献を輪読をかねて
 - 10回 「読んで」「発表する」(4)-社会科学(政策科学)の文献を輪読をかねて
 - 11回 レポートを書く(1)-引用注の付け方等レポートについて
 - 12回 レポートを書く(2)-実際に書いてみる
 - 13回 デイバート(1)-ルールの説明等
 - 14回 デイバート(2)-デイバートの実践1
 - 15回 デイバート(3)-デイバートの実践2
- * 上記のスケジュールは、受講生の理解度等によって変更することもあります。あくまで予定として考えてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・授業貢献度... 70 % レポート等 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業に際しては、割り当てられたところを必ず準備して参加するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この演習では、政治や行政をめぐる様々な問題を対象として、情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論など、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。

①「図書館への指定管理者導入」、②「学校選択制」、③「首相公選制」などについて報告と議論を行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価について
- 第2回 資料収集方法(図書館等の利用案内含む)、レジュメの作り方、報告の仕方
- 第3回 受講生による報告と議論① 図書館への指定管理者導入
- 第4回 受講生による報告と議論① 学校選択制
- 第5回 受講生による報告と議論① 首相公選制
- 第6回 受講生による報告と議論② 図書館への指定管理者導入
- 第7回 受講生による報告と議論② 学校選択制
- 第8回 受講生による報告と議論② 首相公選制
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 中間まとめ
- 第11回 討論 図書館への指定管理者導入
- 第12回 討論 学校選択制
- 第13回 討論 首相公選制
- 第14回 最終報告
- 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席1回につき、5点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習の到達目標は、以下の通りである。

- ① 受講者が発表、発言等を行い積極的に参加する「演習」形式の授業における技法を学ぶこと
- ② 情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論

広く世の中の出来事や図書を題材として、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて、題材はできるだけ広く設定します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

酒井聡樹 (2007) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』 共立出版
 荻谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』 講談社+α文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方について
- 第2回 資料収集方法 (図書館等の利用案内含む)
- 第3回 レジユメの作り方、報告の仕方
- 第4回 プレゼンテーション①身近なことを報告
- 第5回 プレゼンテーション②新聞記事等から社会問題を報告
- 第6回 文献輪読
- 第7回 文献輪読
- 第8回 文献輪読
- 第9回 文献輪読
- 第10回 文献輪読
- 第11回 レポートの書き方
- 第12回 討論①
- 第13回 討論②
- 第14回 討論③
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加 (50%)、口頭発表 (50%)
 * 授業回数の3分の1以上欠席した場合は「不可」となる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業は政策入門演習Ⅱと抱き合わせの科目です。

大学生の学習方法は高校の暗記中心の受験勉強とはかなり異なります。大学ではもっと自分を開花させることを念頭においてください。本授業では、まず、大学生としての自覚を持てるための学習を行い、その中では、自分が何に興味があるのかを探り、方法論を勉強し、結果を導き出すという作業を行います。同時に、グループワークやインタビューを通じてのコミュニケーション能力やファシリテーション能力をつける必要があります。次に、政策科学科に属している以上、政策科学の学習は非常に重要でそのことを学習します。

大学の4年間の1年目をきちんと学習するかしないかで、それ以降の学年の学習態度や生活態度が決定されるといっても過言ではありません。自分のしっかりとした目標をたて、その実現に向かって頑張ってください。本授業では、単に知識を頭に入れるだけでなく、現場での実践や体験も重んじます。

教科書 /Textbooks

- * 中道寿一編『政策研究』福村出版、2011年
- * 森時彦『ファシリテーターの道具箱』ダイヤモンド社、2008年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- * 森靖男『大学生の学習テクニク』大月書店、1994年
- * グループワーク用の教材・資料(自ら準備の必要なし)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「政策入門演習Ⅰ」の目的・内容説明、アイスブレイキング(自分探しと相手への理解)
- 第2回 大学生としての心得1~勉強、生活やアルバイトやなど
- 第3回 大学生としての心得2~コミュニケーションやマナーなど & ゼミ合宿に向けての準備
- 第4回 若園地区ESD協議会との交流~地域問題を考える1
- 第5回 その振り返り & ファシリテーション技法の取得1
- 第6回 ファシリテーション技法の取得2
- 第7回 コミュニケーション技法の取得1
- 第8回 若園地区ESD協議会との交流~地域問題を考える2
- 第9回 その振り返り & コミュニケーション技法の取得2
- 第10回 教科書政策研究の実際1の輪読と議論
- 第11回 教科書政策研究の実際2の輪読と議論
- 第12回 若園地区ESD協議会との交流~地域問題を考える3
- 第13回 その振り返り
- 第14回 韓国・海洋大学との交流に関する準備
- 第15回 まとめ

課外授業: 藍島でのフィールドワーク、4月か5月にゼミ合宿、
夏季休暇中に韓国プサンの海洋大学の学生との合同グループワーク調査活動

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...50% 小試験(指定資料の読了事前確認用)...20% グループワークへの参加度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

藍島(小倉北区)でのフィールドワーク、4月か5月のゼミ合宿、夏季休暇中の韓国プサンへのスタディツアーを実施する予定です。そのための準備・事後学習をしてもらいます。輪読用指定図書を読了。

履修上の注意 /Remarks

屋外での活動については危険に遭遇する機会が屋内に比べて多いので、自ら安全には徹底して留意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な、主体的な政策入門ゼミにかかわってほしい。夏季休暇は重要なので、完全に大人としての自覚を持てるような生活を送ってほしい。

キーワード /Keywords

主体性、フィールドワーク、グループワーク、大学生としての学習方法

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学生活・研究活動に必要なスキルと能力を学んでもらうことを目的としています。大学にはどんな施設があるのか、そして勉強するときどのような情報をどのように調べればよいのかを知っておいたほうがいろいろと便利だろうし、また演習のような授業では“レジュメ”を作ったり、レポートを書いたり、またみんなの前で研究内容を発表したり、それについて議論したりといろいろな知識と技術が必要になってきます。こうした大学生として立派に成長できるようにサポートするのがこの演習の主題です。また、年間を通じて「読書課題」に取り組んでもらいます。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめまして【メンバーの特徴を確認する】【大学生の心得】
- 2回 大学を旅しよう【キャンパスふしぎ発見】
- 3回 大学を旅しよう【キャンパス不思議発見の報告】
- 4回 大学生として羽ばたこう①【図書館を知る】
- 5回 大学生として羽ばたこう②【情報を集める】
- 6回 大学生として生き延びよう①【レジュメづくり】【レジュメとは】
- 7回 大学生として生き延びよう①【レジュメを作ってこよう】
- 8回 大学生として生き延びよう②【プレゼンテーション基礎】
- 9回 大学生として生き延びよう②【プレゼンの準備】
- 10回 大学生として生き延びよう②【プレゼン大会】
- 11回 大学生として生き延びよう③【文献に慣れよう】
- 12回 大学生として生き延びよう③【文献を読んでみよう】
- 13回 大学生として成長しよう【政策立案】【チーム編成】
- 14回 大学生として成長しよう【政策立案の準備】
- 15回 大学生として成長しよう【政策立案プレゼン大会】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む積極性、報告の仕方・内容などを基準に判断します。何事にもがむしゃらで一生懸命な人は評価されます。また、「読書課題」は必須の要件です。
積極参加点+読書課題・・・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とにかく前向きに取り組んでみよう。毎回休まないように健康に気をつけましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

"No pain, no gain"・・・ただ、それだけです。

キーワード /Keywords

政策入門演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、大学における講義・演習・実習において必要な技法を習得することです。具体的には、日常生活や社会現象のなかにある問題の発見、情報・資料・データ等の収集・整理、レジュメの作成、プレゼンテーション、議論を受講生が実際に行うことで、これらの技術を身に付けることを目指します。

実際の演習では、情報収集の仕方（図書館の使い方等を含む）と合わせてレポート・論文の書き方を学び、その後、受講生のみなさん自身の興味関心に基づいて政策や制度、地方自治に関する文献を選んでもらい、レジュメを作成し、報告をする、といったことを行う予定です。報告担当以外の受講生も、事前に論文を読むなどの準備をし、演習に臨んでください。また、受講生が作成したレジュメや報告の仕方、議論への貢献についてなどを互いに講評することで、スキルアップもはかりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じて適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 酒井聡樹 (2007) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』 共立出版
- 河野哲也 (2002) 『レポート・論文の書き方入門 第3版』 慶應義塾大学出版会
- 刈谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』 講談社+α文庫
(議論や発表に必要な文献については適宜指示します)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----|--|
| 1回 | ガイダンス・第1回目の課題についての説明 |
| 2回 | 課題①の報告 【みんなにすすめたいこの一冊】 |
| 3回 | レポート・論文を書く前に 【大学の勉強とは？プレゼンテーションとは？レポート・論文とは？】 |
| 4回 | レポート・論文の書き方(1) 【なぜ書くのか？どうやって書くのか？】 【情報収集の方法】 |
| 5回 | 課題②の報告 【最近特に気になった新聞記事を紹介】 |
| 6回 | レポート・論文の書き方(2) 【なぜ「先行研究」の検討は必要？】 【仮説とは？】 【レジュメの作成】 |
| 7回 | レポート・論文の書き方(3) 【参考文献】 【引用の仕方】 |
| 8回 | 文献探し |
| 9回 | 文献報告 |
| 10回 | 文献報告 |
| 11回 | 文献報告 |
| 12回 | 文献報告 |
| 13回 | 文献報告の講評 |
| 14回 | レポート課題についての説明 |
| 15回 | まとめ |

成績評価の方法 /Assessment Method

課題50%、議論・質疑応答への参加50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

入門演習Ⅰを受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ、世の中で起きている事件・事象に関心を持ち、それに対して自分はどう考えるのか等、常にアンテナを張った生活をするのが、この演習の目指す「大学における講義・演習・実習において必要な技法の習得」に役立つと思います。また演習の醍醐味は議論です。恥ずかしがらず、積極的に自分の意見や疑問を述べることに是非、慣れて下さい。なお上記スケジュールは受講生の人数や希望により変更することがあります。

履修上の注意 /Remarks

政策入門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎年、第一回目の課題として、「みんなにすすめたいこの一冊」を発表してもらっています。小説・ノンフィクション・伝記・絵本・漫画など、ジャンルも多様、またその本との出会い方・思い入れも「子どもの時から何度も何度も読み続けている」「部活の先輩から教わった自分のバイブル」「入試の勉強中に読み、続きが知りたくて塾の帰りに本を探した」「辛いことがあったときに泣くために読む」「高校の時、担任の先生が熱く語ってくれた思い出の一冊」...本当に様々で興味深いことこの上ありません。この発表に際し、いつも思うのは「活字の威力」とそれに触れたみなさんの「想像力の豊かさ」。入門演習でも多くの文献を読み、議論をしますが、「活字の威力」の長所と短所、「想像力」の素晴らしさと限界、受講生とともに私も学んでいきたいと思っています。

キーワード /Keywords

政策入門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要とされる「話すこと・発表すること」に関するスキルの基礎を身に着けることを目指します。実際に討論や発表を準備し、授業中に行い、互いに評価しあうことで、着実にスキルを向上させていきます。なお、授業の内容は、履修者の要望やスキル習得の状況に合わせて変更することがあります。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』、松本茂・河野哲也 著、玉川大学出版部。
『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門 (第2版)』、佐藤望他 著、慶應義塾大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 大学で学ぶこと・研究すること
- 第2回 自分に必要なスキルはなにかを考える
- 第3回 討論はなぜ必要か・討論のテーマを考える
- 第4回 討論のスキル
- 第5回 討論の実践I
- 第6回 討論の実践II
- 第7回 討論の実践III
- 第8回 討論のスキルについてのまとめ
- 第9回 発表の目的と種類・発表するテーマを考える
- 第10回 発表のスキル
- 第11回 発表の実践I
- 第12回 発表の実践II
- 第13回 発表の実践III
- 第14回 発表のスキルについてのまとめ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、討論・発表などの課題...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

討論・発表など課題の準備。

履修上の注意 /Remarks

授業では積極的に疑問・要望を知らせてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会人として活動するためには、どのような職業でも、様々な社会の実状を調べ、分析して課題を認識し、自らの意思や意見を形成し、自分の属する組織や社会に訴えていくことが必要になる。

そのために必要な能力の中でも基本的な、感じる力・考える力を養うことを目的に、特徴的な社会現象（今年度は商店街の再生とコンパクトシティ）を題材にして、図書などの読み方、資料の収集・レジュメやレポートの作成・効果的な発表の仕方などのトレーニングを行う。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 身近で生起する社会現象（今年度は商店街の衰退）の中から政策課題を発見することができるようになる。
- ② 政策課題の傾向や原因を分析し、積極的に解決策（今年度はコンパクトシティの実現）の方向性を考えることができるようになる。
- ③ 上記①②を論理的に説明することができるようになる。
- ④ 政策に関する基礎的な論文やプレゼンテーション資料を作成できるようになる。
- ⑤ グループ討議やゼミ生との交流を通じて、活発なコミュニケーションを行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

レジュメ、図書・新聞・雑誌のコピーなどを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）
江下雅之『レポートの作り方』（中公新書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商店街の状況（各自発表）
- 2回 商店街の意義と機能
- 3回 ①商店街衰退の原因、②魅力ある商店街
- 4回 地方自治体の商店街活性化対策
- 5回 ①国の商店街活性化対策、②商店街と他の商業施設の相違
- 6回 中心市街地と商店街
- 7回 中心市街地とまちづくり三法
- 8回 TMOとBID
- 9回 コンパクトシティの実態
- 10回 コンパクトシティの実現方法
- 11回 これからの都市の在り方（討議）
- 12回 プレゼンテーション資料の作成（グループ別）
- 13回 プレゼンテーション（グループ別）
- 14回 デイバート
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、調査・討議・発表論文作成などへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ① 地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。
- ② ワープロ、エクセル、パワーポイントの知識・技能の習得に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期の政策入門演習Iで学んだことを踏まえて、世界の各地域の国際関係や政治について考えることを目指す。授業で扱うテーマは、国際的な課題や日本以外の国の国際関係および政治であり、日本国内の政治や政策は対象としない。前半は、DVDを見て資料を読んだ後に、担当学生がテーマに沿った口頭発表をグループで行い、議論を進める。後半は、受講者が各自で自由にテーマを設定し(ただし日本以外の国の政治や国際問題に関するテーマ)、情報・資料収集や調査を自主的に行い、研究発表をする。

政策科学科のカリキュラムマップによると、この授業の主な到達目標は以下の4点である。

- ・ 政策動向を正確に読み取ることで個別・具体的な政策課題を発見し、その分析結果をもとに様々な観点から自主的に物事を捉えた独自の政策を立案し、その効果を評価する。(課題発見・分析・解決力)
- ・ 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭・文章によって適切にプレゼンテーションを行う。(プレゼンテーション力)
- ・ より良い市民社会の実現に向けた諸活動に主体的に参加する意欲を持つ。(実践力(チャレンジ力))
- ・ 社会における問題の発見、その解決策の考案・実施に際し、他者と建設的・効果的にコミュニケーションをとり、協働する。(コミュニケーション力)

教科書 /Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○森靖雄『大学生の学習テクニック』(大月書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方の説明
- 第2回 世界と日本
- 第3回 自由テーマの研究発表のやり方・レポートの書き方
- 第4回 学生によるグループ発表と議論(1)(各回異なる国際的な問題・課題をテーマとする)
- 第5回 学生によるグループ発表と議論(2)
- 第6回 学生によるグループ発表と議論(3)
- 第7回 学生によるグループ発表と議論(4)
- 第8回 学生によるグループ発表と議論(5)
- 第9回 まとめ
- 第10回 学生による自由テーマの研究発表と議論(1)
- 第11回 学生による自由テーマの研究発表と議論(2)
- 第12回 学生による自由テーマの研究発表と議論(3)
- 第13回 学生による自由テーマの研究発表と議論(4)
- 第14回 学生による自由テーマの研究発表と議論(5)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加(50%)、口頭発表(50%)
授業回数の3分の1以上欠席した場合は「不可」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表担当学生は、事前に十分な準備を行うこと。
自分が口頭発表を担当する授業に無断で欠席・遅刻しないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、社会科学分野での研究の方法論の基礎を学び、アカデミック・リテラシーを身につけてもらう。Research questionとは何か、どのように設定すればよいか、研究はどんなことを考慮しながら行うべきか、どのような研究手法があるか、概念をいかに使うか、概念をいかに操作化するか、どのようにデータを集めるか・分析するか、などを学ぶことを通じて、科学的研究・調査はいかに行うべきかを学ぶ。

ここで学ぶものは、大学4年間の学業生活を通して使える、問題発見・解決の有益な技能・知識であり、さらに大学生活後のプロフェッショナル・ライフ、人生で、より生産的なキャリアを構築することを可能にする技能・知識である。

教科書 /Textbooks

Ted Palys, Research Decisions: Quantitative and Qualitative Perspectives, 2nd edition. Toronto, Canada: Harcourt Brace, 1997.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指定

政策入門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

1学期は、学期の3分の2くらいを使って、テキストの講読・理解を通して科学的研究調査の基礎を学ぶ。そして残りの期間で、前半で学んだ知識を用いて実際に研究・調査を行ってもらおう。2学期は1学期に学んだ知識・技能を用いて発展させ、個々の学生が政策分野の中からひとつを選び、その分野でのresearch questionを設定し、研究・調査を進め、クラスでの発表・討論を行う。個々の学生の研究プロジェクトを教材として使い、個々のプロジェクトを考察し、討議し、より良いデータ収集、分析方法、分析結果の解釈などを考えることによって、研究・分析・調査の方法を体感的に学習し、身につけてもらう。(政策分野とはたとえば、雇用、経済成長、福祉、教育、財政、医療、金融、社会保障、競争政策など)。

つまり、1・2学期を通して概念的に学んだ研究の方法論に関する技能・知識を実践に移し、技能・知識習得を促し、社会科学分野の研究なら今学期以降いつでも遂行できるようにする。

スケジュールは、毎週学生の研究について検討・討論し、いかにその研究が最善の方法で遂行されるかについて学ぶ。教科書やその他資料が補足的に用いられる。学生の発表と討論を中心に毎週授業を進める。

1. 問題設定、運営計画策定
2. 報告、考察、批評、提言(1人目、2人目)
3. 報告、考察、批評、提言(2人目、3人目)
4. 報告、考察、批評、提言(3人目、4人目)
5. 報告、考察、批評、提言(4人目、5人目)
6. 報告、考察、批評、提言(5人目、6人目)
7. 報告、考察、批評、提言(6人目、7人目)
8. 報告、考察、批評、提言(7人目、8人目)
9. 報告、考察、批評、提言(8人目)、再分析、再考察、最終作業(1人目)
10. 再分析、再考察、最終作業(2人目、3人目)
11. 再分析、再考察、最終作業(4人目、5人目)
12. 再分析、再考察、最終作業(6人目、7人目)
13. 再分析、再考察、最終作業(8人目)
14. 最終報告
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)研究論文が60%。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストなどの教材を指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、学期末提出の研究論文の質で決める。

論文は、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

また、学期前半に、加筆修正された研究計画書の最新版を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画・参考文献・経過報告の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

研究方法論、アカデミック・リテラシー、社会科学、分析方法、データ収集・分析、研究結果報告

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

1学期に身につけた知識・スキルを基に、2学期には「まちづくり」「福祉政策」等の現代日本における様々な政策課題をゼミで①ディベートしたり(議論したり)、②実際にグループに分かれて調査し、③政策提言するうえでの方法論を学ぶなど、より政策科学的な演習を行います。本年度は、「超高齢社会」「無縁社会」「単身急増社会」といったキーワードを中心にして、大きく変わろうとしている日本社会とこれからの公共政策の在り方について考察していきたいと思っています。

また、NPOや実際に政策が実施されている現場に視察にいて、実際に政策運営に携わっているアクターにインタビューするなど、より実践的内容の演習を行います。視察に行く上でアポイントメントをとったり、調査票の質問項目を作るといったことは容易に思えていざやろうとするとなかなかうまくいかないものです。演習ではこのような実践的側面を含め知識を深めていただこうと思います。

(* 希望者には榎原主催の「政策調査」に調査員として参加することも可能です。)

教科書 /Textbooks

刈谷剛彦『複眼的思考法-誰でも持っている創造力のスイッチ』(講談社、2002年)
小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書、2009年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)
辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法-実践ノウハウとパソコン支援』(朝倉書店、1987年)
大谷信介ほか編著『社会調査へのアプローチ-論理と方法[第2版]』(ミネルヴァ書房、2005年)
小池和男『聞き取りの作法』(東洋経済新報社、2000年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 デイベート(1)-天下り
- 2回 デイベート(2)-脱原発
- 3回 デイベート(3)-格差社会など
- 4回 今週の公共政策(1)-自分の興味のある公共政策について発表する
- 5回 今週の公共政策(2)-発表と議論
- 6回 今週の公共政策(3)-これまでのまとめ
- 7回 公共政策のケース・スタディ-ケース・スタディとは何か
- 8回 公共政策のケース・スタディ-ケース・スタディの実践
- 9回 今週の公共政策(4)-公共政策の分析
- 10回 今週の公共政策(5)-解決策の提案
- 11回 研究発表の仕方
- 12回 論文の書き方-注の付け方等の復習等
- 13回 インタビューの仕方を考える
- 14回 現代日本の政策課題(1)-割り当てられた部分の発表
- 15回 現代日本の政策課題(2)-分析・検討

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度... 60% レポートや課題... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題として指定されたところは必ず準備して授業にのぞんでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「政策入門演習I」に引き続いて、情報収集・整理、分析、プレゼンテーションなど基本能力のトレーニングを進めていきます。Iでは、本の読み方、資料収集、レジュメ作成が中心になりますが、IIでは、レポートの作成方法、討論などを中心に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。

①「公立保育所民営化」、②「二ト」、③「天下り」について、報告と議論を行う予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価について
- 第2回 レポートの書き方
- 第3回 受講生による報告と議論① 公立保育所民営化
- 第4回 受講生による報告と議論① 二ト
- 第5回 受講生による報告と議論① 天下り
- 第6回 受講生による報告と議論② 公立保育所民営化
- 第7回 受講生による報告と議論② 二ト
- 第8回 受講生による報告と議論② 天下り
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 中間まとめ
- 第11回 討論 公立保育所民営化
- 第12回 討論 二ト
- 第13回 討論 天下り
- 第14回 最終報告
- 第15回 最終報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・討論内容...100% 欠席1回につき、5点程度減点

* 受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政策入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習の到達目標は、以下の通りである。

- ①受講者が発表、発言等を行い積極的に参加する「演習」形式の授業における技法を学ぶこと
- ②情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論

広く世の中の出来事や図書を題材として、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて、題材はできるだけ広く設定します。IIでは、1よりも受講者による研究報告、文献報告とディベートを中心に進めていきます。課題は、受講者の関心を踏まえつつ、設定します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 プレゼンテーションの技法
- 第3回 研究報告①
- 第4回 研究報告②
- 第5回 文献輪読
- 第6回 文献輪読
- 第7回 文献輪読
- 第8回 ディベート①
- 第9回 文献輪読
- 第10回 文献輪読
- 第11回 文献輪読
- 第12回 ディベート②
- 第13回 研究報告③
- 第14回 研究報告④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 議論への参加 (40%)、口頭発表 (40%)、レポート (20%)
- * 授業回数の3分の1以上欠席した場合は「不可」となる
- * レポートを提出しない場合は「不可」となる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業は政策入門演習Iと抱き合わせの科目です。

政策入門演習Iで習った大学生の学習方法を次は実践する番です。グループワークで自らの関心に基づき、テーマを決め、最終的には報告書（もしくは論文）の完成にまで皆さん方の能力を高めていてもらいます。私が積極的に指導できる教育内容は、政策科学、ESD（持続可能な開発のための教育）、環境教育や国際協力の分野などです。そこで、自分の課題の性格・内容に応じて、必要であれば、グループワーク、インタビューやファシリテーション能力の獲得を行ってもらいます。目標をたて、その実現に向かって頑張ってください。本授業では現場での実践や体験も重んじます。

教科書 /Textbooks

* グループワーク用の教材・資料（自ら準備の必要なし）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 降旗信一・高橋正弘編『現代環境教育入門』筑波書房、2009年
- * 武田邦彦『偽善エコロジー―「環境生活」が地球を破壊する』幻冬舎新書、2008年
- * 池上彰『そうだったのか!現代史〈パート2〉』集英社文庫、2008年
- * 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』現代講談社新書、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「政策科学入門II」の目的・内容説明、自らの学習テーマの設定
- 第2回 一学期に学んだ政策研究の基本についての復習
- 第3回 夏季休暇に行った韓国・海洋大学との交流を通じての成果の発表
- 第4回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える 4
- 第5回 その振り返り ESDについての学習 1
- 第6回 ESDについての学習 2
- 第7回 ESDについての学習 3
- 第8回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える 5
- 第9回 その振り返り
- 第10回 環境教育についての学習 1
- 第11回 環境教育についての学習 2
- 第12回 若園地区ESD協議会との交流～地域問題を考える 6
- 第13回 各ゼミ生のテーマ学習の成果発表 1
- 第14回 各ゼミ生のテーマ学習の成果発表 2
- 第15回 まとめ

10月には水俣もしくは若松区へのスタディツアーの実施、11月下旬ごろ1泊2日で1年生から4年生までの合同合宿の開催予定、まなびとESDステーションでのプロジェクトの手伝い

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...50% 小試験（指定資料の読了事前確認用）...10% グループワークを通しての報告書づくりとその成果発表...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読用指定図書を読了、藍島（小倉北区）でのフィールドワーク、水俣または若松区環境モデル地区研修旅行への参加、合宿参加

履修上の注意 /Remarks

できるだけ現場を楽しむ心構えを持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会人になる手前として大学にて教育を受けるが、実践活動と同時に生きるための知恵がつくような幅広い教養を身に付けてほしい。

キーワード /Keywords

政策研究、ESD（持続可能な開発のための教育）、環境教育、フィールドワーク、スタディツアー、若園地区ESD協議会との交流、まなびとESDステーション

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学生生活・研究活動に必要なスキルと能力を学んでもらうことを目的としています。大学にはどんな施設があるのか、そして勉強するときどのような情報をどのように調べればよいのかを知っておいたほうがいろいろと便利だろうし、また演習のような授業では“レジュメ”を作ったり、レポートを書いたり、またみんなの前で研究内容を発表したり、それについて議論したりといろいろな知識と技術が必要になってきます。こうした大学生として立派に成長できるようにサポートするのがこの演習の主題です。IIではIで培った知識と技術を踏まえて、皆様の成長をサポートします。

教科書 /Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 真剣勝負！ディベート大会！！①【ガイダンス】
- 2回 真剣勝負！ディベート大会！！②【1つ目のテーマについて】
- 3回 真剣勝負！ディベート大会！！③【2つ目のテーマについて】
- 4回 真剣勝負！ディベート大会！！④【3つ目のテーマについて】
- 5回 真剣勝負！ディベート大会！！【ディベートの反省会】
- 6回 政策との出会い①【グループワークのガイダンス】
- 7回 政策との出会い②【調査】【データ収集】【解決策の立案】【プレゼン】【準備】
- 8回 政策との出会い③【調査】【データ収集】【解決策の立案】【プレゼン】【発表本番】
- 9回 レポートへの挑戦①【レポートの書き方】
- 10回 レポートへの挑戦②【テキストの輪読】【基礎】
- 11回 レポートへの挑戦③【テキストの輪読】【応用】
- 12回 レポートテーマの報告①【構想発表】
- 13回 レポートテーマの報告②【経過報告】
- 14回 来年に向けて【将来の夢を語り合おう】
- 15回 1年の反省【政策入門演習の反省と来年の激励】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む積極性、報告の仕方・内容などを基準に判断します。何事にもがむしゃらで一生懸命な人は評価されます。ただ、「読書課題」は必須の要件です。
積極参加点+読書課題・・・50%、期末レポート・・・50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今回は政策入門演習Iと違い、事前準備が結構大変です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

"No pain, no gain"・・・ただ、それだけです。

キーワード /Keywords

政策入門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習は、政策入門演習Iで学んだ情報収集の仕方、資料や文献の読み込み、レジュメの作成、プレゼンテーションの仕方などのスキルを、ディベートによってさらに磨くことを目的とします。ディベートはテーマごとに、その賛否・可否のどちらかの立場に分かれて行う班対抗戦となりますが、ある個人の力量に頼るのではなく、同じチームのメンバー全員が議論の土台を作り、質疑を行うことを前提とします。また、ディベートを傍聴して、いずれの班の討論に説得されたか、というジャッジも受講生が互いに行うことで、議論の仕方・質疑の仕方についての客観的な意見の交換も行います。

また2学期のレポート課題のテーマは「私のキャリア・デザイン」を予定しています。自分の将来を想像し、どんな人生を送りたいのか、何をすれば希望の進路がとれるのか、を1年生の終わりに考えてみましょう。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じて適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 望月和彦 (2003) 『ディベートのすすめ』有斐閣選書
- 茂木秀昭 (2001) 『ザ・ディベート：自己責任時代の思考・表現技術』ちくま新書
- 酒井聡樹 (2007) 『これからレポート・卒論を書く若者のために』共立出版
(ディベートなどに必要な文献については適宜指示します。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----|---|
| 1回 | ガイダンス・ディベート班分け |
| 2回 | ディベート(Ⅰ期)のテーマの設定・対戦チーム決定 |
| 3回 | ディベート(Ⅰ期)のための準備(テーマについての情報収集・役割分担等) |
| 4回 | ディベートⅠ期 第一試合 |
| 5回 | ディベートⅠ期 第二試合 |
| 6回 | ディベートⅠ期 第三試合 |
| 7回 | ディベート(Ⅰ期)の講評・ディベート(Ⅱ期)の構成・テーマの設定 |
| 8回 | ディベート(Ⅱ期)のための準備(テーマについての情報収集・役割分担等) |
| 9回 | ディベートⅡ期 第一試合 |
| 10回 | ディベートⅡ期 第二試合 |
| 11回 | ディベートⅡ期 第三試合 |
| 12回 | ディベートの講評 |
| 13回 | レポート課題についての説明：自分の進路について考えよう【キャリア・デザイン】【キャリア・パス】 |
| 14回 | プレゼンテーションについて：プレゼンテーションに必要なスキルとは？【シンプル】【明瞭】【整然】 |
| 15回 | まとめ |

成績評価の方法 /Assessment Method

課題50%、議論・質疑応答への参加50%
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

入門演習IIを受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ入門演習Iと同様に、社会で起きていることに常に興味を持って生活して欲しいと思います。ごく身近なことでもいいですし、自分とは直接関係はない事柄でも構いません。外の世界に興味を持つこと、疑問を抱くこと、自分で調べてみる、ひとに聞いてみる、ここから大学における勉強のすべてが始まるといっても過言ではありません。あなたの好奇心、これがこの演習でも活かされるはずですよ。

履修上の注意 /Remarks

政策入門演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディベートという特殊な議論の仕方を通じて、各自、自分にとっての得意と苦手を自覚できればと思っています。主張も質問も反論も、すべて最初から上手である必要はありません。どのように話せば第三者を説得できるのか、どのような準備をしてくればディベート本番で困惑しないのかといったことに加え、どうすれば自分は最も心地よく安定した状態で議論ができるのか、というコミュニケーション上のヒントを掴んでもらえればベストです。また2学期のレポート課題のテーマは「私のキャリア・デザイン」。入門演習で主に扱ってきた社会的な問題を考えるという観点とはちょっと趣が違う、と思われるかもしれませんが、自分の将来を描き、なりたい人になる、就きたい職業に就くためには何が必要なのかを考えることも「社会科学」につながります。

キーワード /Keywords

政策入門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要とされる「読むこと・書くこと」に関するスキルの基礎を身に着けることを目指します。自分の選んだテーマについて、実際に資料を読み、一本の論文を完成させることによって、スキルの着実な向上を目指します。なお、授業の内容は、履修者の要望やスキル習得の状況に合わせて変更することがあります。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』、松本茂・河野哲也 著、玉川大学出版部。
『アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門 (第2版)』、佐藤望他 著、慶應義塾大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何を読めばよいのか
- 第2回 本・論文の読み方
- 第3回 読むことから書くことへ
- 第4回 レポート・論文を書くためには
- 第5回 論文のテーマを考える
- 第6回 「ブレイン・ストーミング」のテクニック
- 第7回 論文の書き方I
- 第8回 論文の書き方II
- 第9回 論文の書き方III
- 第10回 論文のテーマを決める
- 第11回 論文作成の実際
- 第12回 論文の中間報告I
- 第13回 論文の中間報告II
- 第14回 論文の中間報告III
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、論文...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文作成。

履修上の注意 /Remarks

授業では積極的に疑問・要望を知らせてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策分析入門 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会で起きている様々な現象や問題を分析するための技術の習得を目的とします。人間同士のコミュニケーションが多様であるように、現代社会とのコミュニケーション、すなわち社会的な問題や人間がつくった組織や制度、政策、法律といったものへの「近付き方」も様々です。この社会への「近付き方」を知り、変化する「人間がつくったもの」への改善策や解決策を提示するための基礎を構築するのが「政策分析入門」となります。分析手法を、大きく質的な方法と量的な方法に分けて検討していきますが、ひとつの「近付き方」が唯一無二の方法ではないこと、また分析したい対象をいかに明確するのか、どれだけ客観的に考察するのか、さらに出てきた結果をどう読み解くのか、といったことを3人の教員がそれぞれ、ダイナミックに扱っていきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
 - 佐藤郁哉(2002)『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
 - 小池和男(2000)『聞きとりの作法』東洋経済新報社
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 分析方法を知る前に(1) 【演繹と帰納】【理論と実証】
- 3回 分析方法を知る前に(2) 【リサーチ・クエスチョン】【因果関係】
- 4回 質的な分析(1) フィールドワークにでかけよう
- 5回 質的な分析(2) 観察結果の比較
- 6回 質的な分析(3) 聞きとりの技法
- 7回 質的な分析(4) 分厚い記述・薄い記述
- 8回 質的研究と量的研究の「交差点」
- 9回 量的な分析(1) 数字の意味をとらえよう
- 10回 量的な分析(2) 数値データの利用と構築I【集合データ】【個票データ】【操作化】
- 11回 量的な分析(3) 数値データの利用と構築II【社会調査】【キャリアオーバー効果】【ダブル・バーレル】
- 12回 量的な分析(4) 計量的なデータ分析I【データの整理】【視覚化】
- 13回 量的な分析(5) 計量的なデータ分析II【記述統計量】【度数分布】
- 14回 分析方法の選択
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・貢献度合い40%、課題60%
(遅刻厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政策科学入門」「政策入門演習I」で学んだことをふまえて、本授業では色々な分析方法を扱っていきます(「政策科学入門」「政策入門演習I」を履修済みであることが受講条件ということではありません)。特段の準備は必要ありませんが、現状を把握したいとき、課題を解決するための方策を探りたいとき、その関心や方向性がひとによって多様であるように、分析方法もまた様々です。2013年度入学生にとっては2年次、2012年度以前入学生にとっては3年次から始まるゼミでの活動の土台をこの授業で作っていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

2013年度入学生には必修の科目で、毎回の出席が大前提の講義となります。
2012年度以前に入学生の方にとっては選択必修の科目(政策理論科目)のひとつとなりますが、基本的に授業は積み上げ方式、すなわち前回以前の内容を受講生の共通理解として進めていきますので、休まず受講することが肝要です。

政策分析入門【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名
/Instructor

濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

本講義では、①現代政治に至るまでの国家と社会の変化、②構築されてきた制度、③制度の設計・維持に関わる人々（議員や市民）、④地方・国・国際等の異なるレベルの政治の関係を扱います。本講義を通じて、受講生が政治学の基礎的な概念を理解し、政治に対する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ（A3で2 - 3枚）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
講義時に適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	政治とは何か？	【権力】【権威】【正統性】
第3回	国家と社会①	【市民革命】【議会主義】【大衆社会】
第4回	国家と社会②	【行政国家】【福祉国家】
第5回	民主主義と自由主義	【自由民主主義】
第6回	政治制度①	【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
第7回	政治制度②	【小選挙区制】【比例代表制】【中選挙区制】【混合型】
第8回	政治制度③	【一院制】【二院制】【単一国家】【連邦制国家】
第9回	制度の視点	【拒否点】【制度補完性】【集権 - 分権】
第10回	デモクラシーと代表①	【代表性】【政党】
第11回	デモクラシーと代表②	【政党システム】【二大政党制】【多党制】
第12回	デモクラシーと代表③	【政治参加】【政治的社会化】
第13回	地方自治	【ガバナンス】
第14回	国際政治	【グローバルイゼーション】
第15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

試験（70%）、講義への参加態度（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

なし

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

政治に関わる人々は、何を考え、どのように行動しているのだろうか。人々の行動を左右する制度や文化にはどのようなものがあるのだろうか。本講義では、政治制度、政治に参加する人々への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ (A3で2-3枚) を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参照した教科書、関連する内容を含んだ、より詳細な文献の案内を講義中に行います

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 - 』有斐閣、2009年。
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛児・真淵勝『政治学』有斐閣、2011年。
伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 【政治システム】 【権力】
- 第2回 民主政治の諸制度(1) 【デュベルジェの法則】 【機械的效果】 【心理的效果】
- 第3回 民主政治の諸制度(2) 【議会の機能】 【変換型議会】 【アリーナ型議会】
- 第4回 政治文化 【政治的社会化】 【脱物質的価値観】
- 第5回 マスメディア 【疑似環境】 【議題設定効果】 【プライミング効果】
- 第6回 政治参加・投票行動(1) 【制度的参加】 【非制度的参加】
- 第7回 政治参加・投票行動(2) 【コロンビアモデル】 【ミシガンモデル】 【業績投票】
- 第8回 政治家・政党(1) 【大衆政党】 【包括政党】 【カルテル政党】
- 第9回 政治家・政党(2) 【ダウンズモデル】 【連合理論】
- 第10回 利益団体 【利益集団】 【集合行為論】
- 第11回 官僚制 【政治行政二分論】 【政治行政融合論】 【逆機能】
- 第12回 首相・大統領 【リーダーシップ】 【PM理論】
- 第13回 政治体制(1) 【権威主義体制】 【全体主義体制】
- 第14回 政治体制(2) 【自由民主主義体制】 【多極共存型民主主義】
- 第15回 地方政治・ガバナンス 【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

「政治過程論」は政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。そのため、日本政治への適用や日本の特徴については、「日本政治論」で詳しく講義します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋政治史 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この講義では、近代のヨーロッパにおいて主権国家体系が誕生し、その後紆余曲折を経て現在のEU（欧州連合）を生み出すことになった歴史を概観するとともに、EUにおける政策分野ごとの統合の進展を学ぶ。また欧州統合に対して、加盟国がどのような影響を与えてきたのか、主要国の立場の変遷についても検討する。さらに、EUの東方拡大とトルコの加盟問題についても考察する予定である。講義全体のキーワードは、EU、超国家的統合、地域統合、などである。

政策科学科のカリキュラムマップによると、この授業の主な到達目標は以下の2点である。

- ・ まちづくり、環境、社会保障など様々な公共政策分野の社会問題の解決に必要となる専門分野の知識を習得する。（専門分野の知識・理解）
- ・ 社会の諸問題に常に関心を持つ。（生涯学習力）

法律学科のカリキュラムマップによると、この授業の主な到達目標は以下の3点である。

- ・ 課題を自ら発見し、法的な分析と論理的な思考を駆使した総合的な判断を行い、問題解決方法を示す。（課題発見・分析・解決力）
- ・ 法的素養（リーガル・マインド）を身につけた市民として、社会的責任と倫理観を持ち、社会のために主体的に行動を起こす。（実践力（チャレンジ力））
- ・ 法と社会のつながりを理解し、社会の抱える諸問題に対して高い関心を持つ。（生涯学習力）

国際関係学科のカリキュラムマップによると、この授業の主な到達目標は以下の2点である。

- ・ 国際政治・経済問題、あるいはアジア太平洋地域の政治・外交など幅広く社会科学分野についての専門的知識を有し、個々の地域が持つ文化の特性について理解する。（専門分野の知識・理解）
- ・ 社会科学の立場から、自分の力で、情報の収集・分析や調査をする。（専門分野のスキル）

※この授業では、まちづくり、社会保障、法律は扱わない。

教科書 /Textbooks

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』[第2版]（芦書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 授業内容の説明、「ヨーロッパ」とは何か
- 2回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(1)【ウェストファリア条約】
- 3回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(2)【ヨーロッパ協調】
- 4回 ヨーロッパ統合の歴史【地域統合】【ECSC】【EEC】【EC】【EU】
- 5回 共通外交・安全保障政策の進展史【EDC】【EPC】【CFSP】【NATO】
- 6回 立憲体制と市民的自由の保障の拡大史【入国管理】【EU市民権】【欧州憲法】
- 7回 教育・文化交流政策の発展史【アイデンティティ】【ソフトパワー】【ヨーロッパ文化】
- 8回 「多様性の中の統合」の展開【補完性原理】【文化的多様性】【地域政策】
- 9回 フランス外交とヨーロッパ統合の関係史【ドゴール主義】【国家主権】【対独関係】
- 10回 ドイツのヨーロッパ統合への対応【半主権国家】【連邦】【東方政策】
- 11回 イギリスにおけるヨーロッパ政策の国内化【大西洋主義】【CFSP】【通貨統合】
- 12回 ベネルクス3国とヨーロッパ統合の関係史【小国】【超国家的統合】【ECSC】
- 13回 北欧諸国の対外政策とヨーロッパ政策の変遷【北欧協力】【福祉国家】【国民投票】
- 14回 ヨーロッパ統合のゆくえ【欧州憲法条約】【中東欧諸国】【トルコ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員に関する情報、講義の進め方、成績評価方法について初回の授業で説明するので、履修予定者は必ず出席すること。

授業前の予習は前提としないが、授業前後にテキストを一読しておくことより理解が深まる。

学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣
- 真淵勝 (2009) 『行政学』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

政策構想論 【昼】

担当者名 大澤 津 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

政策構想とは、社会の諸問題に政策を通じて適切に対処するために、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」を構想することです。履修者が自分自身の価値観に立って自分自身の政策構想を作り上げるための基礎力を身に付けることが、最終的な授業の目的です。授業では、まず、政策と価値はどのように関わっているのかを学びます。その上で、現代の政策の価値理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策構想が可能かを考えていきます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策構想とは何か
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 民主主義と政策構想
- 第4回 社会設計と政策構想
- 第5回 功利主義と政策構想
- 第6回 政策構想の3つの視点
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論
- 第8回 リバタリアニズムの基礎理論
- 第9回 コミュニタリアニズムの基礎理論
- 第10回 日本社会と政策構想
- 第11回 日本の雇用問題を考える
- 第12回 日本の医療問題を考える
- 第13回 日本の年金問題を考える
- 第14回 グローバル化と政策構想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80%
小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

キーワード /Keywords

福祉国家論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題点
- 第9回「医療保険」 医療と規制緩和
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。確定された成績評価基準は、第1回目の授業でお知らせします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

年金や医療について関心をもっておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

なぜ日本では首相の交代が多いのだろうか。なぜ自民党は長期間、政権を担っていたのだろうか。一方で、(多くの)人々はなぜ自民党を支持し、2009年には政権交代を選択したのだろうか。これらの問いは、本講義で扱う内容の一部である。

本講義では、日本政治に関する様々な問いを提示しながら、戦後日本政治への理解を深めることを目的とする。そのため、講義では①戦後日本政治の歴史、②比較の中で日本政治の特徴を理解することに重点をおく。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ (A3で2-3枚程度) を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に本講義の参考文献、関連する文献の紹介を行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	イントロダクション	
第2回	戦後から55年体制の形成	【占領改革】【冷戦構造】【吉田路線】【55年体制】
第3回	60年安保と高度経済成長	【60年安保】【高度経済成長】【革新自治体】
第4回	一党優位政党制	【一党優位政党制】【危機と補償】【補助金と規制】
第5回	自民党の組織的特徴	【後援会】【派閥】【族議員】【国対政治】
第6回	行政・司法	【省庁代表制】【天下り】【司法の独立】
第7回	社会集団	【利益団体】【二環構造】
第8回	投票行動	【バッファープレイヤー仮説】【業績投票】【争点投票】
第9回	冷戦構造の崩壊と政治改革	【規制緩和】【政権交代】【小選挙区比例代表並立制】
第10回	構造改革と政権交代	【構造改革】【小さな政府】【イデオロギー】
第11回	民主党の組織的特徴	【リクルートメント】【グループ】【旧党派】
第12回	民主党の政策的特徴	【裁量的政策】【普遍的政策】
第13回	市民社会	【自治会】【企業】【NPO】
第14回	政治参加・マスメディア	【制度的参加】【政治忌避感】【テレポリティクス】
第15回	日本の政治	【制度補完性】【リーダーシップ】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

「政治過程論」は、政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。本講義では、日本政治に関する事実の理解に重点があります。そのため、「政治過程論」と共に履修することで、より理解が深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。

この講義では、都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。

併せて、技術系企業の活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 大まかな地方財政制度に関する専門知識と実態を理解する。
- ② 地域の技術系企業に関する実態を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①3人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにして考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 NPOの基礎知識(3)
- 11回 第5回講演会
- 12回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書は変更する可能性もありますので第1回の講義には必ずご参加ください。また、本年は担当教員が3人のため、授業内容の変更等がありますのでご了承下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシーNPO、ミッション、寄付

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本における法観念の歴史を考察し、法の継受と立法の歴史から現代の日本法を考えることを機軸にすえ、さらに法の存在形態、解釈等、法学の基礎的な知識の習得を目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 法とその他の社会規範
- 3回 法の分類
- 4回 日本人の歴史的法観念・前近代
- 5回 日本人の歴史的法観念・近代
- 6回 法系と日本法
- 7回 法系と法思考・裁判の諸類型
- 8回 近代法成立前史・法の存在形態
- 9回 近代法成立前史・法運用
- 10回 近代日本の成熟
- 11回 敗戦と日本法
- 12回 戦後改革
- 13回 新憲法
- 14回 法の支配
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを使用しませんので、復習が重要です

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各講義へ進んでいってもらいたい。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）
- 芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か
- 第2回 憲法史概論
- 第3回 日本国憲法制定史①-明治憲法から日本国憲法へ
- 第4回 日本国憲法制定史②-マッカーサー草案から新憲法公布まで
- 第5回 国民主権
- 第6回 平和主義①-その歴史性
- 第7回 平和主義②-日本の安全保障と平和主義
- 第8回 基本的人権の体系
- 第9回 自由権①-精神的自由
- 第10回 自由権②-その他の自由権
- 第11回 社会権など
- 第12回 日本国憲法の統治構造①-権力分立
- 第13回 日本国憲法の統治構造②-議院内閣制
- 第14回 地方自治
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を指定しているので、次回講義の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 平和主義 基本的人権 統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①(生存権・教育を受ける権利)
- 第12回 社会権②(労働基本権)・受益権
- 第13回 参政権
- 第14回 人身の自由
- 第15回 違憲審査基準論の展開

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、体系的思考力・法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、体系的思考力・刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説[総論]』(成文堂)2008年10月、2500円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論[第5版]』(有斐閣)平成15年4月、2105円+税
立石二六編『刑法総論30講』(成文堂)平成19年3月(出版予定)、2800円+税
齊藤誠二編『演習ノート刑法総論[全訂第3版]』(法学書院)平成15年3月
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回 刑法典の沿革【公事方御定書から現行刑法典の歴史】
 - 第2回 犯罪とは?【犯罪の意義・意味】
 - 第3回 刑法学派の争い①【主観主義刑法理論】
 - 第4回 刑法学派の争い②【客観主義刑法理論】
 - 第5回 罪刑法定主義とその派生原則①【類推解釈】【遡及処罰の禁止】【慣習法の排斥】【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】
 - 第6回 罪刑法定主義とその派生原則②【構成要件の明確性】【実体的デュープロセス】
 - 第7回 犯罪の分類【結果犯】【挙動犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】【即成犯】【状態犯】【継続犯】
 - 第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
 - 第9回 行為論①【作為】【不作為】【作為犯】【不作為犯】【不真正不作為犯】
 - 第10回 行為論②【不真正不作為犯】【作為義務】
 - 第11回 構成要件論①【構成要件の概念】
 - 第12回 構成要件論②【認識根拠説】【实在根拠説】
 - 第13回 違法論①【違法の本質】【主観的違法性説】【客観的違法性説】
 - 第14回 違法論②【結果無価値】【行為無価値】【可罰的違法性】【社会的相当性】【許可された危険】
 - 第15回 違法性阻却事由①【正当行為】【正当防衛】【対物防衛】【過剰防衛】【挑発防衛】【誤想防衛】
 - 第16回 違法性阻却事由②【緊急避難】【過剰避難】【攻撃的緊急避難】【防衛的緊急避難】
 - 第17回 違法性阻却事由③【自衛行為】【被害者の承諾】
 - 第18回 責任論①【責任能力】【原因において自由な行為】
 - 第19回 責任論②【故意】【過失】
 - 第20回 責任論③【錯誤】【事実の錯誤】【法律の錯誤・違法性の錯誤】
 - 第21回 未遂論①【実行の着手】【離隔犯】【間接正犯】【原因において自由な行為】
 - 第22回 未遂論②【不能犯】【中止犯】
 - 第23回 共犯論①【共犯学説】【共犯の処罰根拠】
 - 第24回 共犯論②【共同正犯】【共謀共同正犯】【教唆犯】【従犯】
 - 第25回 共犯論③【共犯独立性】【共犯従属性】【間接正犯】
 - 第26回 共犯論④【共犯と身分】【構成的身分】【加減的身分】
 - 第27回 共犯の諸問題①【承継的共犯】【片面的共犯】【必要的共犯】
 - 第28回 共犯の諸問題②【不作為と共犯】【結果的加重犯と共犯】【共犯と錯誤】
 - 第29回 共犯の諸問題③【共犯と中止犯】【予備の共犯】
 - 第30回 罪数論【本来の一罪】【科刑上一罪】【包括一罪】【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(学期末試験100%)で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連: 法学、刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですし、また、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

刑法犯罪論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教科書のみならず、種々の参考文献を読んで、予習・復習することが必要です。判例は、自分で読んでおきましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、2年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。

一般に「社会人」と呼ばれる人々はどういう人々だろうか？ 皆さんは「学生」で「社会人」とは呼ばれない（むしろ、中には「社会人」の方々もおられるが）。つまり、一般には、「社会人」とは、働いている＝労働している人々を指していると考えられる。この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず出席すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。

おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

- 第1回 イントロダクション～「社会法」とは？
- 第2回 労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
- 第3回 労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
- 第4回 労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
- 第5回 労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
- 第6回 労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
- 第7回 労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
- 第8回 社会保障法の世界①～労災保険って？
- 第9回 社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
- 第10回 社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
- 第11回 社会保障法の世界④～雇用保険って？
- 第12回 社会保障法の世界⑤～基本手当①【支給要件】
- 第13回 社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
- 第14回 労働法・社会保障法領域における近年の動向
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験により評価する。
* 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1学期(ペア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家庭生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分(財産法)の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思います。

到達目標は以下の通りです。

- ・民法に共通する諸概念や民法の基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・民法に共通する諸制度の内容、社会における運用状況を知り、法的な問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・講義で得た知識が日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考える上での基盤となっていることを知っていただきます。

教科書 /Textbooks

川井健著『民法概論1 民法総則[第4版]』有斐閣 2008年 3,990円
中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選①総則・物権[第6版]』有斐閣 2009年 2,095円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 内田 貴『民法I[第3版]総則・物権総論』東京大学出版会 2005年 3,200円
- 川島武宜『民法総則』有斐閣 1965年
- 四宮和夫=能見善久『民法総則 第7版』弘文堂 2005年 3,200円
- 我妻 栄『新訂民法総則(民法講義I)』岩波書店1965年 3,900円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
- 2回 民法上の権利義務、権利の相対性
- 3回 権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
- 4回 制限行為能力者制度①【未成年】
- 5回 制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
- 6回 制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
- 7回 法人の必要と役割、法人の種類
- 8回 法人の設立、組織
- 9回 権利の客体 - 「物」
- 10回 法律行為 - 種類と解釈
- 11回 法律行為の有効要件
- 12回 法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
- 13回 法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
- 14回 法律行為の構成要素 - 意思表示
- 15回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
- 16回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
- 17回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認・困惑】
- 18回 代理制度、表見代理と無権代理
- 19回 表見代理①代理権授与の表示による表見代理
- 20回 表見代理②権限踰越の表見代理
- 21回 表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
- 22回 無権代理
- 23回 無権代理と相続
- 24回 無効と取り消し
- 25回 条件と期限
- 26回 時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
- 27回 時効制度②【時効の援用・放棄】
- 28回 時効制度③【時効の中断・停止】
- 29回 取得時効
- 30回 消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題……20% 定期試験……80%

民法総則【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではレジュメを配布しますが、教科書の他に毎回必ず六法も持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民法典は、その第二編において、一定の物を直接に支配して利益を受ける排他的権利として、「物権」に関する規定を設けている（民法175条～398条の22）。本講義では、講学上、「物権（法）総論」と呼ばれる、①物権の性質、②その効力、および③その変動に関する一般原則を明らかにする領域と、「物権（法）各論」と呼ばれる、個々の物権に関して、その成立・効力・消滅に関するルールを明らかにする領域（本講義では、特に、所有権、占有権、および用益物権に重点を置く。）を講義する。

また、本講義では、物権に関わる民法典の諸規定の基本理念・解釈（論）を解説し、物権法制の基本構造について理解を深めていただく。なお、担保物権（債権の履行の確保のために、目的物の交換価値を支配する物権である、と一応定義することができよう。）に関しても、その概要を解説し、物権全体の有機的関連および現代社会における物権の役割を理解できるようになっていただく。そのためにも、具体的事案をできるだけ用いて講義するよう努めたい。

教科書 /Textbooks

- ①河上正二『物権法講義』（日本評論社、2012年）；定価（3,300円＋税）
※担保物権の部分については、教科書①を用いず、レジュメのみで講義を行う。
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選I総則・物権[第6版]（別冊ジュリストNo.195）』（有斐閣、2009年）；定価（2,095円＋税）
- ③最新版（年度）の小型六法
※上記「3点セット」を必ず購入・毎回持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石崎泰雄ほか（編著）『新民法講義2 物権・担保物権法』（成文堂、2010年）；定価（3,500円＋税）をさしあたり挙げておく。その他の参考書については、レジュメの【文献案内】欄で紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジュメを配布するけれども、教科書等での予習・復習は必須である。レジュメは、あくまで「補助教材」でしかないことに注意すること（【】内はキーワード）。

- 第1回 物権法序論【債権との違い】【用益物権】【担保物権】【物権法定主義】【一物一権主義】
- 第2回 所有権①【所有権の特徴】【相隣関係】【物権的請求権】
- 第3回 所有権②【承継取得・原始取得】【共有】【持分権】【合有・総有】
- 第4回 物権変動入門【物権変動に関する意思主義と形式主義】【所有権の移転時期】【対抗要件主義】【「対抗できない」とは？】【公示の原則と公信の原則】
- 第5回 不動産物権変動①【不動産登記法】【中間省略登記】【仮登記】【変動原因無制限説】【民法177条】
- 第6回 不動産物権変動②【取消しと登記】【相続と登記】
- 第7回 不動産物権変動③【取得時効と登記】【「第三者」の意味】【無制限説から制限説へ】【背信的悪意者】
- 第8回 動産物権変動①【引渡し】【占有改定と指図による占有移転】
- 第9回 動産物権変動②【即時取得】
- 第10回 占有権【直接占有・間接占有】【自主占有・他主占有】【占有訴権】【交互侵奪】
- 第11回 用益物権【地上権】【永小作権】【地役権】【入会権】
- 第12回 担保物権入門【担保物権の効力】【担保物権の通有性】【抵当権】【物上代位】※この回以降はレジュメのみで講義。
- 第13回 抵当権【抵当権侵害】【利用権との調整】【代価弁済】【抵当権消滅請求】
- 第14回 抵当権以外の担保物権【質権】【先取特権】【留置権】【非典型担保】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※期末定期試験（60分間）...90%
- ※抜打ち小テスト（45分間を予定）...10%
- ※上記の合算で評価する。一夜漬け程度の勉強では単位取得は到底不可能である。世の中は甘くない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「予習・復習」を心がけること。教科書①の頁を指定するので、次の回までに必ず熟読してくる。また、「民法総則」の内容を復習しておく、本講義の理解がより深まるであろう。

履修上の注意 /Remarks

「民法総則」を履修していない場合、本講義の理解は困難なものとなるであろう。したがって、自学習でよいから、民法総則の内容を学習しておくことを勧める。

物権法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等を利用して、積極的に質問等をしてください。お待ちしております。

キーワード /Keywords

債権各論【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第二章～第五章（民法521条～724条）において、「債権の発生原因」である、①契約、②事務管理、③不当利得、そして④不法行為に関する諸規定を設けている。本講義のねらいは、これら①～④の法制度の基本構造およびこれらの法制度を定める重要条文に関わる解釈（論）について、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているかということについて、理解を深めてもらうことにある。とりわけ、われわれの日常生活の一部を形成しているとすらいえる「契約（たとえば、コンビニでおにぎりを1つ買ったということは、おにぎりについての売買契約を締結し、そこから発生する義務（おにぎりの引渡しと代金支払い）が履行されたということになる。）」および現代社会において不可避免的に発生する「不法行為（たとえば、交通事故がその代表例である。）」の解説に重点を置く。

教科書 /Textbooks

- ①内田貴『民法II[第3版]債権各論』（東京大学出版会、2011年）；定価（3,600円＋税）
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選II債権[第6版]（別冊ジュリストNo.196）』（有斐閣、2009年）；定価（2,095円＋税）
- ③最新版（年度）の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※さしあたり、本田純一『債権各論（新・論点講義シリーズ8）』（弘文堂、2010年）；定価（3,000円＋税）を挙げておく。その他の参考書については、講義の際に配布するレジユメの【文献案内】欄で紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジユメを配布するが、テキストでの予習・復習は必須である。レジユメは、あくまで「補助教材」でしかないことに留意すること。

- 第1回 序論（債権各論で学ぶこと、債権の発生原因としての契約、事務管理、不当利得、そして不法行為）
- 第2回 契約総論①；序説（契約の意義・社会的機能、契約自由の原則とその制限、契約の種類・分類）
- 第3回 契約総論②；契約締結上の過失、申込みと承諾の合致、事情変更の原則、懸賞広告
- 第4回 契約総論③；同時履行の抗弁（権）
- 第5回 契約総論④；同時履行の抗弁（権）に関わる判例の検討
- 第6回 契約総論⑤；危険負担（存続上の牽連性、債務者主義と債権者主義）
- 第7回 契約総論⑥；危険負担（債権者主義危険負担の問題点など）
- 第8回 契約総論⑦；第三者のためにする契約
- 第9回 契約総論⑧；契約の解除（基礎理論、要件論）
- 第10回 契約総論⑨；完；契約の解除（要件論のつづき、効果論、民法（債権法）改正と解除）
- 第11回 契約各論①；契約の分類の復習、贈与、交換
- 第12回 契約各論②；売買（意義および成立要件）
- 第13回 契約各論③；売買（担保責任概説）
- 第14回 契約各論④；売買（瑕疵担保責任〔論〕）
- 第15回 契約各論⑤；消費貸借（民法上の規定を中心に）
- 第16回 契約各論⑥；消費貸借（利息制限法など特別法、業法を中心に）、使用貸借
- 第17回 契約各論⑦；賃貸借（民法上の規定）
- 第18回 契約各論⑧；賃貸借（借地借家法概説）
- 第19回 契約各論⑨；請負
- 第20回 契約各論⑩；委任、雇用
- 第21回 契約各論⑪；完；寄託、組合、終身定期金、和解
- 第22回 法定債権関係入門；事務管理を中心に
- 第23回 法定債権関係①；不当利得（給付利得、侵害利得、非償弁済）
- 第24回 法定債権関係②；不当利得（不法原因給付、転用物訴権）
- 第25回 法定債権関係③；不法行為（不法行為制度の目的、一般的不法行為の要件〔序論〕）
- 第26回 法定債権関係④；不法行為（一般的不法行為の要件：故意・過失、責任能力、権利・利益侵害、事実に因果関係、損害の発生）
- 第27回 法定債権関係⑤；不法行為（一般的不法行為の要件のまとめ、不法行為の効果〔序論〕）
- 第28回 法定債権関係⑥；不法行為（不法行為の効果～損害賠償の範囲を中心に～、過失相殺など）
- 第29回 法定債権関係⑦；不法行為（特殊的不法行為：使用者責任、工作物責任、共同不法行為など）
- 第30回 法定債権関係⑧；完；不法行為（特殊的不法行為の残りの部分）および「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

※期末定期試験の成績（80分間）...100%のみで評価する。いわゆる「一夜漬け」では、単位取得は困難と心得よ。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

債権各論【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「予習・復習」を常に心がけること。教科書①の頁を指示するので、次の週までに熟読（無理な場合はざっと目を通すだけでもよい。）して
ること。

履修上の注意 /Remarks

「民法総則」を履修済みであると、本講義の理解が確実なものとなる。さらに、「物権法」を併せて履修すれば、本講義の理解が一層深まる
であろう。反対に、「民法総則」を全く学習していない場合、本講義の理解は、きわめて困難なものとなる。したがって、自学習でよいから
、「民法総則」の内容をフォローしておくことを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等を利用して、積極的に質問をしてください。また、友だちと勉強会などをすると、知識の共有ができて良いと思われま
す。

キーワード /Keywords

債権の発生原因、契約、不法行為

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしなければよいか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

課題
教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

目標
①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。

本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼の役割

第11回 不幸への対処と文化

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは

第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

異文化理解の基礎【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験はいずれも難度の高いものであり、単位取得のためには相当な努力が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-3回 安全保障と防衛
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム、安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取り組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物はどのような物質からできていて、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では生命を物質的な側面からとらえ、生きているということについて科学する。また、生物多様性の大切さ、多様性と進化の原動力となった突然変異とその影響について学ぶ。また、生命と環境がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「文系のための生命科学 第二版」 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)
 - 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)
 - 「生物と無生物のあいだ」 福岡伸一著 2007年(講談社)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ミクロとマクロの世界【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ【全球凍結】
- 7回 生物の分類と系統【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性【有性生殖】【染色体】【細胞分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線【放射性同位元素】【確率的影響】
- 11回 科学と似非科学【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト20点x3回、期末レポート30点、積極的な授業への参加10点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。興味がある者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合い適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、情報漏洩、著作権問題】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト、文字コード】
- 4回 コンピュータを構成するもの【CPU、メモリ、記憶メディア、キーボード、マウス、ディスプレイ】
- 5回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション】
- 6回 電話網とインターネットの違い【回線、パケット、LAN、IPアドレス】
- 7回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 8回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 9回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 10回 自分を守るための知識【暗号化、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 11回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 12回 集合知の可能性とネットワークサービス【Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 13回 著作権をめぐる攻防【著作権、オープンソース、クリエイティブコモンズ】
- 14回 大規模データがもたらすもの【検索エンジン、データベース、データマイニング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

本講義では「自然環境を保護する」という考え方や行為に対し、正しい理解を身に着けることを目的とする。
具体的には以下の5つの論点を提示し、詳細な解説を行うことによって、環境問題と向き合う際に必要となる基礎的知識の充足を目指す。

1. 現代社会における自然とのかかわり方について - 自然と人間の共生を考える -
2. 自然環境保護活動の歴史 - 人間はどのように自然を守ってきたか -
3. 環境問題の解決に向けて - 自然環境を守っていくための考え方 -
4. 具体的事例への言及 - 白神山地の保護をめぐる論争 -
5. 現代社会における自然環境保護とは - 我々にできることは何か？を考える -

教科書 /Textbooks

『自然保護を問い直す—環境倫理とネットワーク』（鬼頭秀一 著）ちくま新書 ¥760+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『環境問題とは何か』（富山和子 著）PHP新書 ¥660+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間と自然との共生とは何か
- 第3回 自然を支配しようとする人間 - 人間中心主義という考え方 -
- 第4回 自然の権利とは何か - 動植物にも生きる「権利」があるのか？ -
- 第5回 「宇宙船地球号」と「共有地（コモンズ）の悲劇」について
- 第6回 デイブ・エコロジーとは何か - 人間と自然は本当に対立するのか？ -
- 第7回 自然の価値とは何か - なぜ、人間は自然を守らなければならないのか？ -
- 第8回 小テストとその解説
- 第9回 「生業」と「生活」の視点から環境問題を考える
- 第10回 遊び・仕事・分配の営みが自然環境を守る
- 第11回 白神山地の保護をめぐる論争
- 第12回 世界自然遺産指定をめぐる春秋林道の問題
- 第13回 地域社会は「よそ者」にどう対処すべきか
- 第14回 現代社会において、我々ができる環境保護活動とは何か
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30%、日常の授業への取り組み：20%、学期末試験：50%
(※なお、小テストを未受験者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【夜】

担当者名
/Instructor

馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ 大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか?さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ:「言葉の力」文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- 1 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- 2 「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- 3 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
 - 2回 岩本(文学部比較文化学科)
 - 3回 岩本
 - 4回 馬場(文学部比較文化学科)
 - 5回 馬場
 - 6回 田部井(文学部比較文化学科)
 - 7回 田部井
 - 8回 福島(文学部比較文化学科)
 - 9回 福島
 - 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
 - 11回 伊藤
 - 12回 五月女(文学部比較文化学科)
 - 13回 五月女
 - 14回 木原(外国語学部英米学科)
 - 15回 木原
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に関する問い合わせはコーディネーターの馬場まで

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
- 第2回 民主主義の理論の比較・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
- 第5回 民主主義理論の比較のまとめ
- 第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第7回 民主主義の運動（組織）の比較・1989年の東欧革命について
- 第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
- 第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
- 第11回 民主主義の制度の比較について・議院内閣制と大統領制
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

- 1) 新聞を開けば、社会調査の結果が載っていない日はないかもしれない。我々は新聞やテレビやインターネットなどを通して、膨大な調査結果や統計データに日々、さらされている。社会調査から生み出されるこれらの情報や知見や現状分析(認識)などを批判的に読み込む力を培う。
- 2) また、社会調査の方法を学ぶことは、社会科学の問題構築、仮説検討、現状分析などのよき入門(つまり、社会科学のよき入門)ともなる。
- 本講義では社会調査の基礎を学ぶが、上記の二つをねらった講義を計画している。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(あるいは定期試験の時に課題提出)・・・70%、
 普段の授業への取り組み・・・30%
 * 授業出席不振の学生には単位は認定しません。
 * 成績評価の詳細は初回の授業でお話します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から社会的な事象や問題に関心をもっておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査、質的社会調査、量的社会調査、社会的世界

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (= ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物を通して。日常的に観察される買い物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。→「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家 と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

現代の国際情勢【夜】

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生 「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織 「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答を出してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度指定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』のシリーズ(授業の該当国)、明石書店
(特に、米国、韓国、ミャンマーやバングラデシュ版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって 担当: 三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当: 伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当: 伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当: 伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
担当: チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
【バングラデシュ】 担当: チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当: チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動としめ社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当: チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当: 申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当: 申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当: 申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当: 三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当: 三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当: 三宅
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な国々を対象とするので、参考書は読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各教員が対象国での研究や生活経験が長いので、現場に由来する非常に面白い事項を盛り込み授業を展開する予定。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジアの特異性について明らかにし、更には、それを通じて東アジアの今後の在り方を自らで模索出来る能力を養うことを目指す。
一般的に中国の歴史といえば、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の諸民族を吸収・同化しつつ、変容を繰り返しているのである。また、近隣諸民族もその影響を受けつつ、オリジナルな国家形成を行っているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。
よって、ここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐による世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく、東アジアという包括的な視座に置き、各時代の政治・経済・外交・思想・文化等の多角的な方面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

堀敏一『中国通史 - 問題史としてみる - 』(講談社学術文庫 2000年 1260円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方遊牧騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と近隣諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱以降における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度...20%・定期試験...80%
双方向の講義が目的であるため、毎回、出席感想カードを配布・回収する。
特に、講師及び他の学生の集中力を削ぐ行為(私語・音楽を聴く等)は授業妨害とみなし、これを強く禁止すると共に、違反する者には厳しい措置を取る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては、参考書として紹介しているものをあらかじめ読んでおく。
復習としては、講義中に配布するプリントを見直しておく。

履修上の注意 /Remarks

出来れば高校において世界史B及び日本史Bを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【バックス・モンゴリカ】
- 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界【港市国家】
- 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
- 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
- 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
- 6回 ポルトガル海洋帝国の形成①【香辛料】
- 7回 ポルトガル海洋帝国の形成②【点と線の支配】
- 8回 スペインによる植民地帝国の形成①【ポトシ】
- 9回 スペインによる植民地帝国の形成②【モナルキア・イスパニカ】
- 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
- 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
- 12回 環大西洋世界の展開①【第二次英仏百年戦争】
- 13回 環大西洋世界の展開②【環大西洋革命】
- 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海【近代世界システム】
- 15回 まとめ【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、ヨーロッパ地域の地誌をテーマとして扱う。ヨーロッパ地域は、古くから世界の政治・経済・文化の中心地であり続けてきた。20世紀後半以降、アメリカや日本・中国をはじめとする東アジア地域の台頭に伴い、その立場には変化が見られているものの、現在でもなお世界に大きな影響力を有している地域の一つであるといえる。ヨーロッパの経済のみならず、政治・文化や自然環境をも含めた総合的な地誌の理解に努めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

加賀美雅弘 編(2011)『世界地誌シリーズ3 EU』朝倉書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション
- (2) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性① - 地形・気候
- (3) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性② - 人種・民族、産業
- (4) 世界の自然・人文環境とグローバルな関係性③ - 人口、交通、国家群
- (5) 総論-統合に向かうヨーロッパの地域特性 (テキスト1章)
- (6) 自然環境と伝統的農業 (テキスト2章)
- (7) 工業地域の形成と発展 (テキスト3章)
- (8) 都市の形成と再生 (テキスト4章)
- (9) 観光地域と観光客流動 (テキスト5章)
- (10) 移民と社会問題 (テキスト6章)
- (11) 地域主義と民族集団 (テキスト7章)
- (12) 東ヨーロッパの農村の変化と特色 (テキスト8章)
- (13) EU市民の暮らし (テキスト9章)
- (14) 統合するヨーロッパと国境地域 (テキスト10章)
- (15) 世界のなかのEU (テキスト11章)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、教科書の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
同一性の視点から ・遊びと人生
配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

NPO論【夜】

担当者名 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにして考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 NPOの基礎知識(3)
- 11回 第5回講演会
- 12回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書は変更する可能性もありますので第1回の講義には必ずご参加ください。また、本年は担当教員が3人のため、授業内容の変更等がありますのでご了承下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、環境NPO、アドボカシーNPO

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、法に関する基礎的な見方などについて講義を行い、法律についての一般的な考えなどを修得することを目的にします。現在、国民生活の多くの場面に法律が存在し、多くの諸問題が法のルールによって解決されるような、いわゆる「法化社会」の現象があり、社会生活の中で法律を理解することは必要になって来ると言えます。本講義では、まず、法に関する一般的な考えについて触れていきます。いくつかの項目を挙げ、法に関する一般的理解が出来るように講義を進めていきたいと思ひます。その後、いくつかの分野を取り上げて、その分野での法律を少し具体的に示しながら、法律についての具体像を把握できるように、講義を進めていきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

星野英一著『法学入門』有斐閣（2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

刑事関係に関しては、三井誠・酒巻匡著『入門刑事手続法』有斐閣（第5版）（2900円＋税）、福井厚著『刑事法学入門』法律文化社（第2版）（1900円＋税）等。その他、適宜指定したいと思ひます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「法化社会」と法源
- 第2回 法と社会規範
- 第3回 法の理念
- 第4回 法の解釈と適用
- 第5回 法の種類と階層性
- 第6回 法と歴史
- 第7回 法と国家機構
- 第8回 法と人権
- 第9回 法と教育
- 第10回 法と労働
- 第11回 法と市民生活
- 第12回 法と紛争解決
- 第13回 法と犯罪
- 第14回 法と刑事裁判
- 第15回 法と国際化

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容に関する教科書の該当部分等について、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①(生存権・教育を受ける権利)
- 第12回 社会権②(労働基本権)・受益権
- 第13回 参政権
- 第14回 人身の自由
- 第15回 違憲審査基準論の展開

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【夜】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代社会では、大学卒業後あるいは高校卒業後に何らかの仕事に就いて生計を立てることになる人が多く、仕事にかかわる法規制をどのように考えるかが重要な問題となっています。本講義では、仕事にかかわる法規制、失業期間中の所得保障や引退後の所得保障に関する法規制の基本的な仕組みを理解することを主眼に置きつつ、仕事にかかわる法規制がなぜ必要なのか、憲法や民法といった基本法が労働法や社会保障法といった先端法学とどのように関わっているか等を学びます。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』(弘文堂、2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 社会法とは—社会権の位置付け
- 2 社会法としての労働法と社会保障法
- 3 採用をめぐる法律問題
- 4 労働組合への加入
- 5 団体交渉
- 6 不当労働行為
- 7 争議行為、組合活動
- 8 会社におけるキャリアの展開
- 9 労働時間
- 10 年次有給休暇
- 11 会社における安全と衛生
- 12 解雇
- 13 非正規労働をめぐる法律問題
- 14 失業保険制度
- 15 老後の所得保障

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して授業に持参するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

課題

教育に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育における問題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords